

発掘調査報告第18集

駒ヶ根東部土地改良区東部地区県営は場整備事業(昭和59年度分)埋蔵文化財緊急発掘調査

青木城遺跡

1985

南信土地改良事務所
駒ヶ根市教育委員会

発掘調査報告第18集

駒ヶ根東部土地改良区東部地区県営ほ場整備事業(昭和59年度分)埋蔵文化財緊急発掘調査

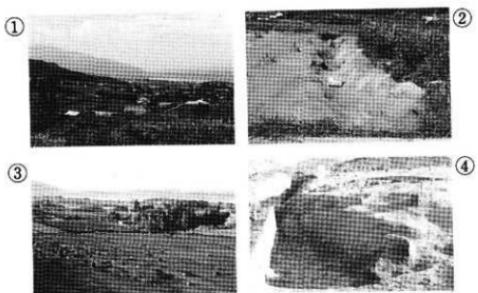
青木城遺跡

1985

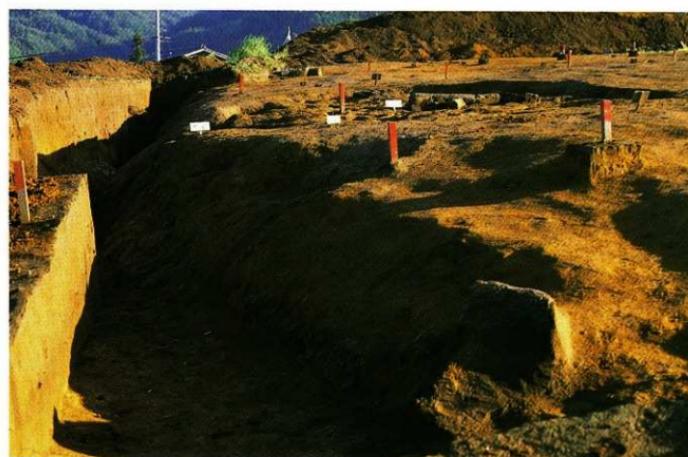
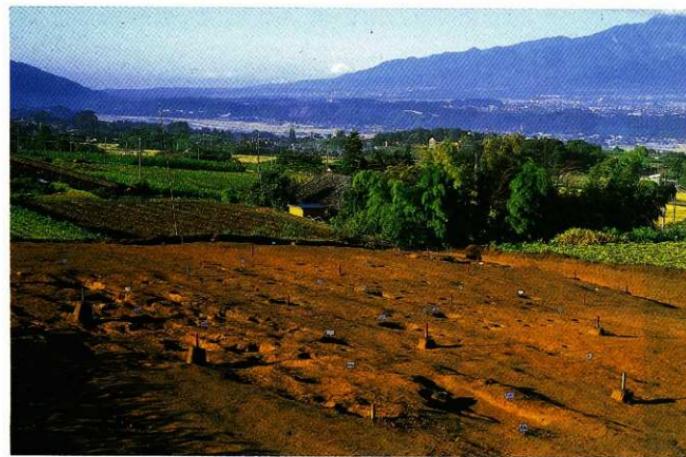
南信土地改良事務所
駒ヶ根市教育委員会

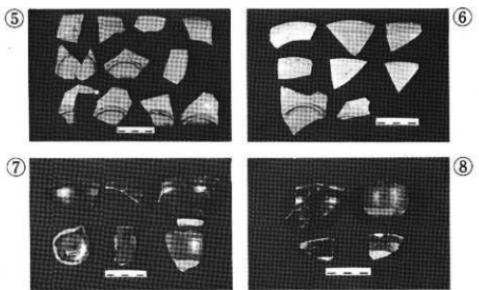
青木城遺跡

I



①青木城遺跡全景（北東より）
②青木城遺跡B地区縦堀（東より）
③調査D地区遺構全景（北東より）
④D地区横堀（南より）



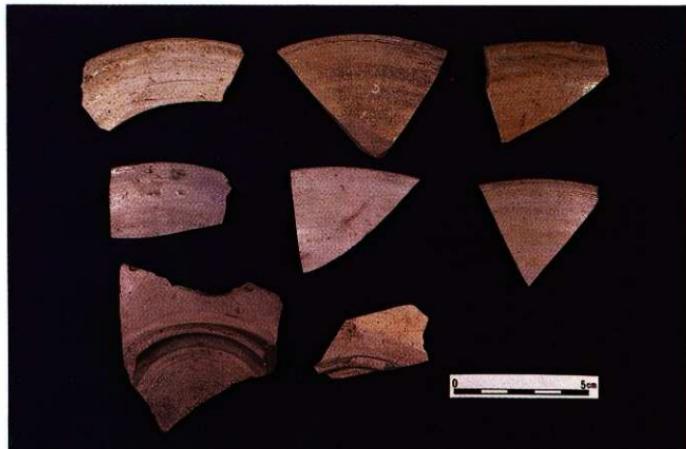


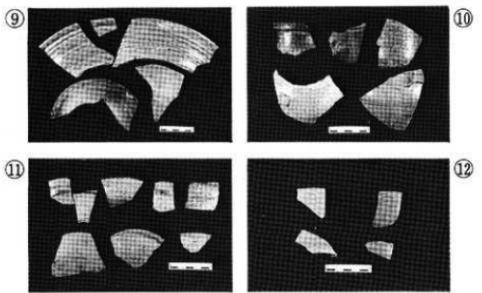
⑤灰釉碗・皿 (10C ~ 11C)

⑥ " (10C ~ 11C)

⑦天目茶碗 (15C)

⑧天目茶碗・茶入・棱皿 (16C)





⑨古瀬戸灰釉〈折縁深皿、鉢皿〉(15C)

⑩ " 〈壺・四耳壺〉(15C)

⑪ " 〈碗・皿・縁釉小皿〉(15C)

⑫青磁器(13~14C)



序 文

今回ここに刊行の運びとなりました報告書は、駒ヶ根東部地区県営は場整備事業に伴い、昭和59年度に実施されました青木城遺跡緊急発掘調査の報告であります。

昭和58年度には当遺跡に隣接する青木遺跡が調査され、中世期に属する住居跡、堀、礎石、柱穴群等が検出され、天目茶碗、古瀬戸灰釉陶器、青磁などの遺物が出土しております。

本年度は、この青木遺跡から青木城（館址）へと向う、いわば本拠地を解明する調査として期待されていました。幸いにも、文化庁及び長野県教育委員会の御指導と御高配、更に南信土地改良事務所の御協力を得て、調査計画を行い、駒ヶ根市文化財審議会会长友野良一氏を団長とする青木城遺跡発掘調査団を編成し、発掘調査を実施することができました。

調査の結果、東の山麓から台地先端部（青木城）へと続く2条の縦堀、戦国時代の住居跡、土壙、竪穴造構、柱穴址群などが検出され、遺物では昨年度検出を見なかった16世紀初～半ばにかけて位置する天目茶碗、灰釉陶器が発見されました。これらの資料は、古文書や高山神社棟札などに残されている、「戦国時代末の天正年間に青木城（館址）に牛山道賢が居館を構えた」という伝承を解明する貴重な資料となります。

また、縄文時代中期後半の住居跡、これに伴う遺物や奈良・平安時代の生活跡（焼土集中箇所）、これに伴う土師器・灰釉陶器が発見されたことは、当遺跡の時代的経過や性格を把握する上でも大切な基礎資料であり、数多くの成果が得られました。

長い期間にわたり、発掘調査をご指導下さった友野団長を初め、快く発掘作業に参加していただいた東伊那地区の方々、事業に深いご理解をいただいた南信土地改良事務所並びに東部土地改良区の方々、地主の方々、多くの皆さまのご協力、厚意によりまして所期の目的を達成することができました。

ここに関係者の皆様方に心から感謝申し上げますとともに、この報告書が多くの方々に利用され、地域の歴史研究の一助となることを念願する次第であります。

昭和60年3月20日

駒ヶ根市教育長 木下 衛

例　　言

1. 今回の調査は、昭和59年度に実施された駒ヶ根東部土地改良区東部地区県営ほ場整備事業に先立つもので、昭和59年7月5日から8月18日にかけて調査したものである。
2. 発掘調査は、南信土地改良事務所の委託により、国県補助金を得て、駒ヶ根市教育委員会を中心となり、駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会を組織して行った。
3. 発掘調査の中で、遺構・遺物の実測は、小原晃一、北村英憲、北沢武志、桐山清一が担当し写真撮影は小原が担当した。
4. 遺物整理・報告書作成の中で、土器洗いは小町谷春子、注記は宮沢美智子が担当した。遺物の復元は小原、拓本は宮沢美智子、遺物の実測は小池幸夫が担当し、遺物及び遺構図のトレイスは宮沢、図の作成は小原、小池が担当した。写真撮影は小原が行った。
5. 本報告書の執筆は、小原が行った。
6. 本書は、調査によって明らかとなつた遺構及び遺物をより多く図・表示することに重点をおき、文章記述は簡便にした。
7. 遺構・遺物関係の図面の縮尺は、その都度明示してある。
8. 遺物の表示については、その都度明示してある。
9. 遺構の断面層位は、次のとおりである。

I 層—褐色土 <表土>	V 層—黒色土 (木炭粒含)
I'層—　"　<耕作土> (ローム粒含)	VI 層—ローム層 (砂質)
II 層—暗褐色土 <　"　>	VI'層—ローム層漸移層
II'層—　"　<　"　> (ローム粒含)	VII 層—III層+砂混土
III 層—暗茶褐色土 (木炭粒含)	VII'層—III層+砂・礫混土
III'層　"　(木炭粒・ローム粒含)	VIII 層—焼土・木炭
IV 層—黑褐色土 (木炭粒含)	VIII'層—焼土・木炭+V層混土
IV'層—　"　(木炭粒・ローム粒含)	

10. 当遺跡の出土遺物及び諸記録・図面は、市立駒ヶ根博物館が保管している。

目 次

序 文
例 言
目 次

第Ⅰ章 発掘調査の経過.....	1
第1節 発掘調査に至るまでの経過.....	1
第2節 調査会の組織.....	1
第3節 発掘作業経過（発掘作業日誌）.....	2
第Ⅱ章 遺跡の環境.....	6
第1節 地理的及び歴史的環境.....	6
第Ⅲ章 発掘調査.....	13
第1節 調査概要.....	13
第2節 調査A地区遺構と遺物.....	13
第3節 調査B地区遺構と遺物.....	23
第4節 調査C地区遺構と遺物.....	28
第Ⅳ章 まとめ.....	35

挿 図 目 次

第1図 青木城遺跡位置図.....	7
第2図 青木城遺跡及び周辺遺跡分布図.....	8
第3図 青木城遺跡調査A～D地区位置図及びグリット図.....	9
第4図 青木城遺跡調査A地区遺構全体図.....	10
第5図 青木城遺跡A地区縦堀実測図.....	11・12
第6図 青木城遺跡A地区縦堀出土遺物実測図.....	16
第7図 青木城遺跡A地区横堀、土壙2号、柱穴址群実測図.....	17・18
第8図 青木城遺跡A地区土壙1号、柱列址1号実測図.....	19・20
第9図 青木城遺跡A地区土壙1・2号実測図.....	22
第10図 青木城遺跡A地区縦堀及び柱穴址群周辺出土遺物実測図.....	22
第11図 青木城遺跡A地区柱穴址群周辺出土遺物実測図.....	22
第12図 青木城遺跡調査B地区遺構全体図.....	23

第13図 青木城遺跡B地区縦堀及び遺構外出土遺物実測図	24
第14図 青木城遺跡B地区縦堀実測図	25・26
第15図 青木城遺跡調査C地区遺構全体図	27
第16図 青木城遺跡C地区遺構実測図及び遺物分布図	29・30
第17図 青木城遺跡C地区土層断面図	31
第18図 青木城遺跡C地区焼土集中箇所出土遺物実測図	32
第19図 青木城遺跡C地区焼土集中箇所遺物分布図	32
第20図 青木城遺跡C地区遺構外出土遺物実測図	33
第21図 青木城遺跡B・C地区遺構外出土遺物実測図	34

図版目次

- 図版1 青木城遺跡景
- 図版2 調査A地区グリット掘り下げ状態、調査風景、縦堀ベルト設定状態、縦堀・横堀、柱穴址・柱列址、土壤1号断面、土壤2号断面
- 図版3 縦堀掘り下げ状態、縦堀S-NI～IVベルト断面、縦堀内耳土器出土状態、出土内耳土器(口縁部)、出土内耳土器(底部)
- 図版4 縦堀出土陶器、柱穴址1号周辺出土きせる雁首、出土石器
- 図版5 調査B地区グリット掘り下げ風景、調査風景、縦堀掘り下げ風景、縦堀S-N I～IIIベルト断面、調査B地区調査終了状態、ローム層下掘り下げグリット
- 図版6 調査B地区縦堀出土灰釉陶器、出土青磁・鉄釉陶器、出土須恵器
- 図版7 調査C地区全景、グリット掘り下げ状態、E～Gグリット遺物出土状態、A・Bグリット遺物出土状態、Q～Sグリット遺物出土状態、M～Oグリット遺物出土状態、焼土集中箇所
- 図版8 烧土集中箇所遺物出土状態、礫検出状態、出土土師器、出土灰釉陶器、C地区遺構外出土須恵器、C地区遺構外出土土師器、C地区遺構外出土繩文・弥生土器

出土遺物一覧表

第Ⅰ章 発掘調査の経過

第1節 発掘調査に至るまでの経過

昭和58年度に実施した青木遺跡の発掘調査に統いて、昭和59年度駒ヶ根市東部土地改良区東部地区県営は場整備事業施工区域内に、青木城遺跡があり、破壊される状況が顕著となつたため、昭和58年9月6日に、長野県教育委員会文化課小林主事、南信土地改良事務所岩崎主任、同丸山主任、駒ヶ根市農林課倉田、市教育委員会北沢、下村、小原出席のもとに事前協議を行つた結果、記録保存を行うということになった。

以後、南信土地改良事務所、県教育委員会等と連絡をとる中で、調査面積1,000m²以上、調査費用500万円で、駒ヶ根市が事業主体として発掘調査を行うという経過をもつた。調査費用の内訳は、南信土地改良事務所分362.5万円、国県補助事業分137.5万円（国庫補助金68.7万円、県費補助金20.6万円、駒ヶ根市負担分48.2万円）である。

事務手続きは、昭和59年1月6日付昭和59年度文化財関係補助事業計画書提出、同年4月10日付昭和59年度文化財関係国庫補助事業の内定（通知）、同年4月10日付県費補助金の内示（通知）、同年5月15日付昭和59年度文化財関係国庫補助事業申請書提出、同年5月30日付発掘調査届、同年5月22日付県費補助金交付申請書提出を経て、同年6月14日に、南信土地改良事務所長関島喜徳郎と駒ヶ根市長竹村健一との間に、「埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約書」を取りかわし、つづいて7月5日に、市長と駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会長木下衛との間で、再委託契約書を締結した。

調査は、駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会が行うこととし、青木城遺跡発掘調査団を編成し、団長には友野良一氏をお願いして、昭和59年7月5日から調査を開始した。

第2節 調査会の組織（駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会）

顧問	鈴木義昭	（駒ヶ根市教育委員長）
会長	木下衛	（市教育長）
理事	小池金義	（市教育次長）（会長職務代理）
〃	友野良一	（駒ヶ根市文化財審議会会長）
〃	松村義也	（　　〃　　副会長）
〃	林赳	（　　〃　　委員）
〃	竹村進	（　　〃　　委員）

理事 中山敬及 (" 委員)
 " 下村幸雄 (市立駒ヶ根博物館長)
 監事 北原名田造 (駒ヶ根郷土研究会会長)
 " 宮下恒男 (市収入役)
 幹事 北沢吉三 (市教育委員会社会教育係)
 " 原茂 (" 社会教育係)
 " 野々村はるゑ (市立駒ヶ根博物館)
 " 斎藤香代 (")
 " 小原晃一 (")

・青木城遺跡発掘調査団 (事務所 駒ヶ根市上德南2番15号 市立駒ヶ根博物館内)
 団長 友野良一 (日本考古学会会員) <発掘担当者>
 調査員 小原晃一 (長野県考古学会会員) < " >
 " 小町谷元 (上伊那考古学会会員)

作業員 中村文夫、白川仁重、小林正信、宮下三郎、渋谷吉子、小林満寿子、細田律恵、佐藤秋子、佐藤慶子、赤羽笑子、渋谷光子、下平チカエ、下島清一、北沢武志、川上敏明、北村英憲、桐山清一、小町谷春子、宮沢美智子

指導者 小林 学 (長野県教育委員会文化課指導主事)
 " 伝田和良 (" ")
 " 橋口昇一 (長野県史刊行会専門主事)
 " 桐原 健 (" ")
 " 宮下健司 (" ")
 " 林 茂樹 (日本考古学会会員)
 " 氣賀沢 進 (")

協力者 田中清文、小松原義人、羽柴利明、三沢好一

〈順不同、敬称略〉

第3節 発掘作業経過

・発掘作業日誌

7月5日 発掘器材の搬入。調査A地区南東隅を基点として、北方向、西方向へ5m×5mのグリッドを設定する。基点から北へA～E、西へ並列してF～J、さらにY～Gまで設定する。

- 7月10日 器材整理・移動。テント設営。友野団長より、当遺跡の概略説明を受ける。A～Cグリットを掘り下げる。調査区周辺より青磁（日本製）、鉄釉蓋とともに18C以降を表面採集する。
- 7月11日 A～D・F・G・K～グリット掘り下げ。A・B・F～グリット終了。A～Gより砥石、D～Gより天目破片、F～Gより擂鉢片出土。表土は20～30cmと浅く、ローム層が基盤をなし、桑畑である為攪乱されている。地形測量S = $\frac{1}{200}$ で行う。写真撮影。
- 7月12日 A～D・F・G・K～グリット掘り下げ終了。H・L・P・U～グリット中途。K～グリットより黒曜石剝片、縄文前期土器片、陶器出土。調査B地区5m×5mのグリット設定。A地区は、西へかけて表土及び暗褐色土が55～60cmと厚くなり、さらに基盤は、北東から南西にかけて低く傾斜している。
- 7月13日 H・L・P～グリット（G）掘り下げ終了。I・M・Q・V～G中途。写真撮影。M～Gより縄文中期土器片、陶器片及び集石検出。P～Gより磨り石、盤状石出土。G・H・K～Gに直径40cm位の落ち込みあり。P～G周辺より縄文前期の土器片多数出土。
- 7月14日 I・M～G掘り下げ終了。J・N・Q・V～G掘り下げ。A～G断面仮清掃。V～G黒褐色土層より打石斧頭部出土。P・U～Gには柱穴状の落ち込み多数検出。
- 7月16日 I・N・Q・U・O～G掘り下げ終了。J・R・T・V～G中途。B～D・F～G断面仮清掃。E～Gから西にかけて、幅1.2m位の溝状遺構（縦堀）あり。内耳土器出土。
- 7月17日 E・S・T・R・V～G掘り下げ終了。W～Y～G中途。V～Gより礫群検出。
- 7月18日 W～Y～G掘り下げ終了。V～X～Gにかけて溝状遺構（横堀）あり。A～Y～Gのベルト断面清掃。A地区全体写真撮影。H～G内にBM・L = 706.000mを設定。調査B地区、B・C・F・I～G掘り下げ開始。C・F～Gより大礫検出。
- 7月19日 調査A地区E・X・Y～G仮清掃。D・G～I・K・L・N～G断面清掃。写真撮影。調査B地区A～C、F・I・L～G掘り下げ終了。E・O・R～G中途。I・R～G II層（暗褐色土）より灰釉、L～Gより内耳土器、須恵器、黒曜石剝片出土。
- 7月20日 A地区E・J・O・P・S～UG断面清掃。写真撮影。B地区O～R～G掘り下げ終了。D・F・N・P・Q～G中途。C～R～Gにかけて溝状遺構（縦堀）あり。出土遺物は少ない。
- 7月21日 A地区Q～V～Y～G断面清掃。写真撮影。B地区N～P～G掘り下げ終了。D・H～K～G掘り下げ中途。N～Gより灰釉出土。
- 7月23日 A地区S～NI（F～J～G）セクション、S～NII（K～O～G）セクション、W～EI（A～U～G）セクション実測。B地区D～H～K～G掘り下げ終了。G～J～M～G中途。M～Gより打製石斧出土。Q～Gより内耳土器、剝片石器出土。
- 7月24日 A地区W～EII（B～V～G）、W～EIII（C～W～G）、S～NIII（P～T～G）S～NIV（U～Y～G）セクション実測。W～EI～IIベルトはずし。S～NI～IVベルトはずし開始。B地区G～J～M～G掘り下げ終了。全グリット内と断面清掃。

- 7月25日 A地区W-EIV (D-X-G) ベルトセクション実測。W-EIII・IVベルト、S-N I～IVベルトはずし。南側半分清掃。ピット(柱穴址)判別。写真撮影。B地区S-NI (D～F-G) ベルト清掃。写真撮影。W-EI (A-P-G)、W-EII (B-Q-G) ベルト清掃。写真撮影。調査C地区に、5m×5mのグリッド設定。ベルト設定。
- 7月26日 A地区北半分清掃。縦堀南側より土壤検出。柱穴址群掘り下げ。縦堀ベルト設定。B地区E・F・I-Gベルト断面清掃。写真撮影。
- 7月27日 A地区柱穴址群掘り下げ終了。縦堀I区(E)～V区(Y)掘り下げ開始。I～III区より内耳土器片多数出土。柱穴址群周辺より土壤検出。横堀ベルト設定。
- 7月28日 A地区縦堀・横堀掘り下げ。縦堀は深さ50～60cmを測り、横堀は25cm前後と浅く西側はゆるやかである。B地区B・MをL=701.000mに設定。S-NI・II、W-EI・IIベルトセクション実測。C地区A・B・F・G掘り下げ開始。
- 7月30日 B地区W-EI・IIベルトセクション、S-NIVベルトセクション清掃、写真撮影、実測。C地区A・E・F-G掘り下げ。A-Gより鉄釉陶器、E-Gより内耳土器出土。A-E-Gのかけて、表土から遺物包含層(黒褐色土)までの深さが60～75cmと深く、ロームまではさらに15～20cmある。A-E-Gともに大礫(自然)が露出。
- 7月31日 A地区縦堀全景及び出土遺物写真撮影。ベルト清掃。好天続きの為、水打ち。縦堀内疊・出土遺物平板測量。B地区S-NVベルトセクション実測。C地区A-E-G掘り下げ終了。B-F-G掘り下げ中途。
- 8月1日 A地区縦堀I～IV区ベルトセクション清掃、写真撮影、実測。I・II区内疊・出土遺物平板測量、ベルト実測、取り上げ。C地区F-K-G掘り下げ終了。B-J-O-G中途。B-Gより黒色土器多数出土、E-F-Gからも土師器片出土。K-Gより灰釉皿底部出土。
- 8月2日 A地区縦堀I・II区疊レベル実測。III・IV区疊・遺物平板測量。ピット2ヶ所掘り下げ。C地区O-G掘り下げ終了。土師・灰釉出土。B-G・J-G掘り下げ中途。B-G中央部より焼土集中箇所検出。J-Gより土師・灰釉出土。
- 8月3日 A地区縦堀III・IV区疊・遺物平板測量。横堀IV区疊・遺物平板測量。取り上げ。B地区S-NI～IV、W-EI・IIベルトはずし。C地区J-G掘り下げ終了。B-G・I-N-G掘り下げ中途。G-G内北側隅より焼土検出。N-Gより土師・灰釉出土。
- 8月4日 A地区縦堀V区疊・遺物平板測量、レベル実測、取り上げ。横堀IV区疊・遺物平板測量、レベル実測。土壤1・2号半分掘り下げ。昨夜の雨の為、埋ってしまった柱穴址群再度掘り下げ。B地区S-NVベルト、W-EI・IIベルトはずし。B地区全面清掃、写真撮影。縦堀I～VI区までベルト設定。I・II区掘り下げ開始。旧D-G内にローム層下掘り下げG設定。
- 8月6日 A地区縦堀I～V区疊排除、底部分まで掘り下げ。横堀I～IV区疊排除、掘り下げ。縦堀・横堀とともに掘り下げ終了。柱穴址群及び周辺出土遺物平板測量、レベル実測。B地区縦堀I～III区に掘り下げ中途。ローム層下調査グリッド掘り下げ。

- 8月7日 A地区柱穴址群及び遺物平板測量、レベル実測。横堀平板測量、レベル実測。B地区縦堀I～VI区掘り下げ。ローム層下調査グリット掘り下げ終了。北壁で70cm、南壁で35cm掘り下げた面で自然の礫が露出し、出土遺物はない。縦堀IV・V区疊・暗茶褐色混土層より灰釉多數出土。
- 8月8日 A地区縦堀I・II・III区底部疊・遺物平板測量終了。IV区中途。柱穴址群及び周辺出土遺物平板測量、レベル実測。土壤1・2号断面実測。横堀IV区疊・遺構レベル実測。B地区縦堀I～VI区掘り下げ。ベルト清掃。C地区G-G掘り下げ。
- 8月9日 A地区縦堀IV・V区疊及び遺物平板測量、レベル実測終了。I～V区遺物取り上げ。柱穴址群遺物平板測量、レベル実測、取り上げ。B地区縦堀I区疊平板測量。C地区B・S～G掘り下げ終了。I・N-G掘り下げ中途。S-Gは東側のグリットに比べ浅くなっている。
- 8月10日 A地区柱穴址群、集石、遺物平板測量、レベル実測。B地区縦堀I～V区出土遺物平板測量。C地区S-N I (I～K-G)、S-N II (Q～S-G) ベルト断面清掃。B-G・I・M・Q・R-G掘り下げ。R-Gより石剣頭部出土。写真撮影。
- 8月11日 B地区S-N I (C-G)、S-N II (I-G)、S-N III (O-G) ベルト断面清掃、写真撮影。縦堀V・VI区疊及び遺物平板測量。C地区M・Q・R-G掘り下げ終了。
- 8月12日 B地区縦堀I～IV区疊・出土遺物レベル実測。S-N I～IIIベルト断面実測。疊・遺物取り上げ。ベルトはずし。C地区グリット内全面仮清掃。W-E I (A-Q-G)、W-E II (B-R-G) ベルト断面清掃。
- 8月13日 B地区縦堀I～III区清掃。遺構外出土遺物平板測量、レベル実測、取り上げ。C地区A・B-G内遺物、疊、焼土集中箇所平板測量。S-N I・IIベルト、W-E I・IIベルト写真撮影。
- 8月14日～16日 盆休みの為、現場作業休み。
- 8月17日 B地区縦堀I～III区掘り下げ終了。遺構外出土遺物平板測量、レベル実測、取り上げ。C地区W-E I・II、S-N I・IIベルト断面実測。全グリット内清掃。
- 8月18日 B地区縦堀IV～VI掘り下げ終了。清掃。写真撮影。C地区E～G、I～K、M～O、Q～S-G内出土遺物、疊平板測量、レベル実測、取り上げ。写真撮影。A～C地区坑、立札、等の器材整理、片付け。本日にて現場作業終了。C地区については、焼土集中箇所を除き、ローム面等まで遺構の検出が出来ず、調査体制、期間等の不備を痛感し、遺跡に対する担当者の認識の甘さを反省する。
- 6週間余にわたり、真夏の炎天下のもとで、発掘調査に作業員として参加していただいた皆様の方の御理解と御協力により、調査ができましたことに対して心から感謝の意を申し上げます。本当にありがとうございました。
(小原亮一)

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地理的及び歴史的環境（第1・2図）

当遺跡は、駒ヶ根市東伊那火山3436-1・2から3466番地に所在する。国鉄飯田線太田切駅より北東へ約4km、主要地方道伊那・生田・飯田線東側台地上に位置し標高は690m～710mを測る。

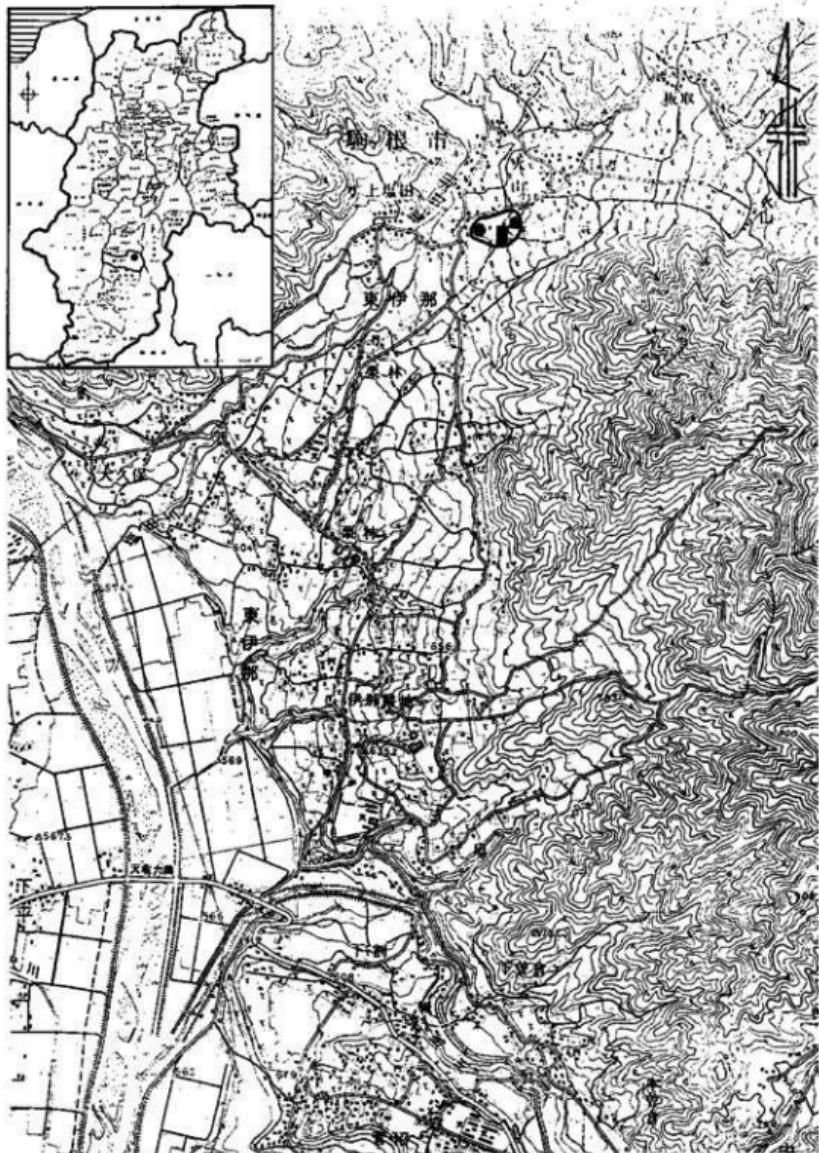
駒ヶ根市は、三つの地区から成り、天竜川をはさんで西側に赤穂地区、東側南部に中沢地区、北部に東伊那地区があり、その東伊那地区の北域中央部に当遺跡は位置している。

伊那谷は、諏訪湖より流れ出る天竜川とその支流である各々の田切川により開析され、西に木曾山脈（中央アルプス）、東に赤石山脈（南アルプス）があり、中央構造線をはさんで戸倉山、高島谷山を始めとする前山の伊那山地が両山脈と並行して走る。この伊那山地の一角をなす高島谷山及び火山峰に源を発する塩田川が造り出した扇状地の東域やや高い舌状台地先端部寄りに立地し、塩田川の左岸に当る。塩田川との比高差は、約40m前後を測る。地質基盤は、礫層から成り、その上に新期ローム（青木城遺跡では砂質ローム）が堆積している。

遺跡の層位は、基本的には、I層〈表土〉～VI層〈ローム層〉までのVI層により構成されるが、遺跡一帯が傾斜の強い地形であることと、桑畑・根菜類の耕作地等の環境により、整層を成さない。調査A・B地区の浅い所では、I層〈表土〉、II層〈耕作土〉が30cm前後堆積し、ローム層が表に出る状態である。調査C地区は、窪地であることにより、表土面よりローム層面まで75cm～95cmと深く割合各層が整層を成している。

遺跡の所在する東伊那地区は、遺跡の宝庫として知られ、大正末年発行の「先史及び原始時代の上伊那」（故鳥居龍藏博士著）に数多くの遺跡が確認されている。第2図中1は青木城、2は青木（平安・中世～近世）、3は青木北（縄文・平安）、4は高山社（中世以降）、5は火山（縄文以降）、6は塩田城（中世）、7は上塩田（縄文・平安・中世）、8は石經塚（中世～）、9は栗林神社東（弥生後期）、10は善込（弥生後期）、11は垣外上（弥生）、12は箱疊（平安・中～近世）、13・14は大久保城（中世）、15は高田城（中世）、16は反目（縄文）、17は遊光（縄文）、18は反目南（縄文）、19は城村城（中世）、20は小城（中世）、21は桃山（弥生）、22は桃山古墳（消滅）、23は柏原古墳（消滅）、24は稻村城（中世）、25は稻村古城（中世）、26は殿村（平安）、27は山田（縄文）、28は丸山（縄文・弥生）、29は孤久保（縄文・弥生）、30は稻荷古墳、31は原城（中世）である。

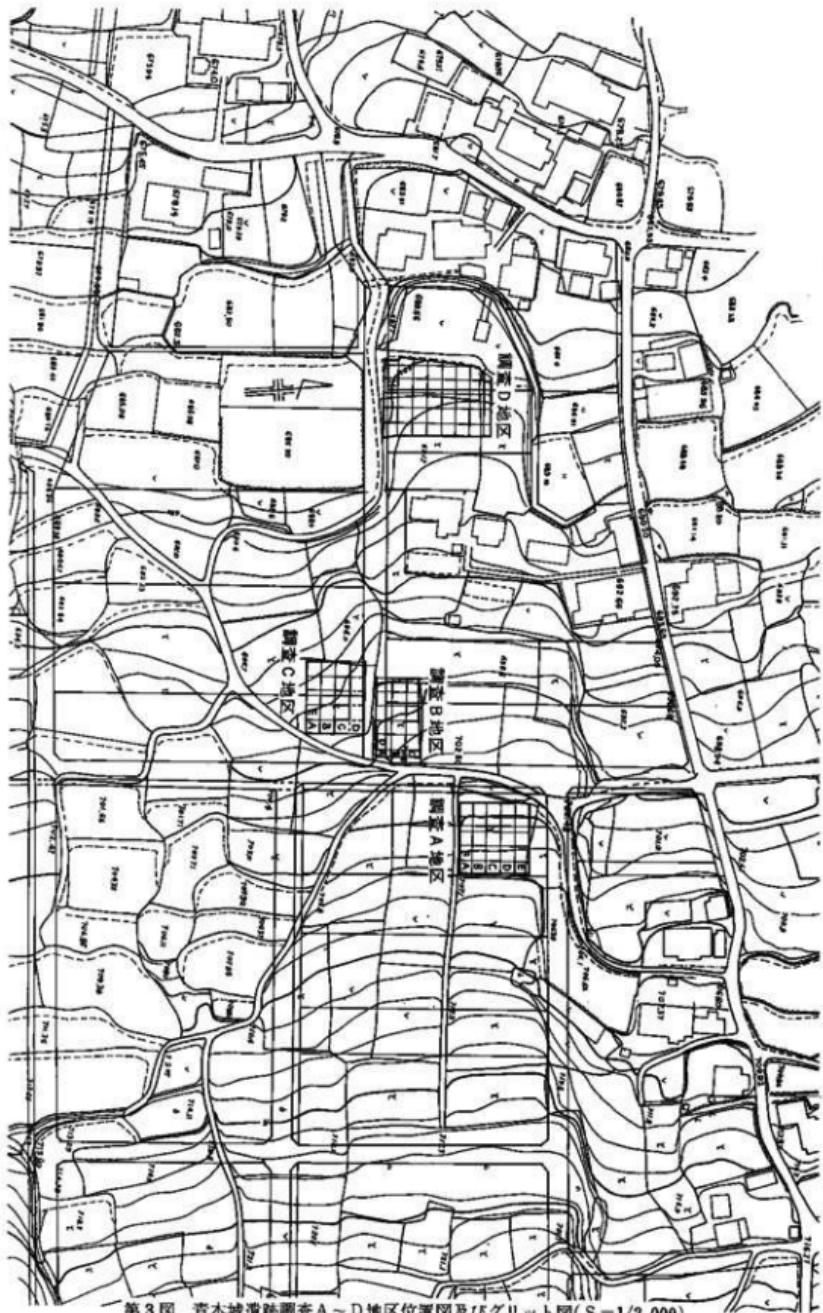
これらの中で、特に、青木遺跡は当遺跡の外郭の遺跡であり、昭和58年度に調査（約1200m²）され、平安末の住居跡1軒、室町時代以降（15世紀後半～16世紀初頭）の住居跡1軒、室町～桃山時代にかけての堀址2条、同時期と考えられる礎石列、集石址、柱穴址群、近世以降の集石址、火葬墓等が検出され、古瀬戸灰釉、天目、内耳、青磁等が遺物として出土している。



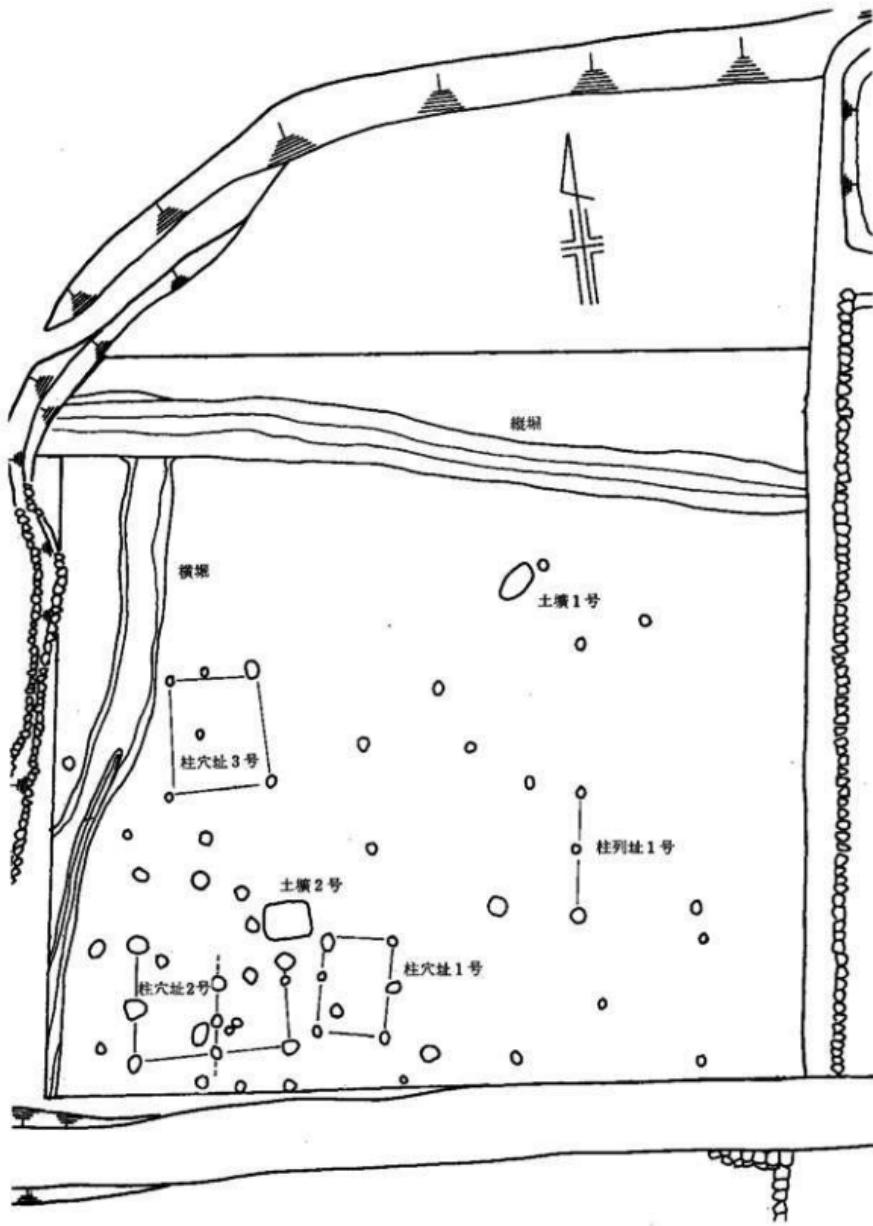
第1図 青木城遺跡位置図 ($S = 1/25,000$)



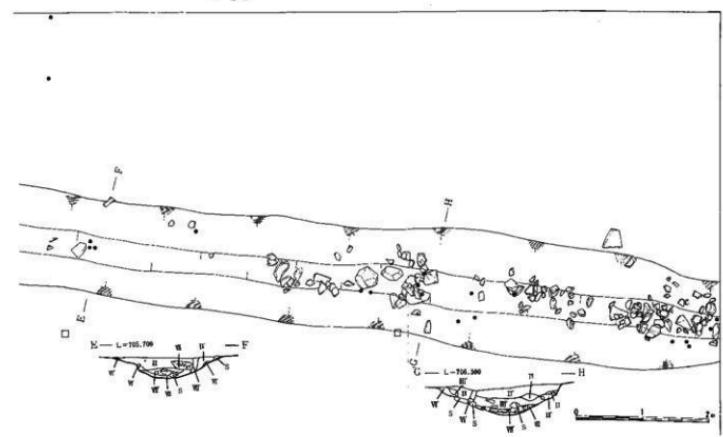
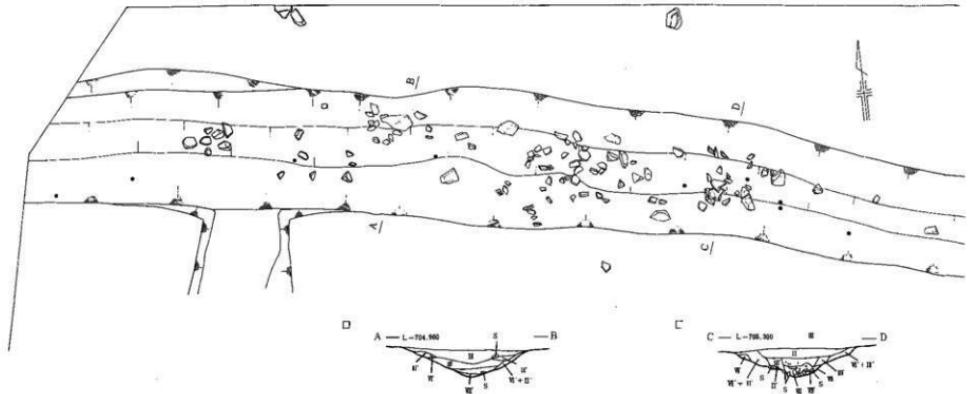
第2図 青木城遺跡及び周辺遺跡分布図($S=1/25,000$)



第3図 青木城遺跡調査A～D地区位置図及びグリット図(S=1/2,000)



第4図 青木城遺跡調査A地区遺構全体図 (S=1/200)



第5図 背木城道路A地区縦断

第Ⅲ章 発掘調査

第1節 調査概要

発掘調査に先立ち、調査区周辺の桑畠、畑地の表面採集を行い灰釉、天目茶碗破片、青磁器片、鐵釉、黒曜石剝片等を採集する。

遺跡面積は、20,000m²と広範囲に及ぶが遺跡地が傾斜地に立地していること、桑畠・野菜畠の耕作物が残っていること、調査体制の不備、期間・予算の制約等から部分的な発掘調査を実施せざるを得なかった。

調査区は、第3図の様に、「城の郭」と推定される第一段目の段丘より約150m、通称「かまとり線」の東側の桑畠を調査A地区、南西に向って、調査B地区、調査C地区と設定した。各地区ともに、5m×5mのグリットとし、南より北へ向いA・B・Cグリットと付した。層位を確認する為のベルトは、グリットに沿って十文字に設け、基本的にはW-E、S-Nとした。

出土遺物は、攪乱層内、整層の遺物包含層内を問わず、比較的堆積土が浅い状態であることから全点ドットを行い、平板測量・レベル実測を行った。

断面実測は、ベルト・遺構を中心として行った。

写真撮影は、全景、調査風景、遺構・ベルトの断面、出土遺物・遺構について実施した。

調査面積は、調査A地区で630m²、調査B地区で400m²、調査C地区で350m²である。

なお、調査C地区については、焼土集中箇所（黒褐色土中）を除き、ローム面までの遺物包含層まで完掘することができず、出土遺物のドット・平板測量・レベル実測と蝶群の実測、写真撮影の調査に限られてしまった。

第2節 調査A地区遺構と遺物

縦堀（第5・6・10図、図版2・3）

遺構 本跡は、A地区の北端より検出され、主軸は西北をとるが中心部よりやや西に折れ曲がる状態である。検出された規模は長さ約25mで、東と西へ延びることは確実である。東端で幅1m25cm、深さ40cm前後、中央部で幅1m65cm、深さ45cm前後、西端で幅2m、深さ50cm前後を測る。最大幅は2m10cm、最小幅は東端の1m25cmであり、深さは東から西にかけて徐々に増している。堀内の堆積土層は、G-H断面で表土を除きII'層（暗褐色土、ロームブロック多し）が15cm前後、III'層（暗茶褐色、ロームブロック多し）が15cm前後、VII層（III+砂）が10cm前後、VII'層（III+砂利）が5cm前後堆積している。C-D断面では、II層が15cm前後、III層が10cm前後、

VII層が10cm前後、VII'層が5cm前後堆積している。中央部より東側にはIII層の整層ではなく、西側には顕著に見られる。

壠の断面形（掘り込み）は、全体的に見て底部が丸味を帯びた薬研状をなしているが、上幅に対し深さがないので舟底形と言った方が適切である。掘り込み底部には、こぶし大を平均に人頭大の花崗岩・花崗閃緑岩が主体をなす自然礫群が堆積しており、東側部分は基盤に露出している状態であった。最下層部には、III層（暗茶褐色土）と砂利の混土層が堆積していたことは、自然ないし人為的にしろ、流水・導水した痕跡として考えられる。

遺物 繩堀の中から出土した遺物は、上層から下層にかけて内耳土器片が主体を占め、灰釉陶器、天目茶碗の小破片も出土している。また、縄文時代前期土器片（無文、擦痕、条線文等をもつ薄手の土器）、縄文前期末～中期初頭（龍烟～梨久保式系）土器片、打製石斧破片、黒曜石剥片が出土している。

特に、内耳土器は、調査範囲の東端と中央部やや西側の地点III層（暗茶褐色）内より集中して出土した。

第6図中1～5は、復元実測のできた内耳土器である。実測図には、内耳部分の出土がなかったため復元していないが、内耳部は付くものと考えられる。成形は、器壁内外面及び底部を横ナデし、胴部の一部は縦のナデを行い調整している。器壁外面はいずれも煤が付着し黒褐色をしているが、内面は1・3・5が暗褐色、2が明褐色、4が褐色である。内面におこげ及び煤が付着している資料は出土していない。

1は、ほぼ2/3個体分の破片の復元実測である。口径28.6cm、高さ16.4cm、底径22.8cm、器壁厚5～8mmを測る。器壁はやや内寄しながら直線的に頸部に至り口縁部はやや外傾する。口唇部は外側が低く、頸部内面の溝は浅い。底部は内面が波状をなし、やや上げ底である。

2は、口径34.0cmで、器壁厚は5～9mmを測る。口縁部はやや内寄気味である。口唇部は肥厚し外屈するが内側が低い。頸部内面の溝は深い。頸部のくびれは弱い。

3は、口径29.4cmで、器壁厚は8mm前後を測る。口縁部は外傾し、胴部下は1に似て直線的である。口唇部は内側が低く、頸部内面の溝は深い。

4は、口径24.4cmで、器壁厚は4.5mm～8mmを測るが、他のものに比べ薄手である。口縁部は内寄し、口唇部は肥厚するが、平らでなく断面形が山形状をなす。頸部内面の溝はなく、頸部のくびれは強く、胴下半は外傾して立ち上るものと考えられる。

5は、底径（推定）22.6cmで、器壁厚は6～8mmを測る。底部は平坦をなすと考えられる。胎土は、いずれも1mm以下の細かい長石・英石・雲母粒を含むが、5の底部片のみ4mmの小砂利を含む。

第10図中7～10、13・15は縄堀出土の縄文時代の遺物である。7は幅の広い隆帯を貼り付け、直径1cm位の半截竹管で爪形の刺突を施し、下方には幅の狭い半截竹管で連続押引をしている。あまり類例を見ないが、縄文前期末から中期初頭に位置付けられる。8・9は、ともに半截竹管

で、横位と斜位の平行沈線文を施す。8は口縁部片、9は胴部片である。前期末から中期初頭の籠烟～梨久保式に位置付けられる。13は、礫器で石材は砂岩である。長さ8.7cm、幅5.5cm、厚さ2.3cm、重さ166gである。上端部は、強い打撃の後に弱い打撃を1度行い、下端部は2度の強打撃の後に弱打撃を数回行っている。縄文早期の押型文等の伴出はないが、形状等からみて早期～前期頃の石器である可能性が強い。15は、敲打器で、石材は砂岩である。長さ10.4cm、幅5.7cm、厚さ3.1cm、重さは281gである。平面形は楕円形、断面形は木葉状で、細身側の側縁部と胴部を敲打している。時代判定は難しいが、縄文前期以降の石器と考えたい。

横堀（第7図、図版2）

遺構 本跡は、縦堀西端南壁に接して、主軸を南西にとって掘り込まれている。が、実際には、掘り込みが10～20cmと浅く掘り込むと言うよりは削土した状態と言う方が適切である。検出された規模は、長さ約22mで、さらに南西に延びることは確実である。北端で幅1m30cm、深さは東壁で20cm、西壁で10cm、中央部で幅1m10cm、深さは東壁で25cm、西壁で7cmであり、南端は土手際の為、未調査で全容は明らかでない。中央部から東壁に沿って小溝がある。確認された範囲では幅25～40cm、深さ5～12cmを測り中央部から南に向い徐々に深くなっている。堀内の堆積土はⅢ層（暗茶褐色土）で埋まり、底は割合軟かく礫を含む砂質ローム層が基盤をなす。縦堀に対して深さ・形態ともに劣るが、搅乱の遺構ではないことから、区画・導水等の意味付けをし横堀として位置付けた。

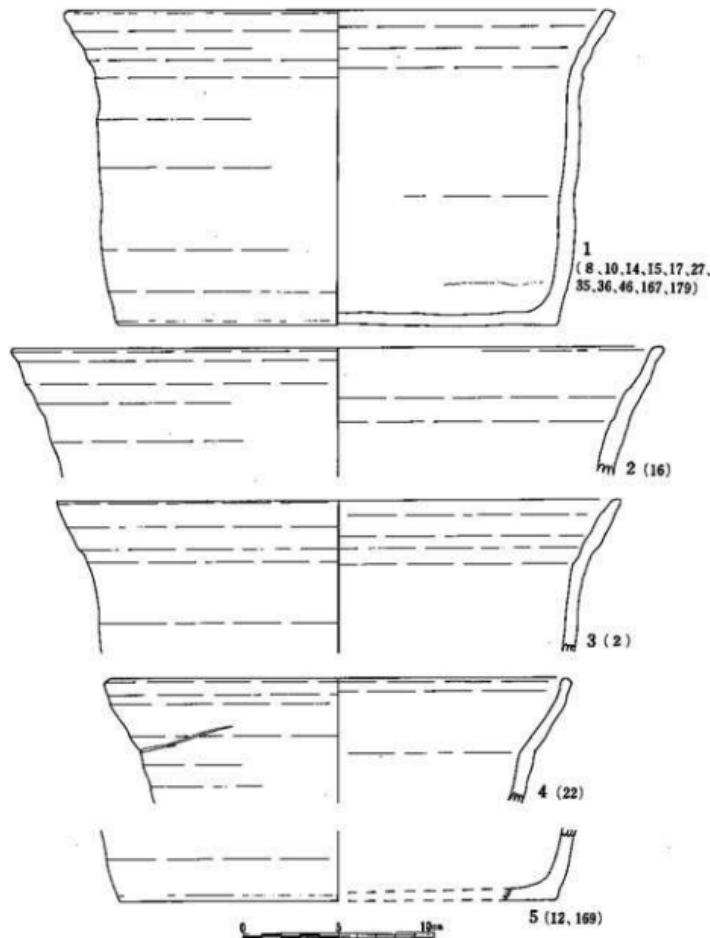
遺物 横堀の中から出土した遺物は、綠泥片岩の小剝片1点のみである。

柱穴址群（第7・8・10・11図、図版2・4）

遺構 柱穴は総数で57本検出され、縦堀と横堀に囲まれて、ほぼ全域に分布しているが、特に南西域と南東域に集中している。平面形は円形、楕円形、不整円形と様々で、深さも最低14cmから最高39cmと統一性がないが、不整円形で深さ25cm前後のものが主体を占める。

柱穴址1号 本跡はP9からP14の6本により構成される。主軸を北北東にもつ長方形で、規模は短軸2m25cm、長軸3mであり、P9とP10の間隔は1m80cm、P10とP11の間隔は1m20cmであり、P12からP14もこれとはほぼ対応する。柱穴の平面形はいずれも不整円形で、深さは15～33cmと一定ではない。柱穴の底は、比較的堅い。

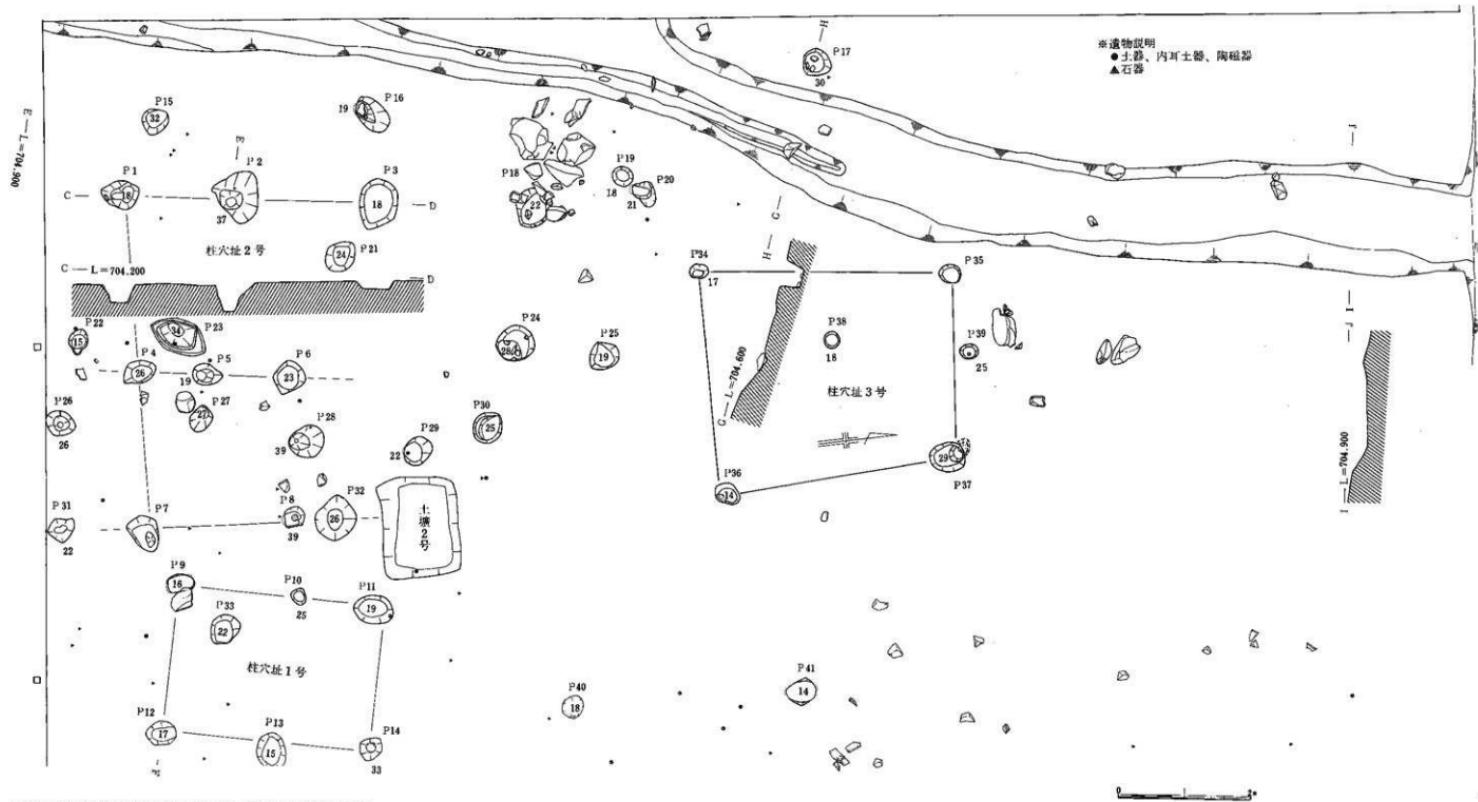
柱穴址2号 本跡はP1からP8までを想定するが整っていない。P1～P3が、P4～P6が、P7・P8とそれぞれ一列に並ぶが相互間の統一性はない。P1とP2の間隔が1m80cm、P2とP3が2m、P4とP5が1m、P5とP6が1m30cm、P7とP8が2m20cmである。P1～P4～P7の間隔はほぼ2m60cmである。柱穴の平面形はいずれも不整円形で、深さは17～39cmを測り一定ではない。P4・P6・P7・P8は間隔がほぼ2m20cmであり整っている。全体的に統一性に欠けるが1柱穴址として把握した。P1～P3の底は軟かく、外は割合堅い。



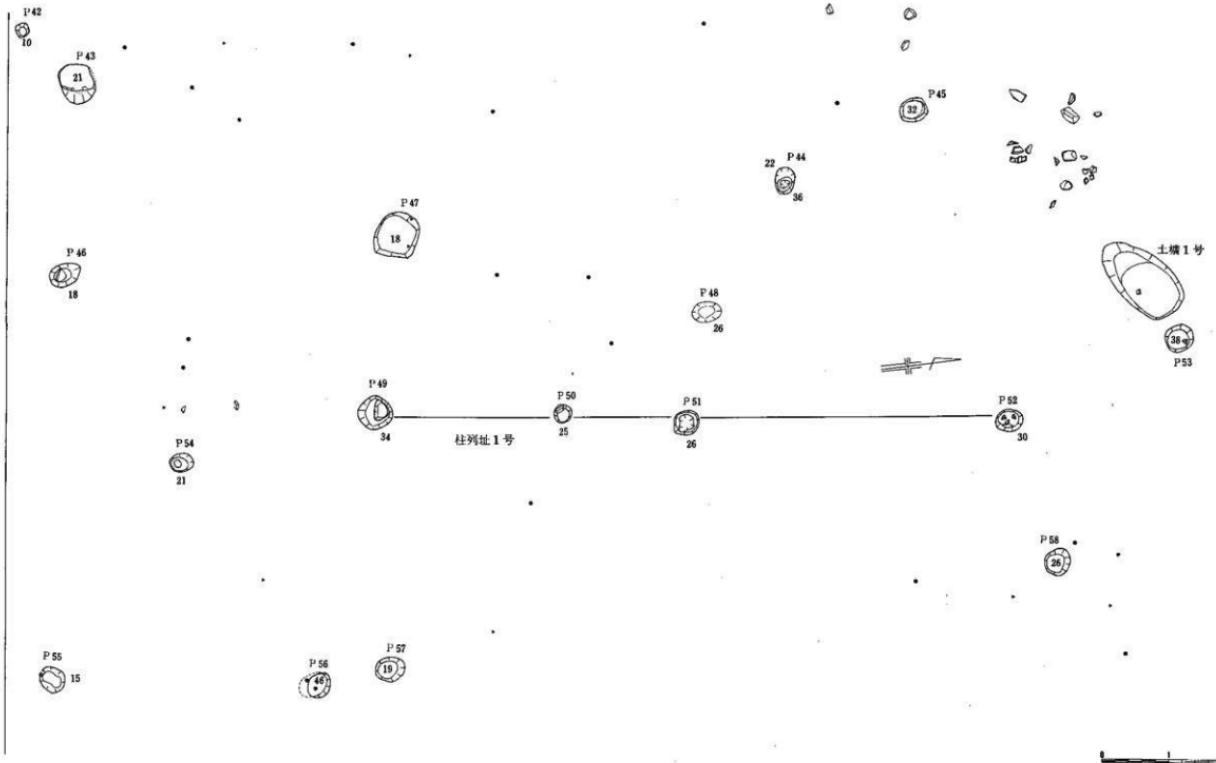
第6図 青木城遺跡A地区縦堀出土遺物実測図 ($S = \frac{1}{2}$)

柱穴址 3号 本跡はP34からP37の4本により構成される。主軸はほぼ北にもつ長方形で、規模は短軸(P35—P37) 2m80cm、長軸(P34—P35) 3m80cmであり、P36は南東方向にずれている。柱穴の平面形は不整円形で、深さは14~29cmを測る。底はいずれも軟かい。

柱列址 1号 本跡はP49・P51・P52が想定されP46・P47・P55・P57との関連も考えられる。P49—P51—P52の間隔はほぼ4m80cmである。柱穴の平面形はほぼ円形に近く、深さは26~34cmを測る。底はいずれも堅い。



第7図 青木城遺跡A地区横堀、土塼2号、柱穴址群実測図($S=100$)



第8図 青木城遺跡A地区土壤1号・柱列址1号実測図(S=1m)

遺物

柱穴址1・2・3号、及び柱列址1号周辺から出土した遺物は、中世（15～16C）の常滑甌脣部片、灰釉瓶脣部片、擂鉢脣部片、18C以降の灰釉陶器片、きせる雁首と、主体を占める縄文時代前期の土器片、打製石斧、スクレイバー、ピエスエスキュー、黒曜石剝片等である。

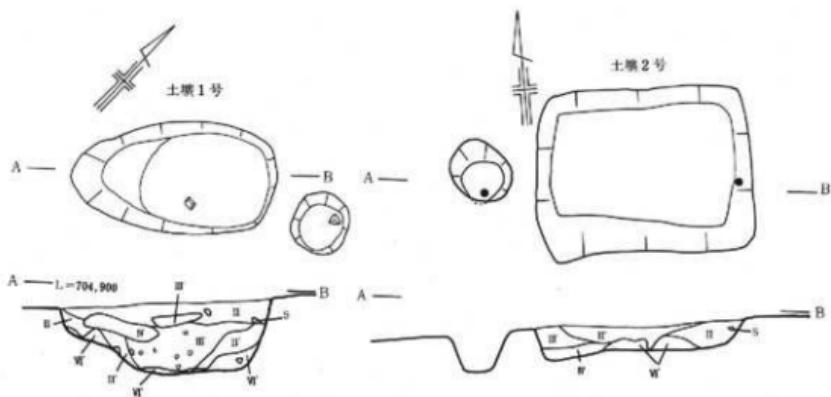
第10図中1～6、11、12、14、16～18、第11図中1～3が、柱穴址群より出土した主な遺物である。第10図中1～6は、縄文時代前期土器片である。1は脣部をやや肥厚させ爪形を施し、上部には半截竹管状の施文具で斜めの条線を付けさらに縦方向にも付けている。無繊維で、3mm前後の長石・石英を多く含む。2・3は同一個体と考えられ、2は隆帯を貼り付け爪形を施し、斜条線を付けている。3は交互に斜条線を施す。4は斜めの条痕を施す。5は交互に斜条線を施す。6は無文土器片で、縦位の擦痕が見られる。1～6はいずれも内面には指頭圧痕が見られ、特に2～5は顕著である。總じて縄文時代前期初頭の東海系の土器として位置付けられる。11は結節縄文を施した上に半截竹管で平行沈線文を付けている。縄文時代中期後半に位置付けられる。12は横位の2条の沈線と弧をなす沈線を施す。中期末から後期初頭に位置する。14は砂岩製の打製石斧頭部片で、片面に自然面を残す。16～18は陶器片である。16は擂鉢脣部で掘り目は7条ありやや磨耗が著しい。釉は薄い鐵釉がかけられ茶褐色をしている。16C初頭に位置する。17は鐵釉皿底部で推定底径8.6cmを測る。釉は内面が厚く、外表面は薄くともに茶褐色である。底部は糸切りをしている。18は灰釉丸碗口縁部片で釉色は灰白色である。推定口径9.8cmである。17・18は18C以降に位置付けられる。第11図中1は黒曜石製のサイドスクレイバーで長さ4.3cm、幅2cm、厚さ5mmを測る。弓なりの剝片を利用して片側面のみ調整し自然面が残る。2はピエスエスキューで長さ2.8cm、幅1.5cm、厚さ8mmを測る。表裏面はシャープな剝離をしているが上・下端は打撃が加えられている。1・2ともに、縄文時代の所産であり、前期土器の出土等から伴出の可能性もある。3はきせるの雁首で表面は全体に緑青がふいていることや残存状態が良好なことから真鍮製とも考えられる。長さ6.4cm、脣径1cm、詰め口径1.4cm、厚さ0.5mm～1mmを測る。内部に竹管の筒が残存している。

土壤1・2号(第7～9図、図版2)

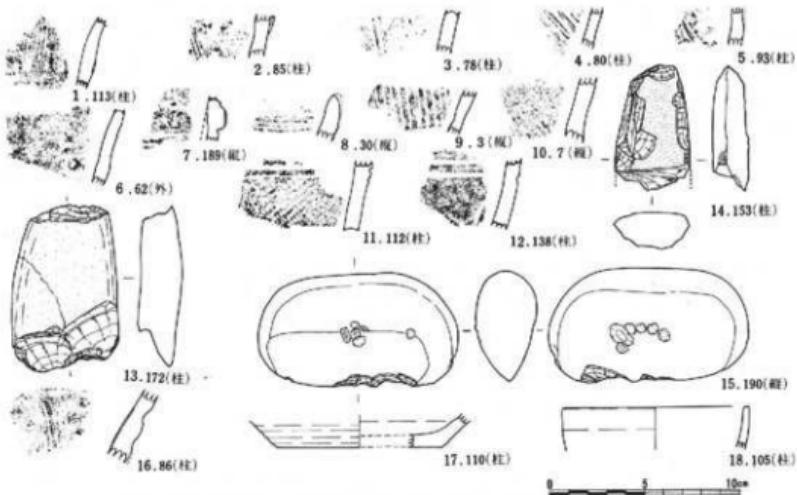
土壤1号 本跡は縦堀南側より検出された。規模は長軸1m40cm、短軸80cm、深さ48cmを測る。平面形は橢円形、断面は鍋底形であるが西南壁は二段となっている。掘り込み、底部ともしっかりしていて、堅い。東側に20cm離れて直径40cm深さ38cmのビットがある。堆積状態は整層をなし、中層以下は小石が混じるIII'層が35cm前後堆積している。

出土遺物はなかった。

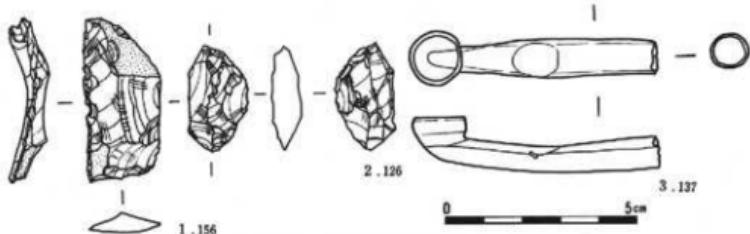
土壤2号 本跡は柱穴址1号と2号の間北側より検出された。規模は長軸1m50cm、短軸1m10cm、深さ20cm前後を測る。平面形は隅丸長方形、断面はタライ状である。掘り込みは浅く、底部は軟弱である。堆積状態は桑畠の耕作等の擾乱を受け、主にII～II'・III'・IV層が堆積する。出土遺物は縄文前期土器小破片が1点東壁より出土している。



第9図 青木城遺跡A地区土壤1・2号実測図($S = \frac{1}{2}$)



第10図 青木城遺跡A地区堀堀及び柱穴址群出土遺物実測図($S = \frac{1}{2}$)



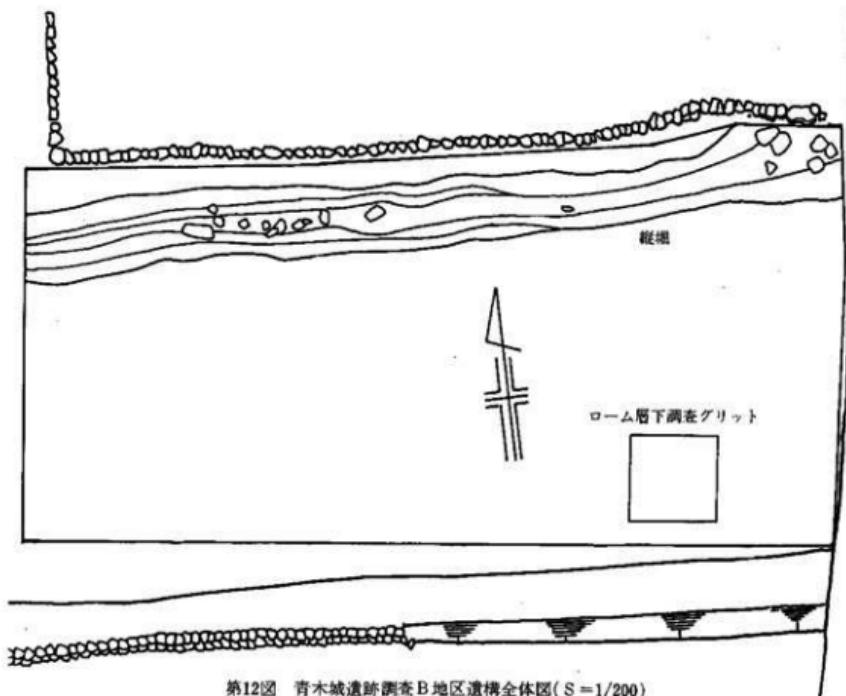
第11図 青木城遺跡柱穴址群周辺出土遺物実測図($S = \frac{2}{3}$)

第3節 調査B地区遺構と遺物

縦堀 (第12~14図、図版5・6)

遺構 本跡はB地区北域から検出され、現在の桑畠の石垣とはほぼ平行しており、主軸を東西軸にもつ。検出された規模は長さ約18mで、東と西へさらに延びると考えられる。東端から西へ4mの地点で幅2m60cm、深さ70cm前後、中央部で2m15cm、深さ90cm前後、西端で2m20cm、深さ80cm前後を測る。最大幅は2m60cmで、最小幅は1m55cmである。東から西へかけて徐々に深くなる傾向であるものの、中央部が他に比べ15cm前後深くなっている。

堀内の堆積土層はE-F断面で表土を除きII層が35cm前後、II'層が10cm前後、VII層が25cm前後堆積している。E-F断面内北側は大礫(60cm×80cm前後)が自然露出していて堀底の状態は詳細でない。C-D断面ではII層が15cm前後、III層が10cm前後、III'+VII層が10cm前後、V層が10cm前後、VI層が10cm前後一同レベルでVII層が15cm前後、VII'層(疊混)が30cm前後堆積している。



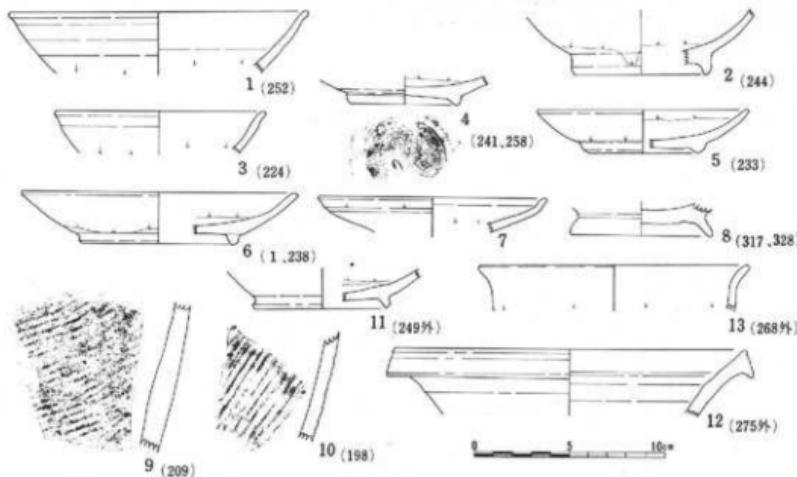
第12図 青木城遺跡調査B地区遺構全体図 (S=1/200)

A-B断面では、II層が15cm前後、III層が20cm前後、IV層が10cm前後一同レベルでVII層が15cm前後、VII層（疊混）が30cm前後堆積している。堆積状態を見ると、E-F断面を除き、III層（暗茶褐色土）の下にVII層（III+砂）があり、さらにIV'層（黒褐色土）の下にVII'層（III+砂利・礫）が堆積している。このことは、常に流水があったのではなく一度流水がなく腐植土が堆積し、その後、再び流水したことを表している。特に、C-D断面の内、北壁側にはVI+VII、IV+VII、VII+VI'、IV+VIIという層の堆積が見られ、IV（黒褐色）とVII（III+砂利）が混じりながら交互に堆積し整層をなしていない点は注目される。

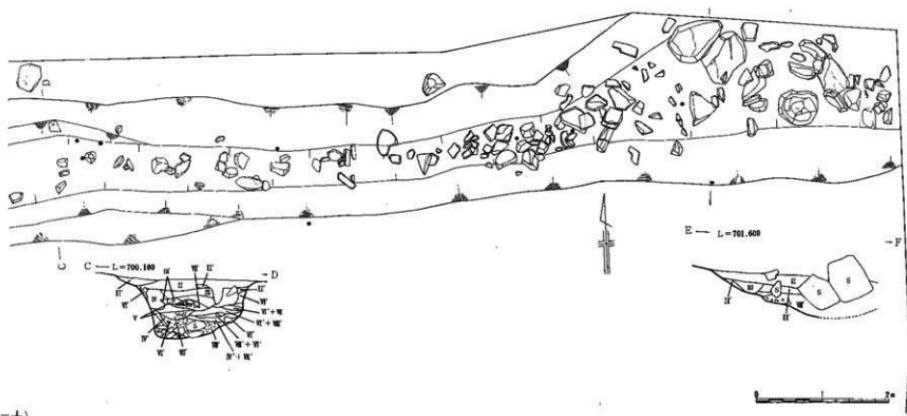
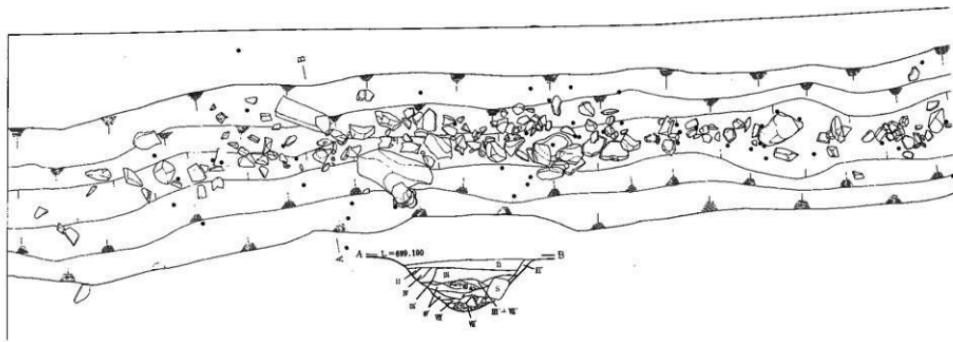
堀の断面形は東側で舟底形、中央部で鍋底形、西側で薬研形をしており、一見規則性に欠けると考えられるが、堆積土の状態や花崗岩・花崗閃綠岩を主とする自然礫を含む基盤までの人の為的な堀り込みから判断すると、流水時の水力を調整しながら構築していると考えられる。また、堀の幅と深さとの関係、堀底の蛇行からも裏付けられるのではないか。

遺物 堀の中からはIII層及び最下層のVII及びVII'層の直上から遺物は出土している。

第13図中1~7は灰釉陶器、8は内黒土師器、9~10は須恵器で堀より出土し、11~13は遺構外出土である。1~3は碗で1はゆるやかな立上がりをし口唇部を肥厚する。3も同様重ね焼きの痕跡が残る。2は丸味を帯びる貼り付け高台をもつ。1は堅致な胎土で2~3はひびが入るほど粗雑で釉は灰白色である。1~3は漬け釉である。4~7・11は皿である。4は内反する付高台をもち糸切り底である。5はゆるやかに立上がり丸みを帯びた付高台をもつ。6も同様の立上がりを見せるが高台がシャープにつけられている。7は口唇部下が稜をもち外面はヘラ削りである。11は6と同様の高台をもつが、外反する。重ね焼痕が内面に残る。4~6・11は胎土は堅致であるが、7は夾雜物を含む。総体的には、10C半ば~11C初に位置付けられ、東濃産が主であるが、



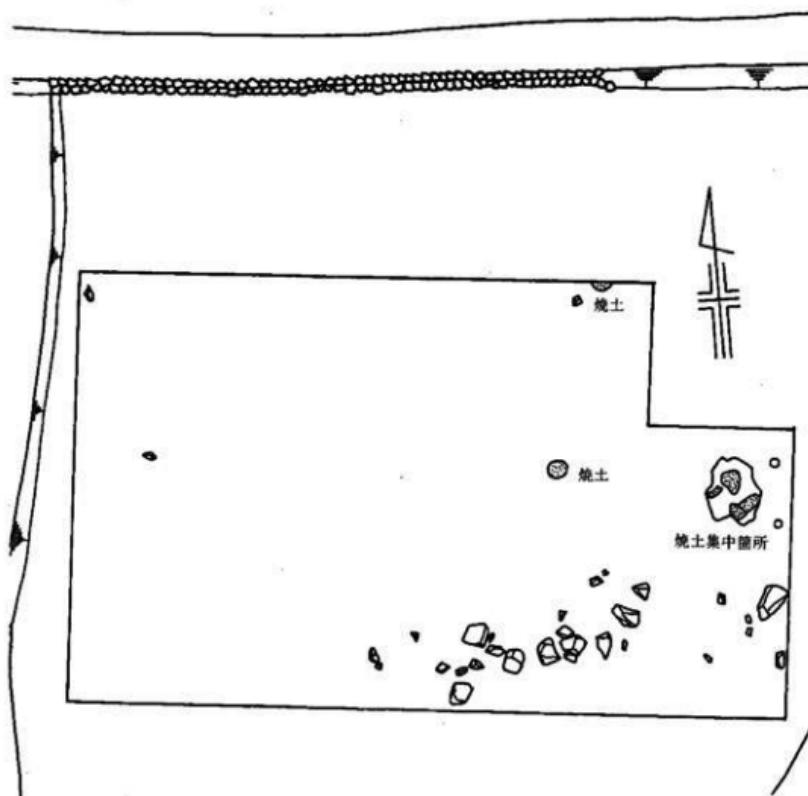
第13図 青木城跡B地区堀及び遺構外出土遺物実測図 (S = 1)



第14図 青木城遺跡B地区擬堀実測図($S = \frac{1}{100}$)

11は古く7は新しいところに位置付けられる。8は黒色土師器底部で、外反する付高台をもちヘラ削り後ナデている。内面には雑な暗文を施す。10C半ばに位置付けられる。9・10・12は須恵器甕で、9・10は平行叩き目を外面に施す。12は外反する口唇部をもち反り割合シャープである。総じて9C半ばに位置付けられる。13は青磁碗口縁部で、推定口径13.8cm、器壁厚は3~4mmで、釉色は濃緑色で、釉は0.5mm前後である。口唇部はやや肥厚する。縫入はない。宋~元に位置付けられる。第20図1の打製石斧は遺構外から出土している。自然面はないが刃部を欠く。硬砂岩製。

調査B地区から縦堀以外の遺構が検出されなかつたため、南壁にローム層下調査グリット(2m×2m)を設定して掘り下げてみたが、北壁で70cm、南壁で35cmの地点から自然の角礫群が露出したのみで、出土遺物はなく砂質ローム・疊の混土層が基盤となつた。



第15図 青木城遺跡C地区遺構全体図(S=1/200)

第4節 調査C地区遺構と遺物

焼土集中箇所(第16~20図、図版7・8)

遺構 本跡は調査C地区の東域より検出され、東西1m80cm前後、南北2m前後の範囲にわたって、焼土・木炭の分布が見られ、焼土はその中央部と南側に3~5cmの厚さで遺存していた。北寄りには15cm角から30cm角の大小5の礫が置かれており、いずれも花崗閃綠岩で焼けている。30cm東南に離れて60cm×80cm位の範囲に焼土・木炭の分布も見られた。この分布の中に、直径20cm深さ30cmの円形のピットがあり、北に1m70cm離れて直径20cm深さ28cmの同様のピットも検出された。両ピットともに底は割合に堅い。焼土集中箇所の基盤は黒褐色土層で、ピット寄りから東はローム層である。

遺物 第18図が出土した主な遺物である。1~3は灰釉陶器、4~5・11~14が土師器、6~10が黒色土師器である。1・2は碗で、1はゆるやかな立上りを見せ、内外全面につやのある灰釉(淡灰綠色)をハケ塗りしている。2は丸みを帯びた付高台をもつ。釉は灰色釉が内外面に施されている。3は皿で器壁は2~3mmと薄く口唇部は外反しくびれをもつ。釉色は灰青色である。1~3はいずれもナデ整形である。2・3は11C半ばに位置付けられる、1はやや古く位置付けられる。4・5は坏口縁部、11~14は坏底部である。4は口唇部が肥厚し外面に指ナデ調整痕が顕著で、内面はヘラナデである。5は一定の厚さでやや内湾気味の口縁部である。内面口唇部1cm幅位が黒色をしている。内外ともにナデ整形。11~14はいずれも糸切底で、11は上げ底で内外ともに炭化物が付着している。内面ナデ整形。12は底部の調整が悪く丸底状になっている。外面に炭化物付着。13~14は、11~12に比べて、底部の立上りがシャープである。13は雲母を多く含む。14は、明黄褐色をしていて長石・石英を多く含む。ともに、内外ナデ整形である。6~8は坏口縁部で、9は皿口縁部、10は坏底部である。6・7は口縁部がや外傾し、8は外反する。いずれも暗文ではなく、内外ともにナデ整形で外面には指ナデ痕が顕著である。9は口縁部半ばが肥厚し、直線的に外傾している。内外ナデ整形である。10は糸切り底で、底部中心部が盛り上がっている。立上りは丸みを帯び、内外ナデ整形で、外面には指ナデ痕が顕著である。土師器・黒色土師器は統じて、10C後半にかけて位置付けられる。

なお、焼土集中箇所から西へ5m地点には、直径45cmの円状に4cm前後焼土が遺存し、さらに北西へ8mの地点には、グリット際から直径55cmの半円部分のみの検出であったが3cm前後焼土が遺存していた。前者の周辺からは第20図中20の土師器坏底部が出土している。糸切り底部で上げ底をなす。立上りはゆるやかで、外面ナデ、内面ヘラでかき上げている。10C後半に位置付けられる。焼土集中箇所及び周辺の遺物分布状態は第19図を参照されたい。

遺構外出土遺物(第20・21図、図版8)

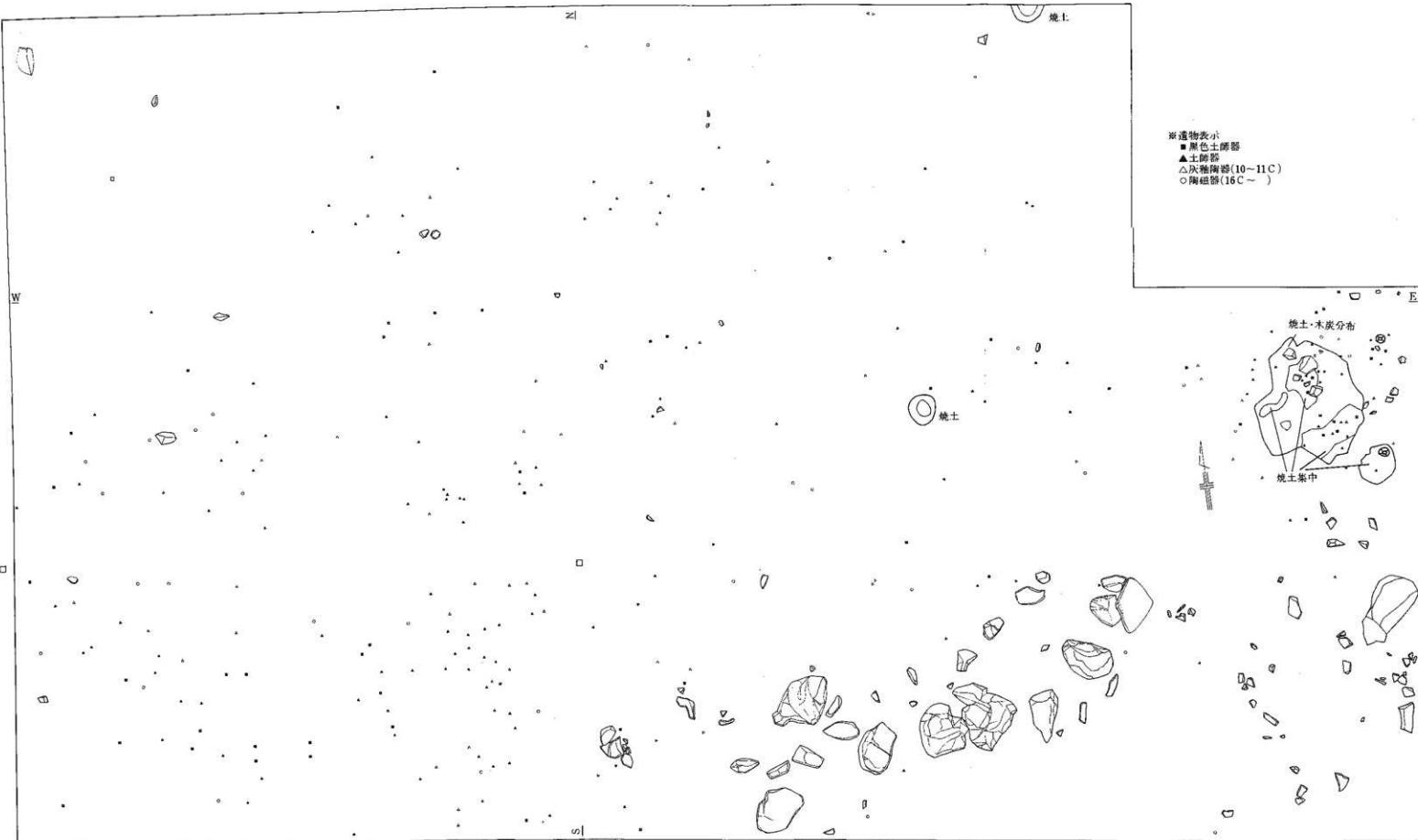
焼土集中箇所及び周辺を除き西域黒褐色土層上位から出土したものが主あり、北西域はローム

遺物表示
■ 黒色土質器
▲ 土師器
△ 淡雅陶器(10~11C)
○ 陶組器(16C~)

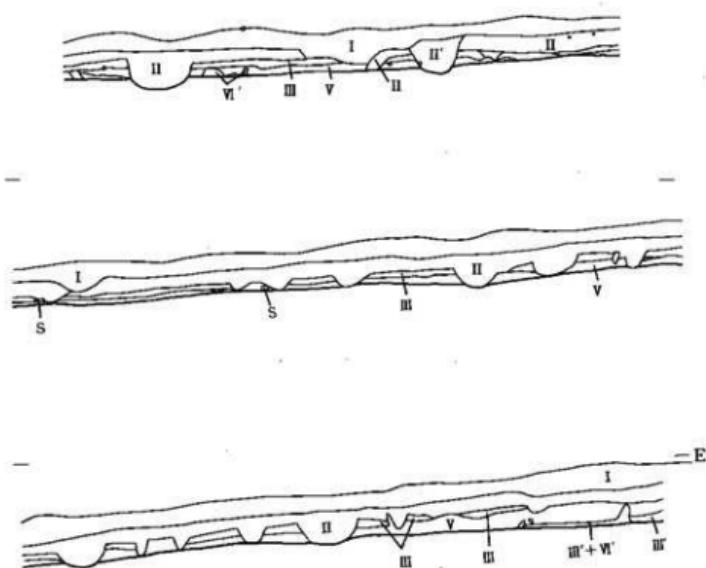
燒土・木炭分布

燒土集中

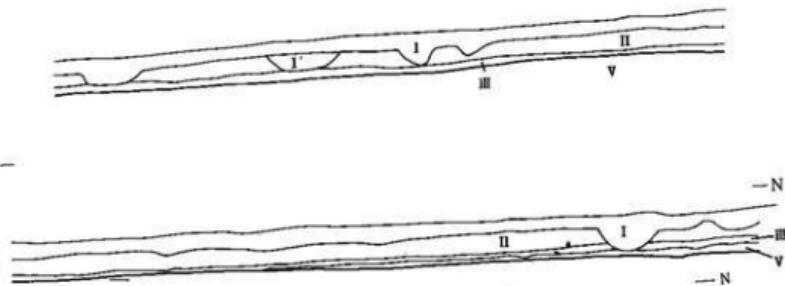
第16図 青木城遺跡調査C地区遺構実測図及び遺物分布図(S=古)



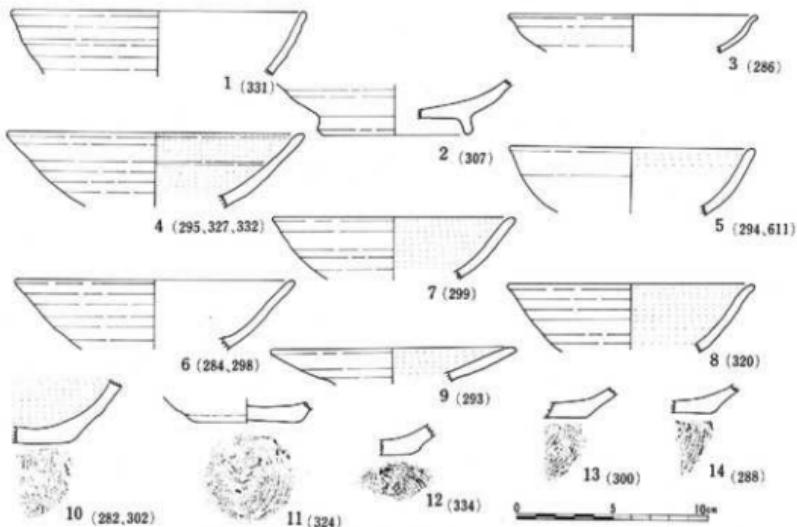
W - L = 698.500



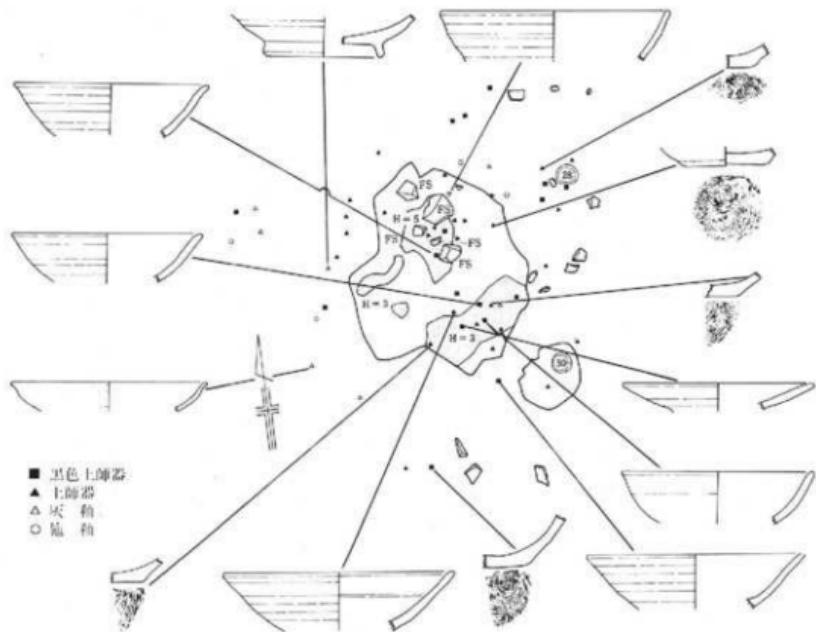
S - L = 697.800



第17図 青木城遺跡C地区土層断面図 (S = $\frac{1}{10}$)



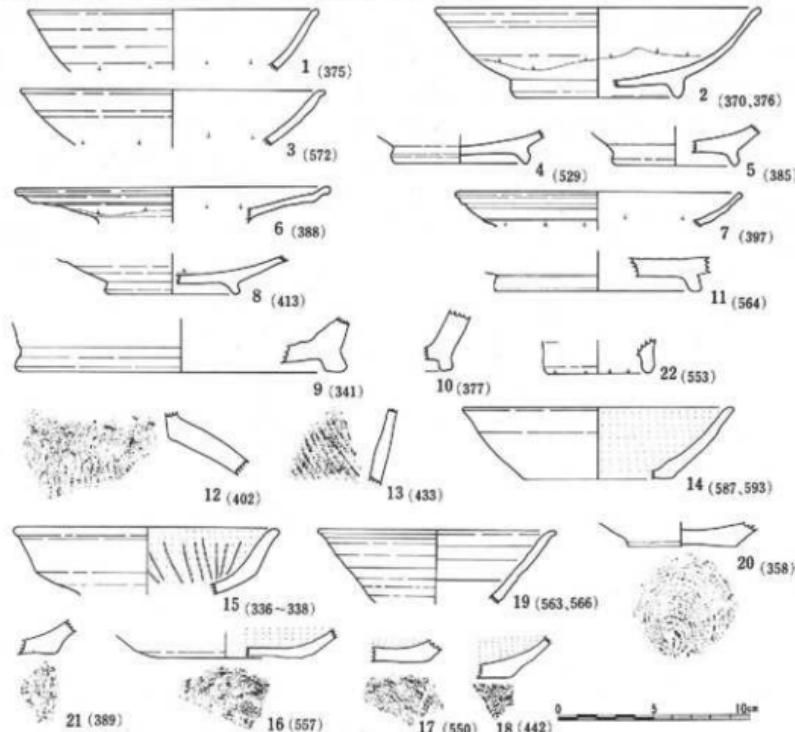
第18図 青木城C地区焼土集中箇所出土遺物実測図($S = \frac{1}{2}$)



第19図 青木城遺跡C地区焼土集中箇所遺物分布図

面上から出土している。

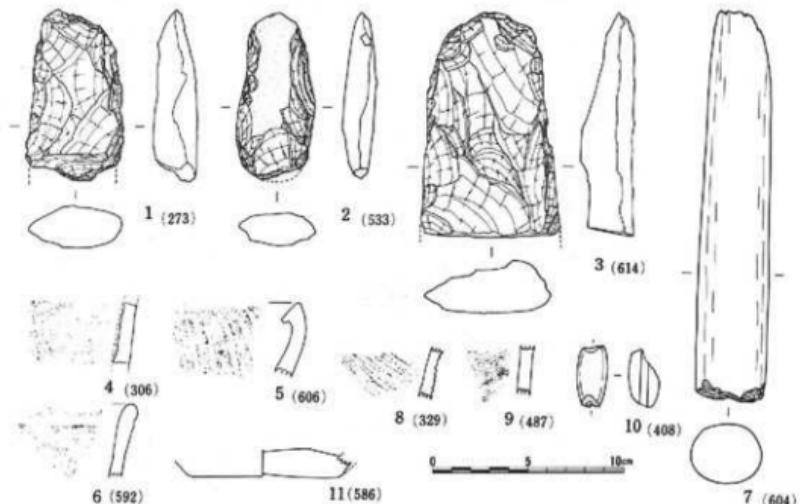
第20図 1～5は灰釉陶器碗、6～8は灰釉陶器皿である。1は口唇部がやや肥厚する。2は1/6個体で、丸みを帯びた付高台をもち底部内面は厚く、口縁部にかけて細身となり口唇に至り肥厚しやや外傾する。3は口唇部が外反し胴部にかけて肥厚する。1～3は釉色が灰白色であり、濁け釉である。4・5は高台が外傾し稜をもつ。ともに破片部分に釉は見られない。6は底部上端から外反しながら立上りを見せ口唇部は外屈する。7はやや内湾気味の口縁部で、口縁部に沈線状の凹線をもつ。8は稜をもつ高台が付けられ胴部は内湾しながらくびれて外屈する口縁部をもつと考えられる。4・5・8は高台内は削り後、ナデている。碗・皿とともに内外ナデ整形である。4～8はいずれも濁け釉で胴下半部までの施釉である。9・10は瓶の底部片で、付高台をもつ。9は胎土は堅致であるが、10は夾雜物が多く空洞が生じている。灰釉陶器は総じて10C末～11C半ばに位置付けられる。11・12・13は須恵器で、11は付高台をもち瓶の底部と考えられる。12・13は甕胴部片で12は平行叩き目、13は格子目文が施され調整されている。9C半ばに位置付けら



第20図 青木城遺跡C地区遺構外出土遺物実測図(S=1/2)

れる。14~18は黒色土師器坏である。14は1/5個体で、口唇部はやや外反する。底部はシャープに立上る。15は口縁部1/2個体で、内面には雑な暗文が付けられている。内外面ともにナデ整形であるが、外面胴部下半にはヘラ削り痕も残る。胴部は肥厚し、口唇部はやや外反する。16~18は底部片で、いずれも糸切り底である。16は丸みを帯びて立上り、17、18はやくびれて立上る。暗文はない。10C半ばに位置付けられる。19は土師器坏で直線的な立上りをし、口唇部は外反する。外面には指ナデ整形痕が顕著に残り、内面は4条の沈線状の平行線が見られる。器形から判断すると高台が付くものと考えられ、10C末に位置するものであろう。20・21は坏底部である。22は青磁碗の底部高台部分と考えられる。釉色は淡緑色で、胎土は堅致であるが夾雜物を含み灰白色をしている。釉は、高台内側半ばまでかけられている。中国南宋~明(12~14C)にかけての所産であろう。

第21図中1~3は打製石斧で、短冊形である。1・2は硬砂岩製で、1は刃部を欠き、2は若干刃部を欠く。2には自然面が残る。3は石材が片状ホルンフェルスに属すると思われる。刃部を欠く。縄文時代中期以降に位置付けられる。4はヘラナデの上に半截竹管による継位の連続押引文が施される。胎土には雲母・長石を多く含む。縄文前期に属する。5は折り返し口縁部で棒状施文具で斜条線を施す。縄文中期後半に属する。6は口唇部に沿って平行沈線文を施す。色調は黄白色である。縄文晚期に属する。7は、石剣の胴部片である。部分的にススける。綠泥片岩製。8は半截竹管で何度も平行沈線を施し条痕文状にまねている。縄文晚期~弥生初頭に属する。9は櫛状施文具で波状文を施す。弥生後期に属する。10は土鍤で、両端を欠くが表面には指紋が残る。孔は円形で筒状の植物等に粘土を巻きつけて製作したものと考えられる。11は土師器底



第21図 青木城遺跡B、C地区遭構外出土遺物実測図(No1のみB地区)

部で内面には指ナデ痕が残る。10・11はC地区出土の土師器の年代—10C半ばに位置付けられよう。

第V章　まとめ

昨年度の青木遺跡の発掘調査に続いて、本年度は青木城の本拠地へと下る台地中央部の調査を実施した。青木遺跡では、台地を東西に3分割する縦堀2条と、15世紀から16世紀にかけての住居跡1軒、同時代の柱穴址群、焼土・木炭集中箇所、配石遺構、礎石などの遺構が検出され、遺物では古瀬戸灰釉、天目、内耳土器等が出土したが、青木城館主と推定される牛山道賢に関する記述「天正元年牛山道賢、當都東伊那村青木城に居し、同二年本城（富県村牛ヶ城をさす）へ轉移す。」（『長野県町村誌 南信編』）、東伊那火山の高山神社棟札（天正十六年銘）等を実証するまでには至らなかった。

本調査（南信土地改良事務所受託事業分）では、青木遺跡から検出された北側の縦堀がさらに西へ伸びたものと推定できる堀（A地区）、台地を傾斜面の変化点（段差をもつ）で南北に区画していたと考えられる横堀（A地区）、さらには蛇行しながら台地の南側に構築されてきたと考えられる縦堀（B地区）が主要な遺構として検出された。A地区の縦堀とB地区の縦堀との間隔は約40mを測る。A地区の縦堀は上幅1m25cm～1m65cm、深さ40～45cm、B地区の縦堀は上幅2m15cm～2m60cm、深さ80～90cmを測る。この2条の縦堀を数値比較すると同地形でないのに上幅は1：1.6～1.8、深さ1：2となる。また、堀り込みの断面形はA地区で舟底形、B地区で薬研形として把握でき、前者は堀底の蛇行が弱く、後者は強い。さらに堀の堆積土状態は深さとも関連するがA地区縦堀はVII層上にII層が一次堆積し、B地区縦堀はVII'層上にIV'層の一次堆積、VII'層上にIII層が二次堆積している。これらのこととは台地上に構築された堀と台地南端に構築された堀の差のみでなく、導水の目的に加えて、生活・生産領域等までも意識して、規則性をもって構築されたことを意味していると考えられる。なお、A地区縦堀からは内耳土器が、B地区縦堀からは灰釉陶器がそれぞれ主体を占めて出土したことは、堀の性格を別にして、自然や歴史の成せる技であるとして興味を引く。両堀の明確な時代判定は困難であるが、15～16世紀に位置付けられる。

その他の遺構としては柱穴址群、柱列址、土壤が中世期のものとして想定できるが、特に周辺からの織文時代前期土器の伴出は当遺跡内に生活一集落跡の存在を暗に示すものである。

C地区より検出された焼土集中箇所とともに伴う土師器・黒色土師器（10C半ば一末）、灰釉陶器（10C前半～11C初。主体は東濃産古くは猿投新しくは中津川産）等の遺物の検出は、城館址の前時代の人々の生活跡として位置付けられ、遺跡の継続性を研究する資料として貴重である。

最後に、当遺跡の陶磁器鑑定をしていただいた瀬戸市歴史民俗資料館長官石宗弘氏、同学芸員藤澤良祐氏両名に心から感謝申し上げると同時に、既刊行の青木遺跡報告書中の記述で、「古瀬戸」を「黄瀬戸」と誤認し御両名に御迷惑をおかけしたことをおわび致します。　（小原晃一）

出土造物一覧表

本計測値の単位は、重さのみがgで、外はmmである。

番号	伴 団	種 別	形 態	時代及 び時期	計 測 値			特 徴
					高さ (長さ)	口幅 (幅)	側壁 厚さ	
1	第1回	灰 砂	口縁部	15~16C	2.6	14.3		7.9
2	第6回	内 耳	+	+			39.4	
3	第10回	土 器	+	+				
4		内 耳	削 部	+				
5		+	+	+				
6		+	口縁部	+				
7	第10回	土 器	深鉢、削部	縄文中期				色調一白灰色、紺土一砂粒をほとんど含まず紺土のキメは比較的細かい、焼成一良好
8	第6回	内 耳	底 部	15~16C	16.4	28	25	色調一暗褐色、紺土一やや粗い(2mm以下)砂粒、こまかい長石・石英、含むと焼成良好
9		+	+	+				
10	第6回	+	口縁部	+				No.8と同一個体
11		+	底 部	+				+
12	第6回	+	底 部	+				22.8
13		土 器	深鉢、削部	縄文中期				色調一暗褐色、紺土一こまかいがくらみの小砂粒含む、焼成一良好
14	第6回	内 耳	口縁部	15~16C				無文
15		+	+	+				No.8と同一個体
16		+	+	+				No.8と同一個体
17		+	底 部	+				色調一暗褐色、紺土一1mm以下の長石・石英、焼成一良好
18		石 器	打製石斧、刮片	縄文中期				No.8と同一個体
19			墨岩石、刮片					無砂粒
20			+	+				
21		内 耳	底 部	15~16C				
22	第6回	+	口縁部	+				色調一褐色、紺土一1mm以下の長石・石英(砂粒)、焼成一良好
23		+	底 部	+				
24		+	底 部	+				No.27と同一個体
25		+	削 部	+				
26		+	底 部	+				
27	第6回	+	+	+				No.8と同一個体
28								
29		内 耳	新 基	15~16C				
30	第10回	土 器	深鉢、口縁部	縄文中期				色調一褐色、紺土一全基部・底石多し、焼成一良好、文様一半纏竹籠による平行比棒
31		石 器	打製石斧、短簫形					無砂粒
32		内 耳	底 部	15~16C				無砂粒
33		+	底 部	+				無砂粒
34		石 器	打製石斧、短簫形	縄文中期				無砂粒のみ
35	第6回	内 耳	底 部	15~16C				No.8と同一個体
36		+	+	+				+
37		土 器	深鉢、削部	縄文				
38		内 耳	底 基	15~16C				
39		灰 砂	小形鉢、口縁部	中世				
40		内 耳	削 部	15~16C				
41		+	+	+				
42		+	+	+				
43		+	+	+				
44		+	+	+				
45		+	口縁部	+				

番号	神 國	種 別	形 態	時代及 び時期	計測値				特 徴
					高さ (長さ)	山径 (幅)	側径 (厚さ)	底径 (重さ)	
46	第6回	内耳	輪 部	15~16C					No.8と同一物体
47		"	底 部		*				
48	土 器	深鉢、胴部		萬文					
49	内耳	底 部		15~16C					
50	"	"			*				
51		玉理石		萬文中期					サイアスクレイバー
52	石 器	敲打器、剥片							破砂器
53	土 器	深鉢、胴部							萬文
54	内耳	口端器		15~16C					
55	"	剥 部			*				
56		破砂岩、剥片							
57	土 器	深鉢、胴部			*				萬文
58	石 器	打製石斧、短柄形		萬文中期					刃部丸く、鋸歯片質
59	"	敲打器、剥片			*				破砂器
60	"	打製石斧、剥片			*				*、頭部のみ
61		剥片			*				
62	第10回	七 器	深鉢、胴部	萬文前期					色調一明褐色、粒状一やや細い長石多し、センイ若干、他成一良好、文様一縦條の横模様あり。内側ナメ
63		石 矛							
64		玉理石、剥片							
65	内耳	剥 部		15~16C					
66	"	底 部			*				
67	"	"			*				
68		玉理石、剥片							
69	土 器	深鉢、胴部			*				
70	内耳	剥 部		15~16C					
71	"	"			*				
72	"	"			*				
73	天 日	茶碗口縁部		15C					
74	石 器	打製石斧、短柄形		萬文中期					完形、砂石
75		破砂岩、剥片			*				
76	石 器	と石破片							安山岩
77	"	敲打器							完形、破砂岩一部する
78	第10回	土 器	深鉢、胴部		*	前期			色調一褐色、表面褐色、胎土一0.5~2.0の粗い長石・石英を含む、他成一良好、文様一鳥
79		石 器	すり石		*	中期			砂岩
80	第10回	土 器	深鉢、胴部		*	中期			色調一明褐色、胎土一灰黄多し、附センイ、他成一良好、文様一鳥文
81	"	"			*				
82	石 器	打製石斧、短柄			*	中期			刃部のみ、破砂岩
83	施 仙	碗、口縁部							
84	石 器	長石破片							
85	第10回	土 器	深鉢、胴部	萬文前期					色調一褐色、表面風化物付着、胎土一0mm~1mmの粗い長石含むセンイ若干、他成一良好、文様一瓜形文
86	"	施 仙	下リ縁、剥部			16C			色調一褐色、胎土一灰黄色、他成一良好、調性一外へラ、内へナ
87	土 器	深鉢、剥部		萬文前期					瓜形文
88	天 日	剥 部		15C					
89	土 器	深鉢、胴部		萬文前期					桑葉文
90	"	"			*				比梅文
91	灰 磬	板、剥部		11C					
92	石 器	すり石		萬文中期					破砂岩
93	第10回	土 器	深鉢、胴部	萬文前中期~中期					色調一明褐色、胎土一1mm~3.5mmあたり長石含む、センイ若干、他成一良好
94		骨 簪		15C牛					

番号	博団	種別	形態	時代及び時期	計測値				特徴
					高さ 厚さ	口径 (幅)	断面 厚さ	底面 厚さ	
95	施	石器	瓶、胴部 粘土片岩、剥片	16C					
96	石器			萬文中期					
97			砂岩						
98			*						
99	石器	長石 塵		中世					
100	施	石器	瓶、胴部 黑曜石、剥片	16C以降					
101				萬文中期					
102			粗粒岩						
103	土器	瓦钵、胴部		萬文前期					
104			チャーフ	*					
105	第10回	施	茶碗、口縁部	16C以降					
106		土器	湯鉢、胴部	萬文前期					
107			黒曜石、剥片	*					
108			硬砂岩、剥片	*					
109	施	瓶	口縁部	15C					
110	第10回	施	瓶、底部	16C以降					輪一周褐色、全周、底土一帯白色、斑端物多し、施成一具、底部角切り
111	石器	石器	已開口						
112	第10回	土器	湯鉢、胴部	萬文中期後半					白褐色一赤褐色、底土一帯0.2~3.0mmの黄石・石英などをやや多目に含む、施成一具が 輪一周褐色
113	*	*	*	萬文後期					白褐色一青褐色、底土一帯0.2~2.0mmの長石・石英などをやや多目に含む、施成一具 輪一周褐色
114	施	瓶、胴部		16C					
115			瓦合	萬文					
116	内耳	刷	部	16C					
117			黒曜石	萬文中期					
118	石器	粗粒岩							タッカあり
119	土器	灰陶器、胴部		16C					
120			黒曜石	萬文中期					タッカあり
121	石器	ナリ石	*						暗紺石
122	土器	湯鉢、底部		10C					
123	上部	湯鉢、底部		萬文前期					横成あり
124	*	*	*						盤底
125	*	*	*						*
126	第11回	石器	ピエスエスキーエ	萬文	2.8	1.5	0.8	2	黒曜石
127	石器	甕	器	*					硬砂岩、一端する
128			花崗岩						
129	石器	ナリ石		萬文中期					花崗岩
130	土器	湯鉢、湯器	*						萬文
131	*	*		萬文前期					指痕あり
132	石器	ナリ石		萬文中期					硬砂岩
133			黒曜石、剥片	*					
134	天目	瓶、胴部		15C					タッカあり
135			硬砂岩、剥片	萬文中期					
136	土器	甕、胴部		10C					
137	第11回		キセルがん首						内部に木質部の小片残存。表面は全体にわたってロクショウをふく
138	第10回	土器	湯鉢、胴部	萬文後期					色濃一淡青褐色、底土一帯0.2~2.0mmの長石・石英・金雲母などをやや少な目に含む 施成一具好。天板一元無文
139	*	*	*	萬文前期					指痕あり
140	*	*	*						*
141	*	*	*						*
142	*	*	*						*
143	石器	ナリ石							特殊形、棒状

番号	神 國	種 別	形 態	時代及 び時期	計測値				特 徴
					高さ (cm)	口徑 (cm)	側径 (cm)	底径 (cm)	
144	土器	深鉢、頸部	绳文前期						縫合あり
145		硬砂岩、削片	绳文中期						
146		黒曜石、削片	*						
147	石器	石英							
148		黒曜石、削片	绳文中期						
149	土器	深鉢、頸部	绳文前期						沈維+指痕
150	石器	すり石	绳文中期						硬砂岩
151		黒曜石、削片	*						
152		すり石	*						
153	石器	打製石斧、冠墻形	*		(6.5)	3.9	1.8	37	硬砂岩、一部たたく
154	*	長石	中鉢						硬砂岩
155	*	すり石	绳文中期						硬砂岩
156	第11国	黒曜石	*		4.3	2.	0.5	5	サイドスクレイバー 指痕あり
157		土器	深鉢、頸部	绳文前期					
158	内耳	口縁部	15~16C						
159	*	底部	*						
160	*	腹部	*						
161	*	*	*						
162	土器	深鉢、頸部	绳文前期						縫合あり
163	*	*	*						
164	内耳	底部	15~16C						
165	*	*	*						
166	*	腹部	*						
167	第6国	*	底部	*					No.8と同一
168		土器	深鉢、頸部	绳文初期					
169	第6国	内耳	底部	15~16C					No.12と同一
170		土器	深鉢	绳文					
171	内耳	腹部	15~16C						
172	石器	禮器	绳文中期						
173	土器	深鉢、削片	绳文						
174	内耳	底部	15~16C						
175	*	腹部	*						
176	土器	深鉢、頸部	绳文前期						縫合あり
177	内耳	腹部	15~16C						
178	*	*	*						
179	第6国	*	底部	*					No.8と同一個体
180		*	腹部	*					
181	*	*	*						
182		黒曜石、削片	绳文中期						
183	土器	深鉢、頸部	绳文前期						無文
184		黒曜石、削片	绳文中期						
185	土器	深鉢、口縁部	*						縫合あり
186	*	深鉢、頸部	绳文前期						縫合あり
187		黒曜石、削片	绳文中期						
188	*	*	*						
189	第10国	上器	深鉢、口縁部	*					色調一概褐色、胎土一回0.2~1.5mmの長石・石英・金剛石などをやや多目に含む。
190		石器	敲打器	*	19.4	5.7	3.1	281	硬砂岩
191		硬砂岩、削片	*						
192		結晶片岩、削片	*						

番号	種別	形態	時代及 期	計測値				特 徴
				高さ (重さ)	口径 (幅)	底径 (厚さ)	底径 (重さ)	
193		硬砂岩・剥片	周文中期					《以上調査A地区出土》
194	灰 砂	塊・頭部	II C					色調一黑色、粘土一枚0.2~2.0mm砂粒をごく少量含む。焼成一良好、平行叩き目
195		墨端石・剥片	周文中期					
196	灰 砂	塊・口縫部	II C					
197	"	塊・頭部	"					
198	第13回	吸音器	塊・頭部	"				
199	灰 砂	塊・口縫部	"					
200	"	"・頭部	"					
201	"	"・底部	"					
202	"	"・頭部	"					No.1と同一個体
203	"	"・ "	"					
204	灰 砂	"・ "	16C末					
205	"	"・口縫部	"					
206	"	"・頭部	"					
207	天 目	"・ "	15C					
208	灰 砂	"・ "	II C					
209	第13回	吸音器	塊・頭部	"				色調一暗青灰色、粘土一枚0.2~1.5mmの砂粒をやや多目に含む。焼成一良好、平行叩き目
210	灰 砂	塊・頭部	II C					
211	内 耳 制 部	"	15~16C					
212		墨端石・剥片	周文中期					タッカあり
213	灰 砂	板・頭部	II C					
214	"	塊・口縫部	"					
215	"	"	"					
216	吸音器	塊・頭部	"					
217	"	"	"					電子目
218	"	"	"					平行叩き目
219	灰 砂	块・底部	II C					
220	"	塊・頭部	"					
221	土磨器	杯・頭部	"					
222	灰 砂	块・頭部	II C					
223	"	"	"					
224	第13回	"	"	"	10.7			色調一灰白色、粘土一枚粒をほとんど含まず。粘土のキメは比較的細かい。焼成一良 好。
225	土磨器	杯・頭部	"					
226	土 磨	炭体・頭部	周文前開					
227	灰 砂	塊・頭部	II C					
228	土 磨	炭体・頭部	周文中期					
229	灰 砂	口縫部	II C					
230	"	"	"					
231	土 磨	炭体・頭部	周文					
232	"	"	"					
233	第13回	灰 砂	直	II C	2.2	10.8	5.6	色調一灰色、粘土一枚粒をほとんど含まず。粘土のキメは非常に細かい。焼成一良 好。1/4個体。
234	土 磨	炭体・頭部	周文					
235	土磨器	杯・頭部	"					
236	灰 砂	塊・頭部	II C					
237	土 磨	炭体・頭部	周文					
238	第13回	灰 砂	直	II C				No.1と同一個体
239	灰 砂	塊・頭部	18C					

番号	押 岡	種 別	形 態	時代及 び時期	計測値			特 徴
					高さ (長さ)	口径 (幅)	側径 (厚さ)	
240	土 器	皿		IIC				No.233と同一個体、1/4例体
241	第13回	灰 帽	碗・網部					色調一灰白色。粘土一枚板をほとんど含ます。粘土のキメは非常に細かく真實集成一良好。
242								
243	内 耳	削 刮						
244	第13回	灰 帽	碗・底部	IIC				色調一灰白色。粘土一枚板をほとんど含ます。粘土のキメは比較的粗かい集成一良好。
245	*	碗	網部	*				
246	*	*	*	*				
247	*	皿・底部						No.241と同一個体
248	*	*		IIC				
249	第13回	*	碗・底部	*				色調一灰白色。粘土一枚板をほとんど含ます。粘土もかなりキメが粗かい集成一良好。
250	土 器	深盆・網部		網文				
251	灰 帽	碗・底部		IIC				
252	第13回	*	碗・口縁部	*				色調一灰白色。粘土一枚板をほとんど含ます。粘土はキメの非常に細かく真實集成一良好。
253	内 耳	削 刮		15~16C				
254		磨擦石・刮片		網文				
255	土 器	深盆・網部		*				
256	*	*	*	*				
257								
258	第14回	灰 帽	皿・底部	IIC初				No.242と同一個体
259		硬質岩・鉢片		網文				
260		チャート・刮片		*				
261	上部骨	耳・網部						
262	施 釉			17C以降				
263	*	茶碗・口縁部		18C以降				
264	上 部	瓦格各碗		*				
265	下部器	小行窓・口縁部		*				
266	石 器	すり石		網文				砂利、スズ付着
267								
268	第13回	青 瓶	碗・口縁部	14C				色調一墨緑色。粘土一枚灰色に植物混じる、集成一良好
269	灰 帽	*		18C				
270	天 日	小舟・網部		15C				
271	石 器	長石・丸		中世				
272	施 釉	碗・口縁部		17C以降				
273	第13回	石 瓷	打製石斧・研磨形	繩文中期	(8.8)	5	2.1	破妙者、刃部欠く
274	施 釉	碗・網部		17C				
275	第13回	豆漿器	碗・口縁部	9C				色調一暗青褐色、粘土一枚0.2~3.0mmの白色砂粒を少量含む、集成一良好
276	内 耳	網 部		16C				
277		磨砂石・刮片		網文				
278	施 釉	碗・網部		17C以降				
								〈以上調査B地区出土〉
279	土 器	發物壺・網部		18C				
280	土器部	甕・口縁部		IIC				
281	*	耳・網部						
282	第13回	*	内底耳・網部	IIC				色調一褐色、直径0.2~1.0mmの長石・石英・金雲母などを少量含む、集成一良好。
283	灰 帽	碗・網部		*				
284	第13回	土器部	内底耳・網部	*				色調一淡青褐色、粘土一枚0.2~1.5mmの長石・石英・金雲母などを多目に含む、集成一良好。
285	*	耳・底部	*					赤切引
286	第13回	灰 帽	碗・口縁部	*				色調一墨緑色。粘土一枚砂をほとんど含ます、粘土は比較的キメが粗かい集成一良好。

番号	博団	種別	形態	時代及び時期	計測値				特徴
					高さ 風化	口径 (幅)	周長 (厚さ)	底径 (重さ)	
287		石器	長石・丸	中世					
288	第18回	土師器	平・底部	11C					色調一赤褐色、粘土一層0.2~1.5mmの長石・石英など暗赤褐色を中程度含む 底成一良好、無切り
289									
290		土師器	甕・頸部	11C					
291		#	平・口縁部	#					
292		#	甕・胴部	#					
293	第18回	#	内里、底・口縁部	#					色調一褐色、粘土一層0.2~1.5mmの長石・石英・金雲母などをやや多目に含む、底成一良好 色調一赤褐色、内里・底・口縁部
294	第18回	#	内里・平・口縁部	#					色調一赤褐色、粘土一層0.2~1.5mmの長石・石英・金雲母などを中程度含む 底成一良好
295	第18回	#	内里・平・胴部	#					色調一赤褐色、粘土一層0.2~1.5mmの長石・石英・金雲母を少量含む、底成一良好
296		直 積	リズル・胴部	15C					
297		土師器	内里、平・胴部	11C					
298	第18回	#	#	#					No284と同一
299	第18回	#	内里、平・口縁部	#					色調一褐色、粘土一層0.2~1.5mmの長石・石英・金雲母などをやや多目に含む 底成一良好
300	第18回	#	平・底部	#					色調一赤褐色、粘土一層0.2~1.5mmの長石・石英・金雲母などを中程度含む 底成一良好
301		灰 粗	瓶・口縁部	11~12C					
302	第18回	土師器	内里・平・底部						No282と同一
303		#	甕・口縁部						
304		石 器	安山岩製片						
305		#	輝石岩						
306	第21回	#	深杯・胴部	縄文中期初					やう石
307	第18回	#	甕・底部	11C					色調一褐色、粘土一層0.2~2.5mmの長石・石英・金雲母などをかなり多く織入する 底成一良、文様一节帶引文
308		土師器	小形甕						色調一淡白色、粘土一層0.2~0.5mmの長石・石英・金雲母などを中程度含む 底成一良好
309		土 器	深杯・胴部	縄文中期後半					
310		灰 粗	甕・胴部	12C					
311		土師器	内里、平・胴部						
312		灰 粗	甕・胴部	11C					
313		土師器	平・底部						
314		#	甕・胴部						
315		#	平						
316		#	甕・口縁部	11C					1/10個体、No313と同一個体
317	第18回	#	内里、平・口縁部	#					色調一褐色、粘土一層0.2~1.5mmの長石・石英・金雲母などをかなり多く含む 底成一良好
318		#	甕・胴部						
319		#	#						No318と同一個体
320	第18回	#	内里、平・口縁部	11C					No317と同一個体
321		#	平・胴部						
322		#	平・口縁部	11C					
323		#	#	#					No322と同一個体
324	第18回	#	平・底部	#					色調一褐色、粘土一層0.2~1.5mmの長石・石英・金雲母などをやや多目に含む 底成一良好、無切り、No322と同一個体
325		#	甕・胴部						
326		#	内里、平・口縁部	11C					No326と同一個体
327	第18回	#	#	#					No326と同一個体
328		#	#	#					
329	第21回	土 器	疊形・胴部	縄文晚期					
330		土師器	甕・胴部						
331	第18回	灰 粗	甕・口縁部	11C					色調一褐色、粘土一層0.2~1.0mmの長石・石英・金雲母などを中程度含む、底成一良
332		土師器	内里、平・口縁部	#					色調一褐色、粘土一層0.2~1.0mmの長石・石英・金雲母などを中程度含む 底成一良好
333		土 器	深杯・胴部	縄文晚期					
334	第18回	土師器	平・底部	11C					
335		#	平・口縁部	#					色調一赤褐色、粘土一層0.2~1.0mmの長石・石英・金雲母などを少量含む 底成一良好、無切り、又文理

番号	種別	形態	時代及び時期	計測値			特徴
				高さ (長さ)	口径 (幅)	底径 (厚さ)	
336 第20区	土器	内墨环・口縁部	11C		13.2		色調一深褐色～赤褐色。胎土一径0.2～1.5mmの長石・石英・金雲母をやや多目に含む。焼成一良。
337 *	*	*	*				No.330と同一個体
338 *	土器	*	*				No.330と同一個体
339	施 磁	透明藍・口縁部	18C				
340	土器	甕・底部					
341 第20区	土 器	瓶・底部	11C				16.8 色調一浅灰色。胎土一径0.2～1.0mmの白色砂粒をごく少含み。粘土のキメは非常に細かく良好。焼成一良好。
342 *	*	盖・底部	萬文中期前半				竹管文
343	土器	环・側部					
344	灰 陶	甕・底部	11C				
345	施 陶	铁格・甕・底部	18C以前				
346	土 器	盆体・口縁部	萬文中期前半				通體瓦狀文
347	土器	甕・底部					
348 *	*	内墨环・底部					
349 *	甕	甕・底部					
350 *	甕	甕・底部					系切引
351 *	*	内墨环・底部					
352	内 耳	甕 部	15～18C				
353	土器	甕・口縁部	11C				
354	土 器	蓋体・底部	萬文中期前半				竹管文
355	灰 陶	甕・底部	11C				
356							
357	土器	甕・底部					
358 第20区	*	环・底部	10C				5.6 色調一深褐色。胎土一径0.2～1.5mmの長石・石英などを中程度含む。焼成一良好。系切引
359 *	*	内墨环・口縁部					
360 *	*	环・底部					
361 *	*	*					No.360と同一個体
362 *	*	内墨环・底部					
363 *	*	环・底部					
364 *	*	*					
365	黑漆器	高台付环	10C				
366	灰 陶	甕・底部					
367	土器	环・底部					
368 *	*	内墨环・底部	11C				系切引
369	土 器	小形态・底部					
370 第20区	灰 陶	甕・底部	11C	4.7	16.7	8.5	色調一深褐色。胎土一砂粒をほとんど含まず。粘土は非常にキメが細かい。焼成一良好。
371	土器	内墨环・底部					色調一深褐色。胎土一径0.1～1.0mmの長石・石英・金雲母などを少含み。焼成一良。
372 *	*	环・底部					
373 *	*	甕・底部					
374 *	*	小形态・底部					No.360と同一個体
375 第20区	灰 陶	甕・口縁部	11C				色調一深褐色。胎土一砂粒をほとんど含まず。粘土は非常にキメが細かい。焼成一良好。
376 *	*	*	*				No.375と同一個体
377 *	*	甕・底部					色調一深褐色。胎土一径0.2～1.0mmの砂粒をごく少含み。粘土は比較的キメが粗かい。焼成一良。
378	土器	甕・底部	10C末～11C				
379 *	*	内墨环・口縁部					
380 *	*	小形态・底部					
381 *	*	环・口縁部					
382 *	*	甕・底部					
383 *	*	环・底部					
384 *	*	内墨环・底部					

番号	地図	地名	形態	時代及び時期	計測値			特徴
					高さ (cm)	U径 (幅)	側径 厚さ	
385	第20図	灰 烏	壺、底部	HIC			6.2	色調一淡黄白色。粘土一面0.2~0.5mmの白色砂粒をごく少量含み。粘土は比較的細かい。未成一底に比してやや高い。
386		土師器	内黒环・口縁部					
387		灰 烏	成・肩部					
388	第20図	"	壺、口縁部			16.1		色調一白灰色。粘土一面0.2~1.0mmの白色砂粒をごく少量含み。粘土のキメは他の灰陶に比してやや粗い。未成一底
389	"	土師器	外、底部					色調一暗青褐色。粘土一面0.2~0.5mmの黄褐色・石英・金雲母などを少量。暗青褐色を中程度含む。未成
390	"	灰 烏	肩、頸部					NH209と同一個体
391		土師器	环、縁部	18C以前				
392		土師器	小形壺・肩部					
393	"	小形壺	底部					
394	上	灰 烏	音、肩部	周文中期後半				比較
395	"	泥鉢	肩部	周文後期				
396		黑曜石	剝片	周文				
397	第20図	灰 烏	壺、口縁部	HIC		14.6		色調一白灰色。粘土一面0.2~1.0mmの白色砂粒をほとんど含まず。粘土はキメが非常に細かく良質
398		土師器	肩、頸部					相成一底
399	施	灰 烏	口縁部	18C				内部灰白色付着
400		土師器	环、底部					
401	"	灰 烏	肩、頸部					未観察
402	第20図	灰土器	袋、底部					色調一暗青褐色。粘土一面0.2~1.0mmの砂粒を中程度含む。未成一底好
403	灰 烏	瓶、肩部						
404		土師器	环、口縁部					
404	"	内黒环・口縁部						
406	"	内黒环・肩部						
407	"	肩、頸部						
408	第21図	土壺		HIC	3.2	1.5	1.5	7 孔径4mm、上・下端丸く
409	灰 烏	瓶、肩部		HIC				
410		土師器	环、底部					未観察
411	"	小形壺						
412	"	环、頸部						
413	第20図	灰 烏	壺、底部	HIC				色調一白灰色。粘土一面0.2~1.0mmの白色砂粒をごく少量含み。粘土のキメは他の灰陶に比してやや粗い。未成一底好
414		土師器	内黒环・肩部					
415	"	小形壺	肩部					
416	灰 烏	瓶、肩部		HIC				
417		土師器	环、底部					
418	"	小形壺	肩部					
419	灰 烏	瓶、口縁部						
420		土師器	小形壺・口縁部					
421	灰 烏	瓶、頸部						
422	七	器	深井・肩部	周文中期前半				複数+通経瓦形文
423	灰 烏	瓶、口縁部		HIC				
424		頁岩・剝片		周文				
425		土師器	环、底部					
426	"	内黒环・底部						未観察
427	施	茶碗・肩部		18C				
428	灰 烏	瓶、肩部		HIC				
429		土師器	小形壺・肩部					
430	"	"						はけぬ
431	"	"						
432	"	"						
433	第20図	土 壽	瓶、頸部					色調一青灰褐色。粘土一面0.2~1.0mmの砂粒少量化し、未成・底好、柿子目

番号	種別	形態	時代及 ひ代期	計測値			特 徴
				高さ (長さ)	口径 (幅)	側径 (厚さ)	
434	灰 墓	瓶・口縁部					
435	土師器	环・底部					
436	"	小形袋・腹部					
437	灰 墓	瓶・底部	II C				
438		花崗岩					
439	土師器	瓶・底部					
440	"	内黒环・腹部					
441	"	" 口縁部					
442	表22回	" "					
443		石 罐	敲打器	開文			
444	土師器	瓶・肩部					
445	土 罐	瓶・口縁部	II C				
446	土師器	瓶・肩部					
447	"	瓶・肩部					
448	"	瓶・肩部					
449	"	小形瓶・口縁部					
450	"	内黒环・口縁部					
451	天 目	瓶 部					
452	土師器	小形袋・新部					
453	灰 墓	瓶・口縁部					
454	土師器	内黒环・新部					
455	良渚器	瓶・肩部					
456	土師器	环・腹部					
457	"	瓶・肩部					
458	"	"					
459	"	小形袋・腹部					
460	"	"					
461	"	"					
462	施 瓷	供物瓶・口縁部					
463	土師器	瓶・肩部					
464	"	环・肩部					
465	"	小形袋・腹部					
466	"	环・底部					
467	灰 墓	瓶・肩部					
468	土師器	内黒环・底部					
469	"	内黒环・底部					
470		环・肩部					
471	土 罐	深井・肩部	開文中期				
472	"	"	"				
473	土師器	瓶・肩部					
474		宝山岩・砂片					
475	灰 墓	瓶・口縁部	II C				
476	土師器	环・底部					
477	"	小形・肩部					
478	石 罐	敲打器・碎片					
479	土師器	环・底部					
480	"	小形袋・腹部					
481	灰 墓	瓶・肩部					
482	土師器	瓶・肩部					

番号	持國	種別	形態	時代及び時期	計測値				特徴
					高さ (長さ)	口径 (幅)	側径 (厚さ)	底径 (重さ)	
483	灰陶	碗・頭部							No.481と同一個体
484		黑曜石・削片							
485	灰陶	豆・口縁部	幾文						
486		土師器	袋・口縁部						
487	第21回	土器	杯・頭部	衛生後期					色調一褐色。粘土一部0.1~0.5mmの砂粒を少量含む 焼成一良好、文様一無文
488		灰陶	豆・頭部	衛生後期					
489		土器	豆・頭部						無文、No.487と同一個体
490		土師器	袋・頭部						
491	灰陶	碗・頭部							
492		土師器	豆・頭部						
493	#	内黒环・口縁部							
494	#	环・頭部							
495	#	小形容・頭部							
496	#	豆・頭部	10C						
497	#	小形容・頭部	10C						焼け目
498	#	#	#						No.487と同一個体
499	#	#	#						#
500	#	豆・頭部							
501	#	#							外縁のほりめ
502	#	内黒环・底部							
503	灰陶	豆・頭部							
504	#	#							No.483と同一個体
505	#	碗・口縁部							
506	土師器	环・底部							外縁
507	灰陶	碗・口縁部							
508	土師器	小形容・頭部							No.497と同一個体
509	頭意器	豆 -							
510	灰陶	碗・頭部							No.481と同一個体
511	土器	鉢輪窓・頭部							
512	染付	茶碗・底部	11C以前						
513	灰陶	豆・底部							
514	灰陶	碗・口縁部							
515	土師器	内黒环・底部							
516	頭意器	环・底部							
517	土師器	内黒环・口縁部	10C						
518	#	#	#						
519	頭意器	环・頭部							
520	土師器	内黒环・底部							
521	#	豆・底部							
522	#	环・頭部							
523	#	小形容							
524	灰陶	豆・底部							
525	土師器								
526		磨砂岩							
527	土師器	小形容・頭部							
528	#	内黒环・底部							
529	第21回	灰陶	碗・底部	11C					7 色調一灰色。粘土一部0.1~0.5mmの砂粒を含みます。焼成一良好
530		土師器	豆・口縁部						
531	#	豆・頭部	10C						

番号	掉 片	種 別	形 態	時代及 び時期	計測値				特 徴
					高さ (長さ)	口径 (幅)	洞径 (厚さ)	底径 (高さ)	
532		遺物器	刃・頭部						
533	第21回	石 鋸	有鋸石刃・短鋸刃	関文	(3.7)	4	1.7	74	研磨面
534		施 俗	基底・口縁部						
535		遺物器	高台付刃・口縁部						
536		土師器	内窓环・胸部						
537		"	"						
538		施 俗	刃・頭部						
539		遺物器	刃・口縁部						
540		土器器	小形甕・頭部	10C					
541			研磨岩・削片						
542		施 俗	高台付・頭部	17C以降					
543		土器器	内窓环・口縁部	9 C					研文あり
544		遺物器	刃・口縁部						
545		土器器	刃・頭部						
546		"	内窓环・底部						
547		"	"						系切り
548		"	刃・口縁部						系切り
549		"	内窓环・底部						
550	第20回	"	"						色調一暗褐色、粘土-#60.2-1.0mmの長石・石英などを少量含む、焼成-良好
551		"	小形甕・頭部						
552		"	内窓环・口縁部						
553	第20回	青 磁	輪・底部	南宋-元					輪一淡紺色、粘土・粘土のキメが非常に細かく良質、焼成-良好
554		土器器	刃・底部						
555		"	"						系切り
556		土 器	環狀・頭部	関文後期					
557	第20回	土器器	内窓环・底部	9-10C					色調一暗褐色、粘土-#60.2-1.0mmの長石・石英などを少量含む、焼成-良好
558		"	内窓环・口縁部						
559		"	内窓环・頭部	10C					
560		灰 陶	刃・底部						
561		土器器	刃・頭部						
562		"	刃・口縁部	10C					
563	第20回	"	刃・口縁部						色調-小小すんだ赤褐色、粘土-#60.2-1.5mmの長石・石英・金雲母などをやや多量に含む、焼成-良好
564		遺物器	刃・底部						色調-青灰色、粘土-#60.2-1.5mmの砂粒をごく少量含む、焼成-良
565		土器器	刃・頭部						
566	第20回	"	刃・口縁部	11C					Ka563と同一個体、1/5倍体
567		灰 陶	刃・口縁部						
568		遺物器	刃・頭部	9-10C					
569		灰 陶	刃・口縁部						
570		"	刃・頭部						
571		土器器	刃・頭部						
572	第20回	灰 陶	刃・口縁部						色調一淡白色、粘土-砂粒をほとんど含まず、粘土は非常にキメが細かく良質、焼成-良好
573		土 器	刃・頭部	幼生後期					皮状文
574		施 俗	茶碗・口縁部						
575		土 器	底盤・頭部	関文後期					北緯文
576		遺物器	刃・口縁部						
577		灰 陶	刃・頭部						
578		土器器	小形甕・頭部						
579		"	刃・頭部						
580		施 俗	刃・頭部						

番号	地図	種別	形態	時代及び時期	計測値			特徴
					高さ (mm)	口径 (横) (mm)	側径 (厚さ) (mm)	
581		土器	环・網目					
582		土器	深林・刷毛	縄文中期				
583		土器	小形腹・網目					
584		土器	深林・刷毛	縄文後期				
585		埴	碗・網目					
586	第21図	土器	環・底部					
587	第20図	*	内巻・底部					
588	*	*	环・網目					
589	*	*	小形腹・網目	10C				
590	*	*	环・底部					
591	灰	器	瓶・刷毛					
592	第21図	土器	深林・口縁部	縄文後期				
593		土器	内巻环・口縁部					
594	*	*	小形腹・網目					
595	土器	深林・刷毛		縄文				
596			深林・刷毛・斜片	*				
597		土器	小形腹・網目					
598	*	*						
599	施	器	且・底部	10C以後				
600		土器	环・底部					
601	*	*						
602	*	*	内巻・刷毛					
603	施	器	且・底部					
604	石器	石鉢・網目のみ		縄文後期～後期	(21)	3.7	3	412
605		土器	不・底部					
606	第21図	土器	深林・口縁部	縄文中期後半				
607			墨曜石・斜片					
608		土器	腹・網目	縄文				
609	灰	器	底・口縁部					
610		土器	腹・刷毛					
611	第18図	土器	内巻环・口縁部	9～10C				
612		土器	深林・刷毛	縄文前期				
613	*	*	溶け・網目	弥生後期				
614	第21図	石器	打製石斧・短骨形	縄文	(11.5)	7.3	2.7	294
615	*	*	すり石・底片	*				
616			磨砂岩・斜片	縄文				
617			*					
618	灰	器	香炉・口縁部					
619			墨曜石・斜片	縄文				
620	灰	器	口・口縁部	15C				
621			墨曜石・斜片	縄文				
622	土器	深林・刷毛	*					
623	*	*	*	中期後半				
624	*	*	*	*				
625	*	*	*	中期				
626	*	*	*	中期後半				
627	天日	器	環					

番号	博 物 館	種 別	形 態	時代及 び時期	計測値				特 徴
					高さ 長さ	口径 (幅)	厚さ	底径 (幅)	
628	天 日 省 神 社	衡・劍形		IBC					
629		人頭・頭部		14~15C					
630		黒曜石・削片		圓文					
631	灰 砂 岩	板・頭部							
632	石 器	ナリ石		圓文					
633	青 銅			中國					
634	砂 岩	盤		18C~		10.2			
635		黒曜石・削片							
636	灰 砂 岩	板・劍形		圓文					
637	天 日 省 神 社	新滿・頭部		16C半ば					
638		砂・削片		圓文					
639	灰 砂 岩	板・劍形		18C~					
640		黒曜石・石核		圓文					
641	灰 砂 岩	墨且・頭部		15C					
642	*	直・口端部		15C末					
643	石 器	頁岩・削片		圓文					
644	灰 砂 岩	板・頭部							
645	内 耳 器	墨 那		15~16C					
646	土 器	花瓶・口端部		18C~					
647	石 器	ナリ石		中國					
648	灰 砂 岩	衡・底部		11C					
649	土 器	深鉢・頭部		圓文					
650	*	*		圓文中期後半					
651	灰 砂 岩	衡・頭部		15C					
652	省 治	大袋・頭部		15C半ば					
653		黒曜石・石核		圓文					
654	内 耳 器	器 部							
655		長石塊							
656		*							
657	磁 器	磁器時代		18C~					
658	石 器	火打ち石		中國					
659		砂岩・削片		圓文					
660	灰 砂 岩	板・頭部		15C半ば					
661	*	衡・口端部		15C					
662	上 器	鉛箔箇・頭部							
663	内 耳 器	口端部							
664	石 器	砂岩片岩・削片		圓文					
665	*	碧 石		*					
666	灰 砂 岩	衡・頭部							
667	*	小形衡・口端部							
668	*	青苔荷山礫部		IBC					
669	石 器	スクレイパー		圓文					
670	古 鏡	元祐通寶		鑄金末~宣和					
671	上 器	麻薪・頭部		圓文中期					
672		砂岩・削片		*					
673		砂岩・削片		圓文					
674	石 器	毫 石							
675	土 器	青 銅		圓文中期後半					
676	内 耳 器	器 部							

番号	種別	形態	時代及び時期	計測値				特徴
				高さ (mm)	口径 (幅) (mm)	側径 (厚さ) (mm)	底径 (厚さ) (mm)	
677	石 筒	打製石斧・錐形	縄文					鉢形片岩
678	内 耳	弱 部						
679	古 筒	簡元道貢	縄文～室町					伝統型
680		錐形・石核	縄文					
681		x 刻片	x					
682	内 耳	弱 部	15-16C					
683	x	口縁部	x					
684	x	x	x					N683と同一個体
685	x	弱 部	x					
686	x	強 部	x					23.4 色調一様褐色。粘土一こまかい、施灰一良好
687	x	弱 部	x					
688	x	強 部	x					
689	x	x	x					
690	x	弱 部	x					
691	x	x	x					
692	x	口縁部	x					
693	x	内耳部	x	15.7	27.1	27.4		色調一外唇一暗褐色、内唇一褐色。粘土一径0.5mm前後の砂粒をやや多目に含む 施灰一良好
694	x	弱 部	x					
695	x	x	x					
696	x	口縁部内耳部	x					N683と同一個体
697	x	底 部	x					
698	x	口縁部	x					
699	x	弱 部	x					
700	灰 砂	水 滴	14C	3.6	1.7	3.3		第一層淡灰色。粘土一部粒をほとんど含まず。粘土のキメも細かく良質 施灰一良好。1/2個体
701	常 清	大袋、口縁部	14-15C					施灰一褐色。粘土一径0.5-3.0mmの砂粒を少量含み、粘土のキメはかなり粗かい 施灰一良好
702	x	大袋、弱部						
703	大 日	基盤	15C半ば	5.5	12.2	4.7		第一層褐色を基調に褐色斑が点状に散る。粘土一部粒をほとんど含まず、粘土のキメ が非常に細かく良質。施灰一良好。1/5個体
704		長石塊						
705								
706	土 器	底盤・口縁部	縄文中期後半					縄文
707	x	火起部	x					*
708	x	弱部	x					縄文
709	土器	耳・弱部						
710	灰 砂	瓶、底部	28C~			3.2		色調一やや褐色味を帯びた白灰色。粘土一部粒をほとんど含まず、粘土のキメはやや あらい。施灰一良好
711	土 器	底盤・弱部	縄文中期後半					縄文、縄縹文
712	x	口縁部崎・弱部						
713		塊 石						
714	内 耳	弱 部						
715	土 器	底盤・弱部	縄文中期後半					縄文、縄縹文
716	x	x	x					縄文、縄縹文
717	灰 砂	筒茶碗口縁部						
718	土 器	底盤・弱部	縄文中期後半					縄文、縄縹文
719	x	壺形・弱部	x					色調一浅褐色。粘土一径0.2-3.0mmの長石・石英・金雲母などが多く含む 施灰一良好。円形刺突穴からび平文
720		骨 磬						
721	土 器	底盤・弱部	縄文中期後半					縄文、スヌ付帶
722	灰 砂	瓶、弱部						
723	常 清	大袋、弱部	14-15C					
724	土 器	底盤・弱部	縄文中期後半					縄文
725	石 筒	石 筒		19.3	12	11.2		

番号	持 同	種 別	形 態	時代及 び時期	計測値				特 徴
					高さ 長さ	口径 (幅)	側径 (厚)	底径 (基)	
726	灰 陶	筒・鉢形							
727	灰 陶	深基碗		16C~					灰白色陶
728	土 器	深腹・網部		縄文中期後半					陶器、陶文
729	石 器	ピエスエキニース		*	2.6	1.4	1	3	黑曜石
730	灰 陶	おろし皿							黒一灰黑色、胎土一砂粒をほとんど含まず、粘土のキメは非常に細かく品質 焼成一良好
731		黑曜石							タッカあり
732	灰 陶	深腹・口縁部		15C	8	37.5		12	色調一やや黄褐色土帶びた白色、胎土一砂粒をほとんど含まず、粘土のキメは非常に 細かく品質、焼成一良好、切跡 No733と同一個体
733	*	*							
734		硬砂岩・剥片							
735	灰 陶	おろし皿・口縁部							No730と同一個体、1/5個体
736	土 器	深腹・網部		縄文中期後半					陶器、陶向文
737	氣泡器	耳壺		9~10C					
738	灰 陶	筒・口縁部							
739	灰 陶	無網雙・網部							
740	土 器	深腹・網部		縄文中期後半					
741	*	*	*						
742	*	*	*						
743	*	深腹・網部							
744	灰 陶	筒・網部							5.4 色調一灰色一黃褐色、胎土一砂粒をほとんど含まず、粘土のキメも比較的細かい 焼成一良好
745	土 器	無網雙・網部							No730と同一個体
746	*	*	*						*
747	*	深腹・口縁部		縄文中期後半					色調一明褐色、胎土一砂粒をほとんど含む、粘土一石英・金雲母などをかなり多く含む 焼成一良好、陶器、陶向文
748		黑曜石・剥片				*			タッカあり
749		黑曜石・剥片				*			*
750	灰 陶	深腹・口縁部		15C前半					No732と同一個体、1/10個体
751	*	*	*						*
752	鐵 物	壺・口縁部		18C~					色調一黑色、胎土一砂粒をほとんど含まず、粘土のキメは比較的細かい。焼成一良好
753	灰 陶	小部耳・底部		18C~					物一淡綠青灰色、胎土一砂粒をほとんど含まず、粘土のキメは非常に細かく品質 焼成一良好
754	*	深腹・網部		15C					No732と同一個体
755	*	*	*						*
756		黑曜石・剥片							
757	此製品	瓦・片							
758	灰 陶	深腹・網部		15C					No730と同一個体
759	土 器	深腹・網部		縄文中期後半					陶器比陶文
760	*	*	*						陶文
761	灰 陶	筒・網部							
762	泥壁器	厚・壺							No737と同一個体
763	土 器	深腹・網部		縄文中期					陶器十赤緋
764	供餐品	板・狀		中世					
765		瓦石塊							
766	内 耳	口縁部							色調一明褐色、胎土一1mm程度の長石・石英含む、焼成一良好
767	陶 物	瓶子・網部							
768		長石塊							
769	鐵 物	打明透口縁部							
770	省 滑	筒・網部		14~15C					
771		長石塊							
772	土 器	深腹・網部		縄文中期					陶文
773	灰 陶	筒・網部							
774	天 日	基盤・底部		15C前半					色調一黑色一暗褐色、胎土一砂粒をほとんど含まず、粘土のキメは非常に細かく品質 焼成一良好、ヘラ切り

番号	種別	形態	時代及び時期	計測値				特徴
				高さ 長さ	口径 (幅)	側径 (厚さ)	底径 (厚さ)	
775	灰 磚	基礎層底部	15C				4.4	黄褐色、粘土一砂粒をほとんど含まず、粘土のキノもかなり細かく真剥成り良好、1/3強度、表面リットラ面あり、スズ行き
776	灰 磚	花瓶・胴部	17C					
777		墨曜石・剥片	調文					
778	青 磚	瓶・口部						選用文
779	内 耳	口縁部	15-16C					
780	石 器	長石塊						
781		硬砂岩・剥片						
782	灰 磚	平面・口縁部						
783		墨曜石・剥片						
784	灰 磚	瓶・口縁部	15C			18.2		色調一やや黒味を帯びた灰褐色、粘土一砂粒をほとんど含まず、粘土のキノは比較的細かい、此成り良好
785	灰 磚	小筒・肩部						
786	灰 磚	瓶・口縁部						
787	*	*						No.786と同一個体
788		墨曜石・剥片	調文					タッチあり
789	灰 磚	瓶・口縁部						No.786と同一個体
790	灰 磚	瓶・肩部					9.6	色調一灰褐色・暗灰色合色、内部一淡褐色、粘土一砂粒をほとんど含まず、粘土のキノはかなり細かい、此成りやや良い
791	石 器	長石塊						
792	内 耳	刷 槌	15-16C					
793	土 器	深林・胴部	調文中期後半					
794	*	*	*					色調一赤褐色、粘土一厚0.2~3.0mmの長石・石英などを少なめに含む、焼成一度 燒成+斜面文
795	石 器	敲打器	調文					燒成、環狀文
796		硬砂岩・剥片						
797	内 耳	内耳部破片	15-16C					
798		硬砂岩・剥片	調文					
799	石 器	打製・岸・短縫形	*					調節・刃部少し欠く
800	古 銀	天精造實	末					裏朱、天祐年間(997~1022)
801	内 耳	刷 槌	15-16C					
802	上 帽	深林・胴部	調文中期後半					色調一淡褐色、粘土一厚0.2~2.0mmの長石・石英などをかなり多く含む 焼成一度好、周辺無鉛文
803	*	*	調文					
804	*	深林・底部	*					
805		墨曜石・剥片	*					
806	石 器	敲打器						一部する、石英
807	土 器	深林・胴部	調文中期					調文
808	灰 磚	瓶・胴部						買入、河谷色物
809	土 器	深林・胴部	調文後半					燒成文、おこげ付壁
810		墨曜石・剥片	*					
811		長石塊						
812		輝緑花崗岩						
813	秋 磚	筒瓦筒口縁部	18C~					
814	須恵器	蒙・胴部						失 文
815	七 器	深林・胴部	調文中期					燒成+氣泡
816	須恵器	牙蓋・破片						No.737と同一個体
817	灰 磚	瓶・底部						赤褐色
818	上 帽	深林・胴部	調文					
819	*	深林・胴部	調文中期					色調一淡褐色、粘土一厚0.2~3.0mmの長石・石英などをやや多目に含む 焼成一度、底面区隔文+斜面文
820		墨曜石・剥片	調文					タッチあり
821	内 耳	刷 槌	15-16C					
822	土 器	深林・胴部	調文中期					調文
823		硬砂岩・剥片	調文					

番号	種別	形態	時代及び時期	計測値				特徴
				高さ (長さ)	口径 (幅)	側壁 (厚さ)	底径 (重さ)	
824		黒曜石・剥片	萬文中期					チッタあり
825	灰 磁	里・口縁部						
826	石 器	才力石						難解な形態
827	土 器	深鉢・網部	萬文中期後半					肩車文
828		黒曜石・剥片	"					
829	内 耳	駆 部	15~16C					
830	石 器	敲打器						一部する。敲打片岩
831	"	反石塊						
832	常 滑	大甕・網部	14~15C					
833		長石塊						
834	内 耳	網 部	15~16C					
835		長石塊						
836	内 耳	底 部	15~16C					No.849と同一個体
837	石 器	と 石						安山岩、1/2個体
838		花崗岩						
839	常 滑	大甕・網部	14~15C					
840	"	"	"					
841	古 蔵	天藍元袋	難倉末~宝町					私財
842		黒曜石・石核	萬文					
843		長石塊						
844	"	打製石器・破片	萬文					難解片岩
845	内 耳	網 部	15~16C					
846	鐵 磁	網・網部						
847	内 耳	網 部	15~16C					
848		鐵 淵						
849	内 耳	網 部	15~16C	15.4	32.1	24.8		色調一外周一淡褐色~暗褐色、内面一淡褐色~褐色、粘土一枚0.3~1.5mmの粉粒を半端に含む。鐵塊一良好
850	土 器	深鉢・網部	萬文					鐵走波線文
851	"	深鉢・口縁部	萬中期					色調一外周褐色、粘土一枚0.2~2.5mmの長石・石英・金雲母などを非常に多く含む。鐵塊一良好。口縁部に鐵の皮膜
852	"	深鉢・網部	"					鐵走波線+鐵の系縄
853	内 耳	口縁部	15~16C					
854		硬砂岩・原石	萬文					
855	灰 磁	四可蓋・網部	15C					No.1341と同一個体?
856	"	鐵・網部						
857	石 器	磨製石斧	萬文	6.1	2.8	0.8	30	定角形。黃岩
858		長石塊						
859	内 耳	口縁部	15~16C					No.849と同一個体
860	"	"	"					"
861	"	"	"					
862	石 器	すり石	萬文					砂岩
863	内 耳	網 部	15~16C					
864		青岩・剥片						
865	土 器	深鉢・網部	萬文					
866		長石塊						
867	石 器	と 石						安山岩
868		滑解物						
869	常 滑	大甕・網部	14~15C					No.776と同一個体
870	灰 磁	花板・網部						
871	"	里・口縁部						寸寸ける
872	内 耳	網 部	15~16C					

番号	地図	種別	形態	時代及び時期	計測値			備考
					高さ (cm)	口径 (幅) (cm)	胸径 (幅) (cm)	
873	東	器	器形不明	BC~				
874	石	器	骨泥引器・刮削					
875	土	器	無底壺・口部	漢文中期後半				二重口縁。陶帶貼り付け。耳みみ
876	石	器	磨石・刮削	"				タチあり
877	*	石	灰岩					
878	内	耳	刷	15~16C				
879	石	器	有孔石版・磨石	漢文	1.72	1.3	0.3	
880	灰	器	盤・刷					
881	石	器	長石盤					
882	内	耳	刷	15~16C				
883	*	石	器	"				No.882と同一個体
884	石	器	長石刷片					
885	内	耳	刷	15~16C				
886	*	灰	器	"				
887	*	*	*	"				No.883と同一個体
888	石	器	寸リ石					標印有
889	*	石	器					
890	*	*	*					
891	内	耳	刷	15~16C				
892	石	器	螺旋花崗岩					
893	内	耳	刷	15~16C				
894	古	波						質地が昔しい
895	--			--				
896	内	耳	内耳盤	15~16C				
897	灰	器	四足壺・刷	15C半ば				No.134と同一個体
898	内	耳	刷					
899	天	目	口縁刷					
900	土	器	深鉢・刷	漢文中期				施墨文
901	*	*	*	"				漢文
902	内	耳	刷					
903	石	器	石英刷片					
904	*	*	*					
905	石	器	石英火打石		5.4	3.6	2.7	66
906	灰	器	碗・口被部	BC				白・青色
907	内	耳	刷					
908	灰	器	刷・底部	11C				
909	内	耳	刷					
910	石	器	打製石斧・短彎形	漢文	11.4	3.7	1.8	136 完形、質地年老
911			黒曜石・刮削					
912	石	器	石英火打石					
913			黒曜石・石核					
914	石	器	砧板					
915			スクレーパー		9.1	1.5	0.3	1 黒曜石
916	石	器	磨製石斧・定角形	漢文	9.6	4.8	2.1	308 完形、質地年老
917	灰	器	碗・底部	15C				No.884と同一個体
918	石	器	長石刷片					
919			鐵鋤					
920	石	器	螺旋石斧					標印有
921	雪	淮	人實・刷	14~15C				

番号	種別	形態	時代及び時期	計測値			特徴
				高さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	
922	石器	と 石		8.1	2.6	2	79 安山岩、Na837と同一個体
923	灰 砂	碗・網部	17C~				
924	青 磁	・	中国・北宋				青一やや暗い緑灰色。釉土一様放電灰色。焼成一良好。文様一青草文? 嘉州窯?
925	青 磁	大盤・網部	14~15C				
926	灰 砂	豆・底部	11C~				
927	内 耳	網部					8.3 色調一灰白色。釉土一砂粒をほとんど含まず。釉土のキメは非常に細かく真實燒成一良 Na849と同一個体
928	青 磁	大盤・網部	14~15C		36.4		Na701と同一個体
929	・	・					
930		凝灰岩・削片					
931	灰 砂	碗・網部					Na764、917と同一個体
932	土 器	盃体・網部	漢文中期初				縦平行波模
933	・	砂呑・削片					
934	灰 砂	豆・口縁部					暗灰色物
935		長石塊					
936							
937	土 器	盃体・網部	漢文中期				色調一淡褐色。釉土一含0.5~1.0%の長石・石英をやや少な目に網羅を半程度含む 燒成一良、文様一内外系波文
938							
939	灰 砂	碗・口縁部	15C		31.7		色調一灰白色。釉土一砂粒をほとんど含まず。釉土のキメは非常に細かく真實燒成一良好 Na872と同一個体
940	灰 砂	豆・網部					
941		石英剥片					
942	石 器	墨端石・石核	漢文				
943		チャート・削片	・				
944	内 耳	網 部	15~16C				Na849と同一個体
945	・	口縁部					
946	青 磁	大盤・口縁部	14~15C				Na701と同一個体
947	内 耳	網 部					
948	・	・					Na849と同一個体
949	石 器	複形石器	漢文				縦凹凸筋
950	灰 砂	青瓷豆	18C~		2.5	9.7	3 色調一灰色。釉土一砂粒をほとんど含まず。釉土のキメは非常に細かく真實燒成一良好
951	内 耳	網 部					
952	土 器	盃体・網部	漢文中期				陰壓+斜圓文
953	内 耳	網 部					
954	・	・					
955	天 目	盃体・網部	漢文中期末				Na701と同一個体 粗大な波紋入波文
956	石 器	ナリ石	*				
957	・	打製石斧・複形	*		10.8	4.6	1.4 変形、縫合片岩
958	・	・					網部のみ、吸砂孔
959	土 器	盃体・網部	漢文後期				比縫文
960	内 耳	網 部					
961	青 磁	大盤・網部	14~15C				
962	灰 砂	小砂碗・口縁部					灰白色物
963	内 耳	底 部					
964	石 器	打製石斧・複形	漢文				黄碧、刃部欠く
965	・	ナリ石砲	*				
966	土 器	盃体・網部	漢文前期				センイカム
967	石 器	墨端石・削片	漢文				
968	灰 砂	碗・網部					Na917と同一個体
969	石 器	複形石器	漢文				1242変形、黄碧
970		墨端石・削片	*				

番号	博団	機別	形態	時代及び時期	計測値				特徴
					高さ 長さ	口径 (幅)	側径 (厚さ)	底径 (重さ)	
971	土器	深鉢・削部	绳文早期～前周						斜面有り
972	機物	臺・削部	15C 半ば						No.940と同一個体
973	土器	深鉢・削部	绳文						斜面有り
974	内耳	削底部	15-18C						No.949と同一個体
975		黒曜石・削片	绳文						ツチあり
976	雷器	大袋・削部	14-15C						
977	石器	ナリ石	绳文						粘板岩
978		石英塊							
979		"							
980		"							
981		"							
982	土器	砂手土器砂手部	绳文中期後半						斜面有り+縦板文
983		石英塊							
984		磁泥片岩・削片							
985		石英塊							
986		"							
987		"							
988	鉄製品								
989	灰土器	深鉢・削部							
990		灰土							
991	内耳	削部							
992		長石塊							
993		砂妙岩・削片							
994	青磁	深鉢・削部	南朝～元						
995	石器	石包丁	绳文						縦板文
996	土器	深鉢・削部	绳文後期						無文
997	灰土器	深鉢・口縁部	15C前半						No.750と同一個体
998	風呂敷	环・底部							ヘラ切り
999	土器	深鉢・削部	绳文中期						無文
1000	石器	長石塊							火打石原石
1001	"	打製石斧・短鬱形	绳文						丸形、黄碧
1002	陶器	急須	15C～						注口前方
1003	石器	深鉢・削部	绳文中期後半						光線文
1004		長石塊							
1005	土器	深鉢・削部	绳文中期後半						無文
1006		砂妙岩・削片	绳文						
1007		黒曜石・削片	"						
1008	石器	打製石斧・鬱形	"						刀部のみ、砂妙岩
1009	土器	深鉢・削部	绳文中期後半						唐草文
1010	"	深鉢・把手部	"						色調一様黄褐色、船上一様0.3-1.5mmの長石・石英・金雲母などをかなり多く含む
1011	"	深鉢・削部	"						地底一様
1012	"	"	"						
1013	"	"	"						
1014	"	"	"						
1015	"	"	"						唐草文
1016	"	"	"						色調一様黄褐色～褐褐色、船上一様0.3-1.5mmの長石・石英・金雲母などをやや多目に含む
1017	"	"	"						地底一様、文様一様
1018	"	"	"						
1019	"	"	"						

番号	種別	形態	時代及び時期	計測値				特徴
				高さ 長さ	口径 (幅)	側径 (厚さ)	底径 (重さ)	
1020	土器	蒸釜・湯器	縄文中期後半					有字文
1021		黒曜石	縄文	4.2	1.3	0.4	2	タッヂあり
1022	土器	蒸釜・湯器	縄文中期後半					有字文
1023	"	"	"					"
1024	"	"	"					"
1025	"	"	"					"
1026	"	"	"					"
1027	"	"	"					色調一灰色。粘土一層0.3~3.0mmの長石・石英などを少數含む。施成一灰研 文様一有字文
1028	"	"	"					有字文
1029	"	"	"					"
1030	"	"	"					色調一灰色。粘土一層0.3~1.5mmの長石・石英・金雲母などをやや少な目に含む 施成一灰研文様一有字文
1031	"	"	"					色調一灰色。粘土一層0.3~1.5mmの長石・石英・金雲母などをかなり多く含む 施成一灰研文様一有字文
1032	灰陶	灰・刷毛	15C					
1033	上器	蒸釜・湯器	縄文中期後半					熱帶+斜面文
1034	灰陶	灰・刷毛						
1035	"	箋・刷毛	18C~					
1036	上器	湯釜・湯器	縄文中期後半					色調一褐色。粘土一層0.3mmの砂料含む。長石・石英・雲母こまかい。施成一灰研 文様
1037	"	"	"					有字文
1038	"	"	"					"
1039	"	"	"					"
1040	"	"	"					"
1041	"	"	"					"
1042	灰陶	合子・湯器						淡緑色地
1043	上器	蒸釜・湯器	縄文中期後半					
1044	石器	打製石斧・木製品						繩津文
1045		地上地成塊						
1046	土器	湯釜・刷毛	縄文中期後半					有字文
1047	"	"	"					"
1048	"	"	"					"
1049	"	"	"					" No.1036と同一個体
1050	"	"	"					"
1051		黒曜石・刷毛	縄文					
1052	土器	湯釜・刷毛	縄文中期後半					有字文
1053	"	"	"					" No.1036と同一個体
1054	"	"	"					"
1055	"	"	"					"
1056		台形器						色調一灰色。粘土一層0.3~2.0mmの砂料を中程度含む。施成一灰研 文様一有字文
1057	"	湯釜・刷毛	"					
1058	"	"	"					No.1036と同一個体
1059	"	"	"					"
1060	石器	打製石斧・切削形	縄文	10.1	4.7	2.1	138	W形、炒者
1061	土器	蒸釜・刷毛	縄文中期後半					有字文、炒者
1062		寸切り吸片	中碳					
1063	石器	黒曜石・瓦核	縄文	3	3.2	1.9	16	
1064	常洛	大腹・刷毛	14~15C					
1065	灰陶	青釉碗・口縁部	18C~					
1066	上器	蒸釜・口縁部	縄文中期後半					色調一灰色。粘土一層0.3~2.0mmの長石・石英・金雲母などをやや多目に含む 施成一やや多い。文様一灰研文
1067	石器	黒曜石・刷毛	縄文					タッヂあり
1068	土器	蒸釜・刷毛	縄文中期後半					有字文

番号	地図	種別	形態	時代及 び時期	計測値				特 徴
					高さ (及 び幅)	口径 (幅)	側径 (厚さ)	底径 (重さ)	
1069	土 器	無刻記二重口縁部	縄文中期後半						縄文、又々ける
1070	#	深鉢・胴部	縄文中期						*
1071	灰 器	口・口縁部	BC~						
1072		青緑花崗岩							
1073	火 目	口縁部	BC						
1074		青緑花崗岩							
1075		黒曜石・削片	縄文						
1076	土 器	深鉢・胴部	縄文中期後半						色調一褐色、粒土一様0.2~3.0mmの長石・石英などをやや少な目に含む 色成一良好、文様一斜線交叉+斜点文
1077	#	#	縄文中期						
1078	#	#	縄文中期後半						
1079	#	#	"						縄文
1080	#	#	"						
1081		黒曜石・削片	縄文						
1082	土 器	深鉢・胴部	縄文中期						縄文
1083	#	#	"						*
1084	#	#	縄文中期後半						縄文+斜点文
1085	鐵 磨	合子・環部	縄文						
1086	灰 器	筒茶碗・口縁部	BC~						
1087	#	筒茶碗・胴部	"						
1088	土 器	深鉢・胴部	縄文中期						縄文
1089	石 器	打製石斧・未製品	縄文						縄文
1090	土 器	深鉢・胴部	縄文中期後半						縄文
1091	#	#	"						縄文+斜点文
1092	#	手土器・口縁部	"						又縄文+斜点文
1093	石 器	打製石斧・粗骨器	縄文	15.8	6.6	3.2	340		丸形、斜面
1094	鐵 磨	広口壺・胴部	BC 半ば						
1095	#	無把壺・底部	"						ヘラボリ
1096	#	壺・胴部	"						
1097	土 器	深鉢・胴部	縄文中期						縄文
1098	#	鉢土器・鉢下部	縄文中期後半						斜点文+斜点文、No.1082と同一個体
1099	#	台付鉢	"						
1100		青緑花崗岩							
1101	土 器	深鉢・胴部	縄文中期後半						色調一褐色褐色、粒土一様0.2~0.6mmの長石・石英などを少量含む 色成一良好、文様一斜線交叉
1102	#	深鉢・口縁部	"						斜点文
1103		瓦・破片	BC~						
1104	土 器	深鉢・胴部	縄文中期後半						縄文
1105	#	キセル字い印	"						
1106	土 器	深鉢・胴部	縄文中期後半						縄文
1107	#	#	"						色調一褐色褐色、粒土一様0.2~3.0mmの長石・石英・金雲母などをやや少な目に含む 色成一良好、文様一斜線交叉
1108	#	#	"						斜点文
1109	石 器	黄岩・削片	縄文						
1110	土 器	深鉢・胴部	縄文中期後半						
1111		砂炒器・削片	縄文						
1112	灰 器	壺							
1113	鐵 磨	壺・胴部	BC~						
1114	灰 器	壺・胴部	"						
1115		黒曜石・削片	縄文						
1116	灰 器	壺・口縁部	BC 前半	5.9	15.2			4.7	色調一褐色褐色、粒土一様粒0.2~2.0mmの長石・石英・金雲母などを多目に含む 色成一良好、斜点文+斜点文
1117	土 器	深鉢・胴部	縄文中期後半						斜点文

番号	種類	種別	形態	時代及び時期	計測値			特徴
					高さ 長さ	口径 (幅)	側径 厚さ	
1118			玄石鏡					
1119	土器	深体・胴部	縄文中周後半					直身文
1120	石器	打製石斧・短柄形	縄文					磨砂面
1121	土器	深体・胴部	縄文中周後半					絞出縄文
1122	#	#	#					色調一黄褐色、粘土一層0.2~3.0mmの砂粒を非常に多く含む。底成一良 火候一良好。
1123	#	剪手土器・口輪部	#					剪手部
1124	内耳	弱	部					
1125	鐵	鋤・口端部	JIC半ば	14.6				鋤一褐色、粘土一粉状をほとんど含まず粘土のモノは比較的細かい 底成一良好、1/8倒体
1126	#	器外・器部	縄文中葉					絞出縄文
1127	#	#	#					
1128	常滑	大腹・胴部	14~15C					
1129	鐵	鋤・口端部						
1130		黑曜石・片片	縄文					
1131	灰陶	筒・網底						緑色地
1132	七番	深体・胴部	縄文中葉					比縄文
1133	#	#	#					斜縄文
1134	#	#	#					色調一黄褐色、粘土一層0.2~2.0mmの瓦石・石英などをかなり多く含む 底成一良、文様一弦目+斜縄文
1135	陶	筒・網底	縄文					
1136	天日	筒・口端部						
1137	土器	深体・胴部	縄文中葉					直身文
1138	#	#	#					
1139	#	#	#	後半				
1140	施釉	筒・網底						絞出縄文
1141	土器	深体・胴部	縄文					灰白色地
1142	青磁	筒・網底	南宋一元					無文
1143	土器	器外・網底	縄文中葉後半					前文、直身文
1144	#	#	#					色調一黄褐色、粘土一層0.2~2.0mmの瓦石・石英・金雲母などを非常に多く含む 底成一良好、文様一弦目+斜縄文
1145	鐵	鋤・筒						直身文
1146	土器	剪手土器	縄文中葉後半					剪手部
1147	#	#	#					#、斜縄
1148	#	深体・網底						斜縄文も同様
1149	#	#	縄文中葉					無文
1150		黑曜石・片片	#					
1151	土器	深体・胴部	縄文中葉後半					無縫文+斜縄
1152	#	#	#					絞出縄文
1153	灰陶	筒・網底						緑褐色地
1154	土器	深体・胴部	縄文中葉					薄唇文
1155	常滑	大腹・胴部	14~15C					
1156	石器	打製石斧・短柄形	縄文	10.8	4.3	1.7	125	縄縫文
1157	土器	深体・胴部	縄文中葉					施釉+斜縄文
1158	#	#	縄文					無文
1159	石器	打製石斧・短柄形	#	9.5	4.7	1.8	110	兎形、壁面
1160	#	絹泥片器・片片	#					
1161	土器	深体・口端部	縄文中葉					無文
1162	石器	砂岩・網底						
1163	上器	深体・網底	縄文中葉後半					摩擦文
1164	#	#	#					色調一黄褐色、粘土一層0.2~2.0mmの瓦石・石英などをやや少な目に含む 底成一良好、文様一斜縄文
1165	#	#	#					板の波紋文
1166	鐵	鋤・網底	18C~					

番号	種別	種別	形態	時代及び時間	計測値				特徴
					高さ (長さ)	口径 (幅)	側径 (厚さ)	底径 (重さ)	
1167			墨縞石・斜片	縦文					タッカあり
1168			*	*					*
1169	土器	深鉢・胴部	*	*					無文
1170	*	*	*	*					縦縞文
1171	石器	打製石斧・斜肩形	*						刃部のみ、幅妙窄
1172	土器	深鉢・胴部	縦文中期						無文
1173	*	*	縦文中期後半						縦縞+斜縞文
1174	*	*	*						輪郭強大
1175			墨縞石・斜片	縦文					
1176	土器	深鉢・胴部	縦文中期						無文
1177	*	*	*	*					無文
1178	*	*	*	*					縦縞文
1179	*	*	*	*					無文
1180			墨縞石・斜片	縦文					タッカあり
1181			青銅・斜片	*					
1182	土器	深鉢・胴部	縦文中期						縦縞文
1183	*	*	*	*					平行比較大
1184	*	*	*	*					無文
1185	*	*	*	*					沈縞文
1186	*	*	*	*					無文
1187	灰陶	剪刀頭・口縫部							灰白色釉
1188	土器	深鉢・胴部	縦文中期						無文
1189	灰陶	瓶・胴部							ただれ
1190	土器	刃子土器	縦文中期						斜突文
1191	*	深鉢・胴部	縦文						無文
1192	灰陶	背茎陶・口縫部							灰白色釉
1193	土器	深鉢・胴部	縦文中期						無文
1194	*	*	縦文						無文
1195	*	*	*						
1196	灰陶	十字縫・胴部	18C~						
1197	灰陶	背茎陶・口縫部							灰白色釉
1198	灰陶	大甕・胴部							
1199	灰陶	豆・底部						4.5	色調一均や青緑を帯びた褐色系、灰土一枚板をほとんど有します。粘土のモノは比較的底底一均好、未成一良好、未仕上法
1200		砂岩							
1201	土器	深鉢・胴部	縦文						無文
1202	*	*	*						*
1203	石器	墨縞石・斜片	*						
1204	灰陶	瓶・底部	15C半ば					5.1	色調一均白色、灰土一枚板をほとんど有します。粘土のモノも非常に細かく良質底底一均好、未成一良好
1205	土器	深鉢・口縫部	縦文中期						
1206	*	*	*						No1205と同一個体
1207	灰陶	瓶・胴部							
1208	土器	深鉢・口縫部	縦文中期						墨縞+斜縞文、No1205と同一個体
1209	當酒	大甕・胴部	14~15C						
1210	灰陶	豆・口縫部							無色釉
1211	土器	深鉢・胴部	縦文中期						無文の縞文
1212	*	*	*						無文
1213	*	*	*						無文の縞文
1214	*	*	*						*
1215		墨縞石・斜片	縦文						No1213と同一個体

番号	種別	形態	時代及 時期	計測値				特徴
				高さ (長さ)	口径 (幅)	横径 (厚さ)	底径 (重さ)	
1216	土器	深鉢・網目	縄文中期					無大
1217	石器	長石塊						
1218	灰陶	四耳壺・網目	15C					褐色釉、No1341と同一個体?
1219	石器	長石塊						
1220	常滑	大腹・網目	14~15C					
1221	土器	深鉢・網目	縄文中期					沈縫+斜縫大
1222	*	*	*					沈縫大
1223	鉢	浅・網目	18C~					内側灰白色釉。外表面暗色釉あり
1224	土器	折子上唇・網目	縄文中期後半					色青一淡褐色。底土一鉢0.2~1.5mmの砂粒をごく少量含む。底成一直角。外縁一斜支丈
1225	*	深鉢・網目	縄文中期後半					縫合+斜縫大
1226		長石塊						
1227		*						
1228		*						
1229	と石							
1230	土器	深鉢・網目	縄文中期					縫合+斜縫大
1231	天日	碗・網目						
1232	灰陶	碗・口縫部						淡褐色釉
1233	鐵	丸・網目						沈縫大あり
1234	*	碗・口縫部	18C					茶褐色釉(外)、白色釉
1235	灰陶	皿・口縫部						暗灰色釉
1236	土器	深鉢・網目	縄文					縫合大
1237	灰陶	筒茶碗・口縫部						黃白色釉
1238	鐵	碗・網目						
1239	天日	碗・口縫部						
1240	灰陶	*						
1241	天日	碗・網目						黃白色釉
1242	土器	深鉢・口縫部	16C後半					縫合大
1243	石器	瓦器・洞片	縄文					
1244	*	雪印片岩						
1245	*	絆花片岩・網目						
1246	*	雪印片岩						
1247	土器	深鉢・網目	縄文中期後半					縫合+斜縫大
1248	*	*						縫合大
1249	*	*	縄文中期後半					縫合大
1250		粘土塊						
1251	土器	深鉢・口縫部						縫合大、No1316と同一個体
1252	*	深鉢・網目	縄文中期後半					縫合大、No1251と同一個体
1253	*	*						縫合大
1254	*	*						縫合大、No1316と同一個体
1255	*	*						*
1256	*	深鉢・口縫部	縄文					縫合大、No1316と同一個体
1257	*	深鉢・網目	縄文中期後半					無大
1258	*	*	縄文中期					*
1259	*	*						*
1260	*	*						*
1261	*	*						縫合大
1262	*	*						縫合大
1263								
1264		長石塊						

番号	博団	種別	形態	時代及び時期	計測値			特徴	
					高さ (mm)	口径 (mm)	測定 厚さ (mm)		
1265	七器	斧頭・頭部	縄文中期					丸頭文	
1266	七器	斧頭	縄文中期後半					丸頭文	
1267	七器	斧頭	縄文中期後半					縦帶+斜面文	
1268	石器	剥片石器	縄文中期後半					研磨面	
1269	石器	大盤・底盤	14~15C				13.6	色調一暗褐色、粘土一枚板をほとんど含まず、粘土のキメは非常に細かく直質 焼成一良好	
1270	石器	磨擦石	縄文					スンドスフレイバー	
1271	土器	深鉢・底盤	縄文中期後半		3.1	1.3	0.5	2	
1272	土器	深鉢・頭部	縄文中期後半					直带文	
1273	土器	深鉢・頭底部	縄文中期					無文	
1274	石器	すり石・砂岩	縄文						
1275	土器	深鉢・頭部	縄文中期					丸頭文	
1276	内耳	口沿部	15~16C						
1277	土器	深鉢・頭部	縄文中期後半					横筋圓文	
1278	土器	深鉢・底盤	縄文中期					無文	
1279	土器	深鉢・頭部	縄文中期後半					直带文	
1280	土器	深鉢・口縁部	縄文前期					色調一暗褐色、粘土一薄0.2~2.0mmの長石・石英などを中程度含む 焼成一良好、支脚一強め+筒込み	
1281	土器	深鉢・頭部	縄文中期					直带文	
1282	石器	すり石	縄文中期字~後半					摩擦石、丸頭文	
1283	土器	深鉢・頭部	縄文中期字~後半					色調一赤黄褐色、粘土一薄0.2~2.0mmの長石・石英・金雲母などをかなり多く含む 焼成一良好、支脚一強め+筒込み+直筋輪突文	
1284	土器	口縁部	縄文中期					無文	
1285	土器	口縁部	縄文中期後半					横筋+斜面文	
1286	土器	口縁部	縄文中期						
1287	土器	口縁部	縄文中期後半					直带文	
1288	石器	磨り石と磨打器	縄文	9.2	11.5	5.2	960		
1289	土器	深鉢・頭部	縄文中期					横筋文	
1290									
1291	内耳	頭部							
1292	古鏡	高花透光	縄文末~室町						
1293	土器	深鉢・頭部	縄文中期後半						
1294									
1295		長石塊							
1296	内耳	底部	15~16C						
1297	灰物	底・側部							
1298	#	#						粗紗色點	
1299	#	四耳壺	15C半ば					#, No.1297と同様体	
1300	内耳	頭部						粘土一暗褐色、粘土一枚板をほとんど含まず、粘土のキメはかなり細かく直質 焼成一良好	
1301	天日	壺・口縁部1/5	16C前半	4.7	11.7		6.5	粘土一暗褐色、粘土一枚板をほとんど含まず、粘土のキメも比較的細かく直質 焼成一良好	
1302	鐵製品	鑿							
1303	土器	深鉢・頭部	縄文中期後半					横筋+斜面文	
1304	灰物	壺・頭部						ただれ	
1305	鐵物	鐵製袋・頭部							
1306	内耳	頭部							
1307	古鏡	宣和通寶	北宋					標示、宣和年間(1100~1125)	
1308	土器	深鉢・頭部	縄文中期					無文	
1309	灰物	壺・口縁部	15C				8.5	色調一暗黃褐色、粘土一褐色、粘土一枚板をほとんど含まず、粘土のキメは非常に細かく直質 焼成一良好	
1310		黑黃石・剥片	縄文						
1311	土器	深鉢・頭部	縄文中期後半					色調一淡古黃褐色、粘土一薄0.2~2.0mmの長石・石英などを少量含む 焼成一良好、支脚一強め+筒込み+直筋輪突文	
1312	内耳	底部	15~16C						
1313		すり石						粘土質	

番号	種類	種別	形態	時代及び時期	計測値				特徴
					高さ (長さ)	幅 (幅)	厚さ (厚さ)	底面 (重さ)	
1314	石器	長石塊							
1315	*	と 石							
1316	鉄製品								
1317	灰 僧	金・銀器		15C					褐色地
1318	常 清	大蜜・調節		14~15C					
1319	土 器	深杯・浅杯		萬文中期後半					褐色地
1320	*	*		*					平行沈文
1321	青 銀	金・山珠等							色調一明緑青色、點状一乳頭、灰青色、塊状一良好、支拂一青文
1322	石 塔	之 石			14.8	4.1	3.5	247	安山岩
1323	内 耳	剪 刀							
1324	鉄 僧	金・銀器		17C					
1325	内 月	皮 部							
1326	石 器	と 石			5	4.3	2.2	82	
1327	黑曜石・斜片			萬文					
1328	土 器	深井・網部		*					
1329	常 清	大蜜・網部		14~15C					
1330	鉄 僧	貴茶碗・網部		17C					
1331	灰 僧	貴茶碗・網部		18C~					
1332		黒曜石・斜片		萬文					
1333	石 器	と 石・斜片		中世					
1334	漆器物								
1335	粘土瓦								
1336	黒曜石・斜片			萬文					
1337	土 器	深井・網部		萬文中期後半					色調一灰褐色、地土一厚0.2~2.0mmの長石・石英・全雲母などをやや多く含む 鐵成一良、支拂一鈍砂文
1338	石 器	黒曜石・斜片		萬文					
1339	石 器	十 九 石		萬文					
1340	土 器	壺・網部		萬文					
1341	灰 僧	別耳壺		15C					
1342	灰 僧	壺・網部							褐色地、No.13217と同一個体
1343	土 器	深井・網部		萬文中期					素板文
1344	灰 僧	壺・底部		18C~					淡黄白色地
1345		黒曜石・斜片		萬文					
1346	土 器	深井・網部		萬文中期					
1347	*	*		萬文中期後半					青筋+斜繩文
1348	*	*	*	*					No.1347と同一個体
1349	石 器	沙 瓶							
1350	土 器	深井・網部		萬文中期					色調一赤褐色、地土一厚0.2~2.0mmの長石・石英・全雲母などをやや多く含む 鐵成一ややあさい、支拂一鈍砂文: 淡色文
1351									
1352	鉄 僧	第2面凹形部		18C~					
1353	*	深井・底部		萬文中期					
1354	石 器	石英塊							
1355	*	硬砂岩							
1356	七 器	深井・網部		萬文中期					褐色地
1357	*	深井・口縁部		*					
1358	石 器	導管花崗岩							
1359	灰 僧	小形壺・口縁部		16C前半					黃白色地
1360	漆器物								
1361	土 器	深井・網部		萬文中期後半					青筋文
1362									

番号	種別	形態	時代及び時期	計測値				特徴	質
				高さ (長さ)	口幅 (幅)	胸径 (厚さ)	底径 (底さ)		
1363	天 目	瓦体・網目	15C半ば						
1364	灰 磁	壺形						No634と同一個体	
1365	土 磁	深体・網目	南宋中期後半					色調一褐色。粘土一層0.2~3.0mmの砂粒を中程度含む。焼成一良、文様一唐草文	
1366	*	*	*						
1367	*	深体・口縁部	*						
1368	*	深体・網目	*					唐草文	
1369	*	*	*					波紋文	
1370	*	*	南宋中期後半					唐草文	
1371	*	*						*	
1372	*	深体・口縁部	*					唐草文、唐草文	
1373	*	深体・網目	*						
1374	天 目	碗・口縁部	15C半ば						
1375	灰 磁	碗・網目	*						白色釉
1376	内 耳	碗 部	15C~16C						
1377	*	*							
1378	石 磁	立石 安山岩							
1379	灰 磁	16. 刷毛							
1380	铁 物	瓦舟底・網目							
1381	土 磁	深体・網目	南宋中期後半					繪葉地文	
1382		すずり滑器破片							
1383	铁 物	蓋・網目	16C						
1384	土 磁	深体・口縁部	南宋中期					色調一赤褐色。粘土一層0.2~2.5mmの長石・石英・金雲母などをやや少な目に含む	
1385	石 磁	打製石斧・棍棒	*	9	5.7	1	80	打製少しだけ、細胞状者	
1386		黑曜石・刷毛片	*					タッチあり	
1387	灰 磁	合子・網目							黄白色釉
1388	铁 物	碗・網目							
1389	*	深体・網目	南宋中期					繪葉文	
1390	*	*	*					*	
1391	石 磁	十九石						織紋目	
1392		長石塊							
1393	土 磁	深体・網目	南宋中期						
1394		硯炒岩・刷毛片							
1395	天 目	碗・口縁部	15C半ば		11.4			色調一褐色。褐色釉・口縁部、粘土一砂粒をほとんど含まず。粘土のキメは非常に細かく且実、焼成一良	
1396		黑曜石・石块							
1397	灰 磁	合子・網目							
1398	石 磁	有脚・石塊	南宋	2.2	1.4	0.4	0.5	チャート	
1399	土 磁	深体・網目	南宋中期						
1400	内 耳	刷毛底部						No662と同一個体	
1401		黑曜石・石塊							
1402	土 磁	深体・網目	南宋					色調一赤褐色。粘土一2mm前後の長石・石英多し、焼成一良、文様一鉛錐文	
1403		黑曜石・石塊						織紋のみ	
1404		長石塊						火打石	
1405	土 磁	深体・網目	南宋中期						
1406	*	深体・口縁部	*					織紋・鉛錐文	
1407	*	深体・網目	*						
1408	石 磁	打製石斧・短骨器	南宋					粘板岩	
1409	土 磁	深体・網目	南宋中期					色調一赤褐色。粘土一層0.2~1.0mmの長石・石英・金雲母などを中程度含む	
1410	*	*	南宋中期後半					燒成一やや薄い、文様一鉛錐文+鉛錐文	
1411	*	深体・口縁部	*					織紋	

番 号	博 団	種 別	形 態	時代及 び時期	計測 値			特 徴
					高さ (長さ)	山注 (幅)	側壁 厚さ	
1412	土 谷	茎球・頭部	圓文中用後半					ヘラ先の棘状文
1413	*	*	*					棘状頭部文
1414		圓球部繊片						
1415	土 器	茎球・頭部	圓文中期後半					茎草文
1416		硬砂岩・剥片						
1417	石 器	貝殻・剥片						
1418		陶・頭部						
1419	石 器	砂泥片岩・剥片	圓文					
1420		瓦・瓶片	中世~					
1421	*	茎球・頭部	圓文中期					階層+比較文
1422	*	*	圓文中用後半					茎草文
1423		墨鑿石・剥片	圓文					
1424	土 器	茎球・頭部	圓文中期後半					比較文
1425		硬砂岩・剥片	圓文					
1426	石 器	と 石	中世					尖峰斜面
1427								
1428		燒成粘土壤						
1429	灰 瓦	瓶・頭部						
1430	土 器	漆球・頭部	圓文中期					光澤文
1431	*	漆球・口縁部	*					無 文
1432	*	漆球・頭部	*					*
1433	*	*	*					色調一明褐色。粘土一5mm前後の砂粒を含む。焼成一良好。文様一織紋文
1434	*	*	圓文中期後半					色調一淡赤褐色。粘土一約0.2~1.5mmの長石・石英・金雲母などを多目に含む 焼成一良好。文様一織紋+斑点織文
1435	*	*	圓文中期					織紋文
1436		硬砂岩・剥片	圓文					
1437	土 器	漆球・頭部	圓文中期後半					漆草文
1438	*	*	*					色調一明褐色。粘土一径0.3~2.0mmの長石・石英・金雲母などをやや多く含む 焼成一良好。文様一織紋+斑点織文
1439	*	*	*					色調一暗褐色。粘土一約0.2~2.0mmの長石・石英・金雲母などをかなり多く含む 焼成一良好。文様一織紋+斑点織文
1440	*	*	*					織紋帶+斑点織文。No1439と同一個体
1441	灰 瓦	瓶・頭部						
1442	土 器	漆球・口縁部	圓文中期後半					色調一明褐色。粘土一3mm前後の長石・石英を含む。焼成一良好。文様一織紋帶+斑点織文
1443	灰 瓦	瓶・頭部						ヘテロリ
1444								
1445		砂 石						
1446	石 器	墨鑿石・石核						
1447	後 離	墨・口縁部	16C半ば		11.4			色調一褐色に黑色が斑状にまじる。粘土一砂粒をほとんど含まず。粘土のキメは 比較的細かい。焼成一良好
1448		墨鑿石・剥片						
1449	土 器	漆球・頭部	圓文中期					階層文
1450	*	*	圓文中期半ば後半					
1451								
1452	土 器	漆球・頭部	圓文中期					無 文
1453	*	*	*					*
1454	*	*	*					細密文
1455								
1456	土 器	粘土壤	圓文					
1457	*	漆球・頭部	圓文中期					色調一淡赤褐色。粘土一径0.3~2.0mmの長石・石英・金雲母などをかなり多く含む 焼成一良好
1458		漆球・頭部	*					色調一淡赤褐色。粘土一約0.2~1.5mmの長石・石英などをやや少目に含む 焼成一良
1459		漆球・頭部	*					加 文
1460	*	*	*					織紋文

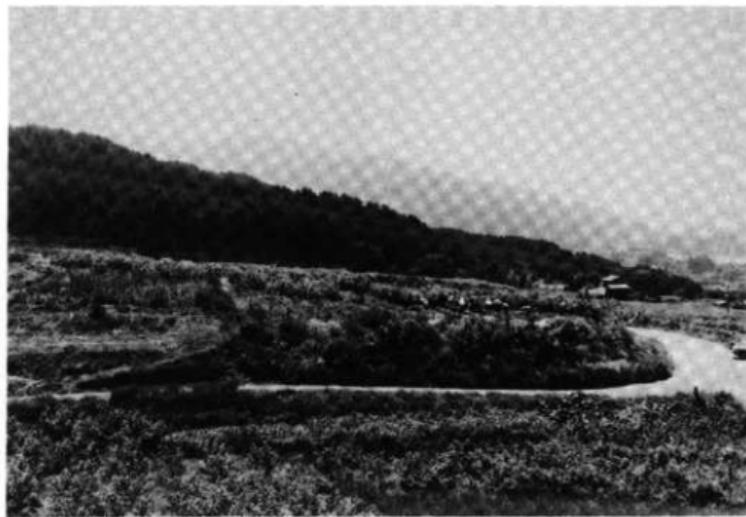
番 号	種 別	形 態	時代及 び時期	計測 値				特 徴	性 質
				高さ (cm)	口径 (cm)	胸径 (cm)	底径 (cm)		
1461	土 器	深鉢・底部	縄文中期					周代灰	
1462	#	深鉢・腹部	縄文中後半					古事文、Nagao文と同一個体	
1463	#	"	縄文中期					無文	
1464	石 器	剥片石器	#					研磨面	
1465	土 器	深鉢・腹部	#					磨擦文	
1466	#	深鉢・口縁部	#					無文	
1467	石 器	砾砂岩・剥片	#						
1468	#	青銅花崗岩							
1469	土 器	深鉢・腹部	縄文中期						
1470		輝緑斑岩							
1471	土 器	深鉢・腹部	縄文中後半					附帯+朱絵文	
1472	#	"	#					磨擦文	
1473	#	"	#					無絵文	
1474	石 器	ナリ石	縄文					青銅花崗岩	
1475	土 器	深鉢・腹部	縄文中期					附帯無文	
1476	#	"	#					無文	
1477	#	"	# 初					色調一深褐色、胎土一厚0.2~3.0mmの長石・石英・金雲母などをかなり多く含む 成一良、文様一沈絵文、舌窓の平行	
1478	#	"	#					竹管文	
1479	#	"	# 初~半ば					新絵文	
1480	鐵 鋼	塊・底部	15C						
1481	土 器	深鉢・腹部	縄文中後半					馬頭文	
1482	古 跡	元急須賀	縄文末~近町					私模範	
1483	内 耳	底 部	15~16C						
1484	石 器	ヒト石・破片						安山岩	
1485		黒曜石・右柱	縄文						
1486	石 器	黄岩・剥片	#						
1487	土 器	白付土器・器台部	縄文中期						
1488	#	深鉢・腹部	縄文中後半					色調一深褐色、胎土一厚0.2~3.0mmの砂粒をかなり多く含む、成一良好	
1489	#	深鉢・口縁部	縄文中期					色調一褐色、胎土一厚0.2~3.0mmの砂粒をかなり多く含む、成一良好	
1490	#	"	#					色調一褐色、胎土一厚0.2~3.0mmの砂粒をかなり多く含む、成一良好、文様一無文	
1491	#	深鉢・腹部	#					文様一蛇腹文・無文	
1492	灰 砂	碗・底部	11C~					無絵文	
1493	石 器	スクレイパー	縄文						
1494	石 器	長石塊							
1495	—	—	—						
1496	—	—	—						
1497	土 器	深鉢・腹部	縄文中期					北朝文	
1498	石 器	すり石・破片	縄文					研磨面	
1499	#	板石・剥片							
1500	天 日	碗・朝盤							
1501	染 付	碗・朝盤							
1502	土 器	洗槽盤・底部							
1503	灰 砂	小里・口縁部	15C初						
1504	石 器	長石塊							
1595		溶解物							
1596	石 器	打製石器・短筒形	縄文	15.2	5.6	2.5	288	光沢、研磨面	
1507		黒曜石・剥片							
1508	灰 砂	小形环・口縁部	15C~					灰白色	
1509	灰 砂	小形环・口縁部	15C~						

番号	桟 団	桟 別	形 態	時代及 び時期	計測値				特 徴
					高さ (cm)	口径 (mm)	側径 (mm)	底径 (mm)	
1510									
1511	灰	陶	各 痕	15C					No.3110と同一個体。1/3個体、又穴ける
1512	塗	付	灰、底部						
1513	土	器	深体・朝部	萬文中期					26.8
1514	*	*	*	萬文中期後半					色調・薄褐色、胎土一こまかく黒雲母含む。施成一良好
1515	*	食	物・茶入	16C半ば					縦擦文
1516	*	*	*						色調一淡赤褐色、内面一黑褐色、胎土一様0.2~3.0mmの長石・石英などをやや多目に含む。施成一良好、文様一斜溝文+斜交叉文
1517	土	器	深 芦	萬文中期後半	2.6	10.2	4.7		No.3116と同一個体。1/3個体、系切り底
1518	灰	陶	小 盆	15C半ば					色調一灰褐色、胎土一砂粒をほとんど含まず。胎土のキメは比較的細かく且実、施成一良好、1/4個体、系切り底
1519	*	*	*	*	2.2	11.6	6.3		色調一灰褐色、胎土一やや厚い砂粒台、胎土一様1mm程度の砂粒を微量含み、胎土のキメはややあらい。施成一良好、1/4個体、系切り底
1520	青	陶	碗・底部	南宋一元					
1521	石	器	すり石	萬文					
1522	土	器	深体・朝部	*					輪廓擦文
1523	灰	陶	浅且・底部	15C					No.732と同一個体

図 版



1. 青木城遺跡遠景（東南山麓より）



2. 遺跡遠景（北東より）



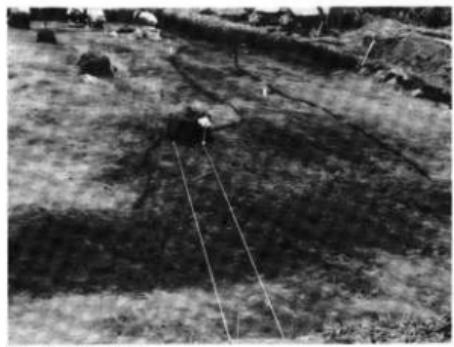
3. 調査 A 地区 グリッド掘り下げ状態



4. 調査 A 地区調査風景



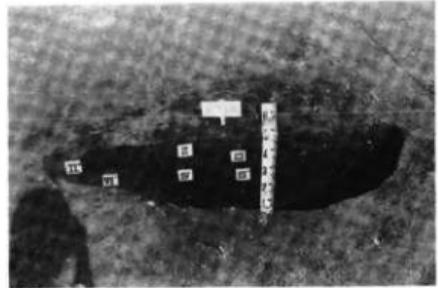
5. 縦堀ベルト設定状態



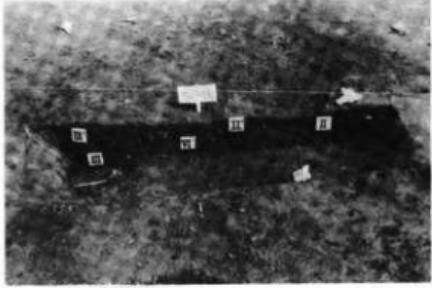
6. 縦堀・横堀



7. 柱穴址・柱列址



8. 土壌 1 号断面



9. 土壌 2 号断面



10. 縦堀、掘り下げ状態



11. 縦堀、S-N I ベルト断面



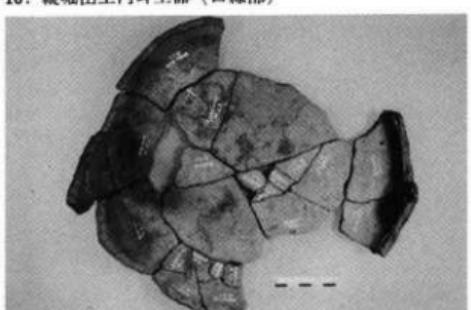
12. 同上 S-N II ベルト断面

15. 縦堀内耳土器出土状態



13. 同上 S-N III ベルト断面

16. 縦堀出土内耳土器（口縁部）



14. 同上 S-N NW ベルト断面

17. 縦堀出土内耳土器（底部）



18. 縮堀出土陶器



19. 柱穴址 1 号周辺出土きせる雁首



20. 同上 出土繩文土器



21. 同上 出土石器



22. 調査B地区グリット掘り下げ風景(東より)



23. 同上 調査風景(東より)



28. 調査B地区調査終了状態(東より)



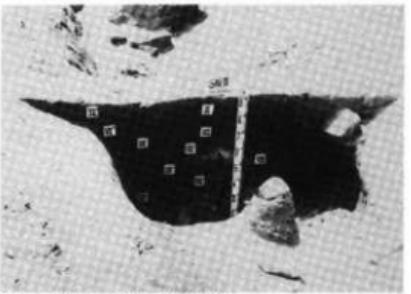
29. ローム層下掘り下げグリット



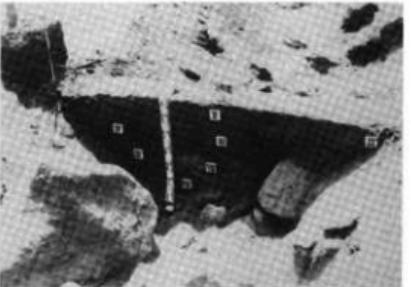
24. 縦堀掘り下げ状態



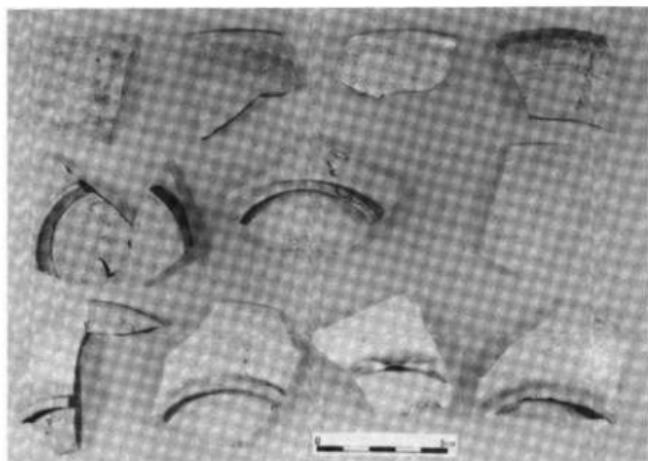
25. 同上 S-N I ベルト断面



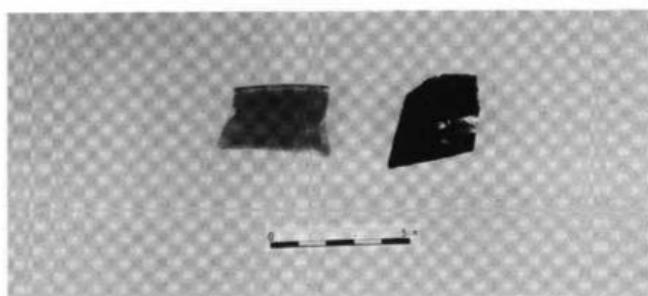
26. 同上 S-N II ベルト断面



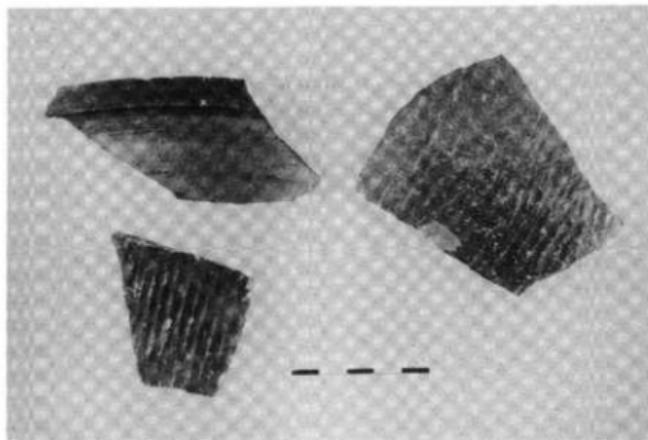
27. 同上 S-N III ベルト断面



30. 調査B地区発掘出土灰釉陶器



31. 同地区出土青磁・鉄釉陶器



32. 同地区出土須恵器



33. 調査C地区全景(南東より)



34. グリット掘り下げ状態(東より)



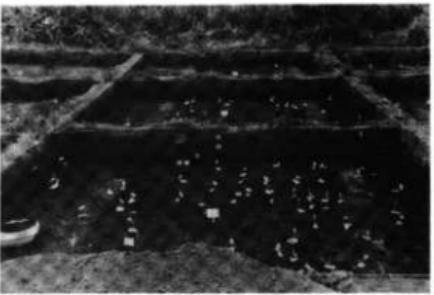
35. E～G グリット遺物出土状態



36. A・B グリット遺物出土状態



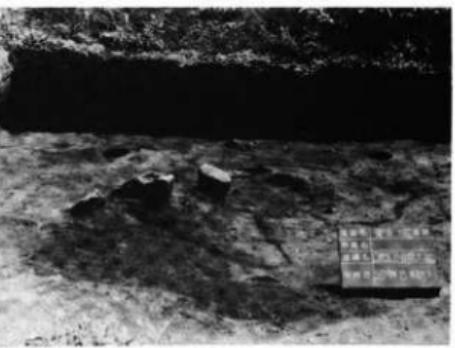
37. Q～S グリット遺物出土状態



38. M～O グリット遺物出土状態



39. 焼土集中箇所(B～G) 遺物出土状態



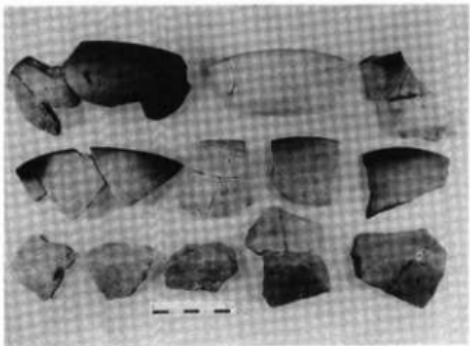
40. 焼土集中箇所



41. 烧土集中箇所遺物出土状態



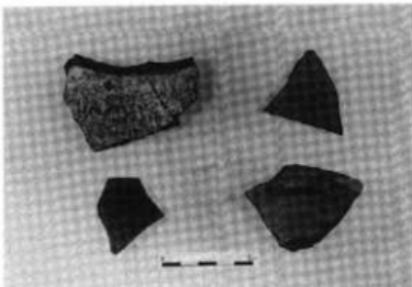
42. 烧土集中箇所礫検出状態



43. 烧土集中箇所出土土師器



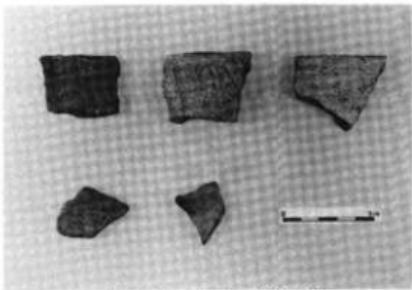
44. 烧土集中箇所出土灰釉陶器



45. C地区遺構外出土須恵器



46. C地区遺構外出土土師器



47. C地区遺構外出土繩文・弥生土器

青木城遺跡

II

例　　言

1. 本調査は、昭和59年度に実施された駒ヶ根東部土地改良区東部地区県営ほ場整備事業に先立つもので、昭和59年8月20日から9月16日にかけて調査したものである。
2. 発掘調査は、国庫・県費補助対象事業として、補助金を得て駒ヶ根市教育委員会を中心となり、駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会を組織して行った。
3. 発掘調査の中で、遺構・遺物の実測は、小原晃一、北村英恵、北沢武志が担当し、写真撮影は小原が担当した。
4. 遺物整理・報告書作成作業の中で、土器洗いは小町谷杉穂、注記は宮沢美智子が担当した。遺物の復元は小原、拓本は宮沢、遺物の実測は小池幸夫が担当し、遺物及び遺構図のトレースは宮沢、図の作成は小原、小池が担当した。写真撮影は小原が行った。
5. 本報告書の執筆は、小原が行った。
6. 本書は、調査によって明らかとなった遺構及び遺物をより多く図・表示することに重点をおき、文章記述は簡便にした。
7. 遺構・遺物関係の図面の縮尺は、その都度明示してある。
8. 遺物の表示については、その都度明示してある。
9. 遺構等の断面層位は、次のとおりである。

I 層—褐色土〈表土〉	V 層—黒色土（木炭粒含）
I'層—　　"　　〈耕作土〉（ローム粒含）	VI 層—ローム層（砂質）
II 層—暗褐色土〈　　"　　〉	VI'層—ローム漸移層
II'層—　"　　〈　　"　　〉（ローム粒含）	VII 層—III層+砂混土
III 层—暗茶褐色土（木炭粒含）	VII'層—VII層+砂・礫混土
III'層—　"　　（木炭粒・ローム粒含）	VIII 層—焼土・木炭
IV 层—黑褐色土（木炭粒含）	VIII'層—焼土・木炭+V層混土
IV'層—　"　　（木炭粒・ローム粒含）	

10. 当遺跡の出土遺物及び諸記録・図面は、市立駒ヶ根博物館が保管している。

目 次

例 言 目 次

第I章 発掘調査の経過.....	1
第1節 発掘調査に至るまでの経過.....	1
第2節 調査会の組織.....	2
第3節 発掘作業経過(発掘作業日誌).....	3
第II章 遺跡の環境.....	5
第1節 地理的及び歴史的環境.....	5
第III章 発掘調査.....	6
第1節 調査概要.....	6
第2節 造構と遺物.....	6
第IV章 まとめ.....	35

挿図目次

第1図 青木城遺跡及び周辺遺跡分布図	6
第2図 青木城遺跡調査D地区位置図及びグリッド図	8
第3図 青木城遺跡調査D地区遺構全体図	9
第4図 青木城遺跡D地区第1号住居跡・発掘実測図	11
第5図 第1号住出土遺物実測図	14
第6図 第1号住出土土器実測図	15
第7図 土壙6・7・9号実測図	15
第8図 土壙3・7・10号出土土器実測図	16
第9図 造構外出土土器実測図	17
第10図 造構外出土土器実測図	18
第11図 第2号住及び造構外出土石器実測図	19
第12図 橫樋及び造構外出土遺物実測図	20
第13図 第2号住及び土壙5・8・10号実測図	21-22
第14図 第2号住出土遺物実測図	23
第15図 第2号住及び豎穴造構1号出土遺物実測図	24
第16図 豊穴造構1号実測図	25
第17図 豊穴造構2号実測図	25
第18図 土壙1~4号、柱穴址1・2号、柱列址1・2号実測図	27-28
第19図 縦堀実測図	29-30
第20図 縦堀、横堀、土壙2号、柱穴址群、造構外出土遺物実測図	31
第21図 第2号住、豎穴造構1号、縦堀出土古鉄拓影図	32
第22図 青木城周辺小字名分布図	34

図版目次

図版1 青木城遺跡遠景、遺構全景、第1号住居跡、第1号住居跡跡土・木炭・石棒出土状態、炉址	
図版2 第1号住居跡出土深鉢形土器、出土石棒、土壙6・7号、土壙6・7号断面、土壙7号遺物出土状態	
図版3 据立柱平地住居跡、遺物出土状態、内円土器、天目茶碗、灰釉水滴、平碗、古銭出土状態	
図版4 据立柱平地住居跡四耳壺、墨書陶器皿、磨製石斧出土状態、柱穴址群、柱列址群全景、近景周辺内円土器、常滑窯出土状態	
図版5 穴立造構1号、同ベルト断面、同天目茶碗、四耳壺出土状態、土壙2号、同断面、同鐵鍬出土状態	
図版6 縦堀ベルト設定状態、縦堀全景、同ベルト断面、縦堀遺物出土状態、同鉢皿、折縁深皿、平碗出土状態	
図版7 橫堀掘り下げ状態、同遺物出土状態、同W-EI-1号ベルト断面、横堀全景、同きせる吸口出土状態	
図版8 出土圓文土器、出土石器	
図版9 天目茶碗、棱皿、印花文皿、折縁深皿、鉢皿、綠釉小皿、灰釉四耳壺、鐵釉、灰釉壺、瓶類、灰釉平碗、鐵釉茶入	
図版10 内耳土器、常滑大甕、硯・延石、鐵鍬、のみ、鐵滓、火打石、灰釉水滴、墨書陶器皿、東伊那公民館郷土史講座見学風景、発掘参加スタッフ	

第Ⅰ章 発掘調査の経過

第1節 発掘調査の経過

青木城遺跡が昭和59年度駒ヶ根東部土地改良区東部地区県営ほ場整備事業施工区域内に入り、保護協議の必要が生じたため、昭和58年9月6日に、長野県教育委員会文化課小林主事、南信土地改良事務所岩崎主任、同丸山主任、駒ヶ根市農林課倉田、市教育委員会北沢、下村、小原出席のもとに事前協議を行い、発掘調査をして記録保存を行うこととなった。調査費用の内訳は、南信土地改良事務所分362.5万円、国県補助対象事業分137.5万円（国庫補助分68.7万円、県費補助分20.6万円、駒ヶ根市負担分48.2万円）で、総額500万円、調査面積1,000m²以上という内容であった。事務手続きは以下のとおりである。

- 昭和59年1月6日 昭和59年度文化財関係補助事業計画について（提出）
4月10日 昭和59年度文化財関係国庫補助事業の内容について（通知）
4月10日 昭和59年度文化財保護事業県費補助金の内示について（通知）
5月15日 昭和59年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請について（提出）
5月29日 青木城遺跡の保護について（通知）
5月30日 埋蔵文化財包蔵地青木城遺跡の発掘調査について（通知）
7月6日 昭和59年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知
7月18日 昭和59年度文化財保護事業補助金の交付決定について（通知）
8月1日 埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約
10月27日 埋蔵文化財の取得について（届）・埋蔵文化財保管証
12月5日 埋蔵物の文化財認定について（通知）
昭和60年3月5日 昭和59年度青木城遺跡発掘調査報告書の印刷について
3月30日 埋蔵文化財包蔵地発掘調査請求書の提出について
3月30日 昭和59年度文化財保存事業完了報告書の提出について
3月30日 昭和59年度国宝重要文化財等保存整備費補助金実績報告書・同補助金交付請求書について（提出）
3月30日 昭和59年度文化財保護事業実績報告書・同補助金交付請求書について（提出）
昭和59年度文化財保護事業青木城遺跡発掘調査県費補助金の額の確定について（通知）

第2節 調査会の組織（駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会）

顧問 鈴木義昭 (駒ヶ根市教育委員長)
会長 木下衛 (市教育長)
理事 小池金義 (市教育長) <会長職務代理>
〃 友野良一 (駒ヶ根市文化財審議会会长)
〃 松村義也 (〃 副会長)
〃 林赳 (〃 委員)
〃 竹村進 (〃)
〃 中山敬及 (〃)
〃 下村幸雄 (市立駒ヶ根博物館長)
監事 北原名田造 (駒ヶ根郷土研究会会长)
〃 宮下恒男 (市役所)
幹事 北沢吉三 (市教育委員会社会教育係長)
〃 原茂 (〃 社会教育係)
〃 野々村はるゑ (市立駒ヶ根博物館)
〃 斎藤香代 (〃)
〃 小原晃一 (〃)

・青木城遺跡発掘調査団（事務所 駒ヶ根市上穂南2番15号 市立駒ヶ根博物館内）

団長 友野良一 (日本考古学协会会员) <発掘担当者>
調査員 小原晃一 (長野県考古学会会員) <〃 >
〃 小町谷元 (上伊那考古学会会員)
作業員 中村文夫、白川仁重、小林正信、宮下三郎、下島清一、渋谷吉子、小林満寿子、佐藤秋子、細田律恵、佐藤慶子、赤羽笑子、渋谷光子、下平チカエ、北村英憲、北沢武志

指導者 小林孚 (長野県教育委員会文化課指導主事)
〃 伝田和良 (〃)
〃 楠口昇一 (長野県史刊行会専門主事)
〃 桐原進 (〃)
〃 宮下健司 (〃)
〃 林茂樹 (日本考古学协会会员)
〃 氣賀沢進 (〃)

(順不同、敬称略)

第3節 発掘作業経過

・発掘作業日誌

- 8月10日 調査対象区（調査D地区）内、約1,000m²を重機により桑畠の抜根、排土を行う。
- 8月20日 テント設営。5m×5mのグリッド設定。A～Q～グリッド（以下Gとする）、S～W～Gの重機排土による残土除去作業。B・M=689,000に設定。地形測量を $\frac{1}{200}$ で行う。P・Q・T・U～Gより、古錢（元祐通貨）、青磁、内耳、常滑などが出土する。P・Q～Gに柱穴らしき落ち込みが確認される。A～B～G内より焼土・木炭集中して出土。住居跡となると思われる。
- 8月21日 引き続き地形測量を行う。遠景写真撮影。L・R、U～X、S'～U'～Gの残土除去作業。U～Gを中心として内耳土器が多く出土する。灰釉水滴破片、天目茶碗破片とともに磨製・打製石斧も出土する。焼土・木炭が集中していることから住居跡と考えられる。
- 8月22日 U～X、U'～X'～Gの残土除去作業を行う。U～Gより古瀬戸灰釉四耳壺片、V～Gよりタタキ床面が検出される。X～Gからも古瀬戸灰釉四耳壺片が出土。
- 8月23日 地形測量を行う。L'・R'・Y・Z、V'～X'～G残土除去作業。R'～Gより繩文中期後半の土器断面片出土。A～P～Gの西側、A～S'～Gの南側を拡張して掘り下げる。B～Gより石棒出土。この周辺の落ち込みを第1号住居跡とする。A～R～G内を仮清掃する。C・J・G・O～Gに土壤状の落ち込みあり。調査風景、遺物出土状態を写真撮影する。
- 8月24日 調査区内南側部分A'～S'～Gの清掃。東西に土手に沿って幅約3m位の落ち込みがあり堀状遺構とする。西から5mおきにベルトを設けI～VII区と設定する。II区～IV区掘り下げ。III区より古瀬戸灰釉折縁深皿片出土。第1号住上面清掃。焼土・木炭分布状態を平板測量。
- 8月25日・26日 行事の為、現場作業休み。
- 8月27日 雨天の為、現場作業休み。
- 8月28日 堀状遺構II～IV区掘り下げ。南側土手下に堀の底があると思われ、深さはII・III区で60～70cm、IV区で1m10cm前後と深くなる。台地は南・西へ傾斜し、堀は西から東へ徐々に深くなる状態を示している。II区より小溝と集石が検出され、折縁深皿、鉢皿が出土。III区西寄りの北壁から底中央にかけてタタキを行った面が検出される。グリッド内出土遺物平板測量。
- 8月29日 堀状遺構II～VII区掘り下げ。II区底面寄りの集石は焼けている。IV区III層（暗茶褐色土）中より古瀬戸灰釉平底陶底部片が出土。II～V区出土遺物平板測量。出土遺物写真撮影。VI区より古錢（天祐通寶）、内耳、打製石斧が出土する。
- 8月30日 堀状遺構II～VII区掘り下げ、ほぼ終了する。I区掘り下げ開始。第1号住ベルト設定、掘り下げ開始。堀状遺構I～IIIベルト清掃、判別。写真撮影。VI区より古錢（天祐通寶）出土。第1号住より繩文中期後半の土器片出土。
- 8月31日 堀状遺構I区掘り下げ。陶器片出土。II・III区出土遺物及び堀プラン平板測量。I～Vベルト断面実測、写真撮影。第1号住掘り下げ。焼土・木炭多く遺存している。

- 9月1日 堀状遺構I～Vベルト取りはずし作業。IV～VI区出土遺物・堀プラン平板測量。横堀I・II区掘り下げ。打製石斧、繩文中期土器片出土。U～W、U'～W'～G掘り下げ。常滑、内耳、墨書き陶器皿（東か東、東と読める）出土。
- 9月2日 現場作業休み。
- 9月3日 堀状遺構I～Vベルト取りはずし終了。縦堀と改名する。横堀I区掘り下げ。堀底は平らで、徐々に北東へ上がることから入口部分とも考えられる。U～W、U'～W'～G掘り下げ終了。出土遺物等平板測量。横堀III・IV区掘り下げ。砾が中層に多く、陶器、繩文土器等出土。
- 9月4日 縦堀I区、横堀I区出土遺物平板測量、写真撮影。横堀III～IV区掘り下げ。砾の集中する箇所が見られる。釣手土器片、打製石斧、灰釉陶器、常滑等出土。T・T'～W・W'～G仮清掃。タタキ床、焼土集中、柱状落ち込み顯著。出土遺物平板測量、レベル実測、写真撮影。横堀は北へ向って、掘り込みではなく自然地形に吸収されて行くと考えられる。
- 9月5日 縦堀I区堀平面平板測量。横堀I・V区掘り下げ。横堀II区遺物・砾平板測量。T・T'～W・W'～Gの遺構を第2号住とする。盤状の石列や青磁、常滑、砥石等が出土。
- 9月6日 横堀I区掘り下げ、ほぼ終了。II区掘り下げ中途。III区遺物・砾平板測量、レベル実測。H～L・N～R～Gを清掃し、柱穴址群、土壤を掘り下げる。T'～Gより長方形の落ち込み確認する。竪穴遺構1号とする。全体の写真撮影を行う。
- 9月7日 横堀II・III区掘り下げ、ほぼ終了。IV・V区遺物・砾平板測量。竪穴遺構1号ベルトを残し掘り下げ。灰釉四耳壺、鉄製品出土。土壤2～4・6号 $\frac{1}{2}$ カット。柱穴址群掘り下げ。
- 9月8日 竪穴遺構1号掘り下げ。古銭2枚、天目、内耳等出土。横堀III・IV区掘り下げ、ほぼ終了。V区中途。柱穴址群掘り下げ。
- 9月9日 現場作業休み。
- 9月10日 横堀II～V区掘り下げ、終了。土壤7号 $\frac{1}{2}$ カット。繩文中期後半台付深鉢土器の台部中層より出土。土壤5号 $\frac{1}{2}$ カット。竪穴遺構1・2号掘り下げ。出土遺物平板測量。写真撮影。
- 9月11日 第1号住掘り下げ。東壁に周溝あり。西壁は横堀によりやや切られる。竪穴遺構1号ベルト断面実測。横堀II～V区ベルト清掃。II～IV区ベルト断面実測。写真撮影。
- 9月12日 第2号住柱穴掘り下げ、平板測量。2号住床面より土壤8・10号検出。横堀II～V区ベルトはずし。清掃。竪穴遺構1号ベルトはずし。柱穴址群掘り下げ。写真撮影。
- 9月13日 第1号住柱穴掘り下げ。土壤1～6号断面実測。土壤8～10号 $\frac{1}{2}$ カット。第2号住焼土・木炭除去。鉄釉茶入 $\frac{1}{2}$ 個体、天目茶碗 $\frac{1}{3}$ 個体出土。
- 9月14日 第1号住プラン実測。土壤7～10号断面実測、掘り下げ。竪穴遺構1・2号プラン実測。柱穴址群プラン実測。写真撮影。地面の搖れがわかる程、大きな地震あり。
- 9月15日 第1号住ベルトはずし、清掃。第2号住平板測量。横堀I区清掃。器材整理。
- 9月16日 第1号住プラン実測。発掘調査区域全体写真撮影。器材撤収。本日にて調査終了。

第II章 遺跡の環境

第1節 地理的及び歴史的環境

当遺跡は、駒ヶ根市東伊那火山3499-1・2・4、3500-1、3501番地に所在する。国鉄飯田線太田切駅より北東へ約4kmに位置し、標高は690m前後である。

遺跡地は、諏訪湖より、流れ出て南下する天竜川の左岸で、その支流となる塩田川が造り出した扇状地の南側の小高い舌状台地上に立地し、塩田川との比高差は約30mを測る。この舌状台地は、東方の山麓より西に向って形成されており、東西約450m、南北約100mを測り、標高730mから690mへかけて傾斜している。台地は大観して中央部（標高700～705m）より東が傾斜が強く（約10°）、西へかけて徐々に弱くなる。この傾斜が弱くなる先端部は、東西80cm、南北50cmの規模で迫り出している。周囲より5m程高い。この先端部の西側約40m離れて高遠往還（現在の主要地方道伊那・生田・飯田線）が北の火山嶺へ向って南北へ走っている。

天竜川の左岸段丘の東伊那地区から中沢地区にかけては、中世の城跡が数多く存在している。第1図中、北より13は大久保城、15は高田城、24は稻村城、25は稻村古城が段丘上に位置し、扇中央部には、19城村城、20小城（「城村古城」）が位置している。いずれも、高鳥谷山、戸倉山を初めとする伊那山地から天竜川へと西流する河川が造り出した扇状地上に位置し、周辺には何川による自然断崖をもつことが特徴である。地形的に見ると青木城は、他の城とは様相が異なり、山麓寄りに位置することになる。

城跡以外に当遺跡に関連する史跡としては、天正棟札が保存されている4の高山神社がある。この外、東伊那地区には、2青木（平安・中世～近世）、3青木北（縄文・平安）、5火山（縄文）、7上塩田（縄文・平安・中世）、8は石経塚（中世～）、9栗林神社東（弥生後期）、10善込（弥生後期）、11垣外上（弥生）、12箱疊（平安・中世～近世）、16反目（縄文）、17遊光（縄文）、18反目南（縄文）、21桃山（弥生）、22桃山古墳（消滅）、23柏原古墳（消滅）、26殿村（平安）、27山田（縄文）、28丸山（縄文・弥生）、29狐久保（縄文・弥生）、30福荷古墳がある。

特に、6塩田城は近接する中世城跡として関連が注目される。また、7上塩田遺跡からは、昭和57年度の発掘調査により15～16Cの天目茶碗、古瀬戸灰釉、青磁等が出土しており、当遺跡の出土遺物と似る点、距離的に近いことなどから、同一の生活・生産基盤をもつ領域内の遺跡としても考えられる。



第1図 青木城遺跡及び周辺遺跡分布図 ($S = 1/25,000$)

第Ⅲ章 発掘調査

第1節 調査概要

調査に先立ち、調査D地区及び周辺の桑畠、野菜畠の表面採集を行い、縄文中期後半土器片、石器、古瀬戸灰釉、近世陶器等を採集する。

調査方法は、発掘調査に先立ち、重機による桑の抜根、表土排土を行った。排土後、調査区の南西隅を基点として、台地の南北軸にはば沿って、5m×5mの主杭を打ち、グリット単位とし南側より北へ向いA'・A～F、G'・G～L、M'・M～R、S'・S～X、S'''・S'～X'を東へ平行して設定した。西側と北側については、内側のグリットにグッシュを付した。

層位の確認については、表土が15～30cmと浅く、重機により遺物包含層上層及び部分的にはローム面まで排土したので、遺構内のみ調査することになった。遺構は、住居跡、竪穴遺構、土壙、堀について断面実測を行った。

出土遺物は、排土後のものについて全点ドットし、平板測量を行い、レベルを実測し、主たるものについて写真撮影を行い取り上げた。総数で約900余点を数える。

発掘調査面積は、約1,000m²である。

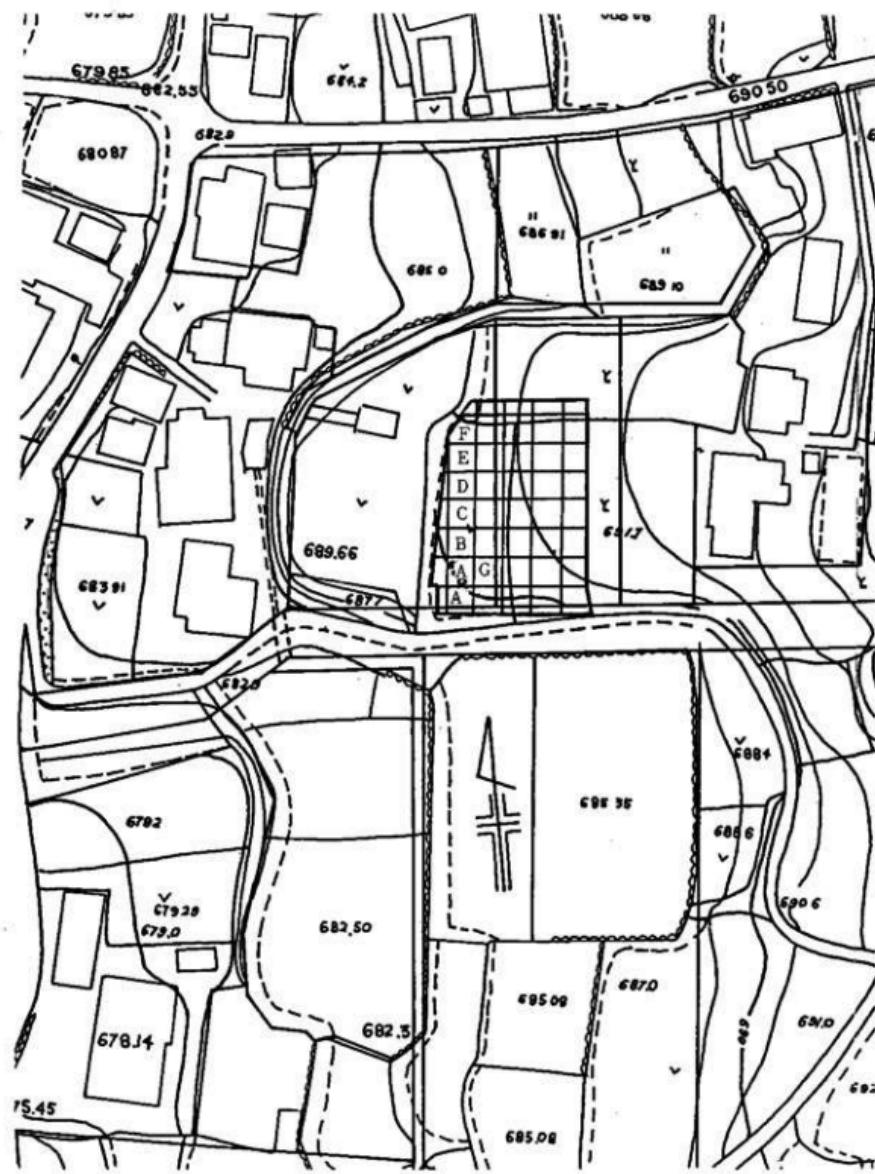
検出された遺構は、縄文時代中期後半の住居跡1軒、同時期土壙4基、中世期の住居跡1軒、竪穴遺構2基、土壙1基、柱穴址群・柱列址群・横堀・縦堀（以上城館址の施設として考えられる遺構）、時代不明土壙5基である。

第2節 遺構と遺物

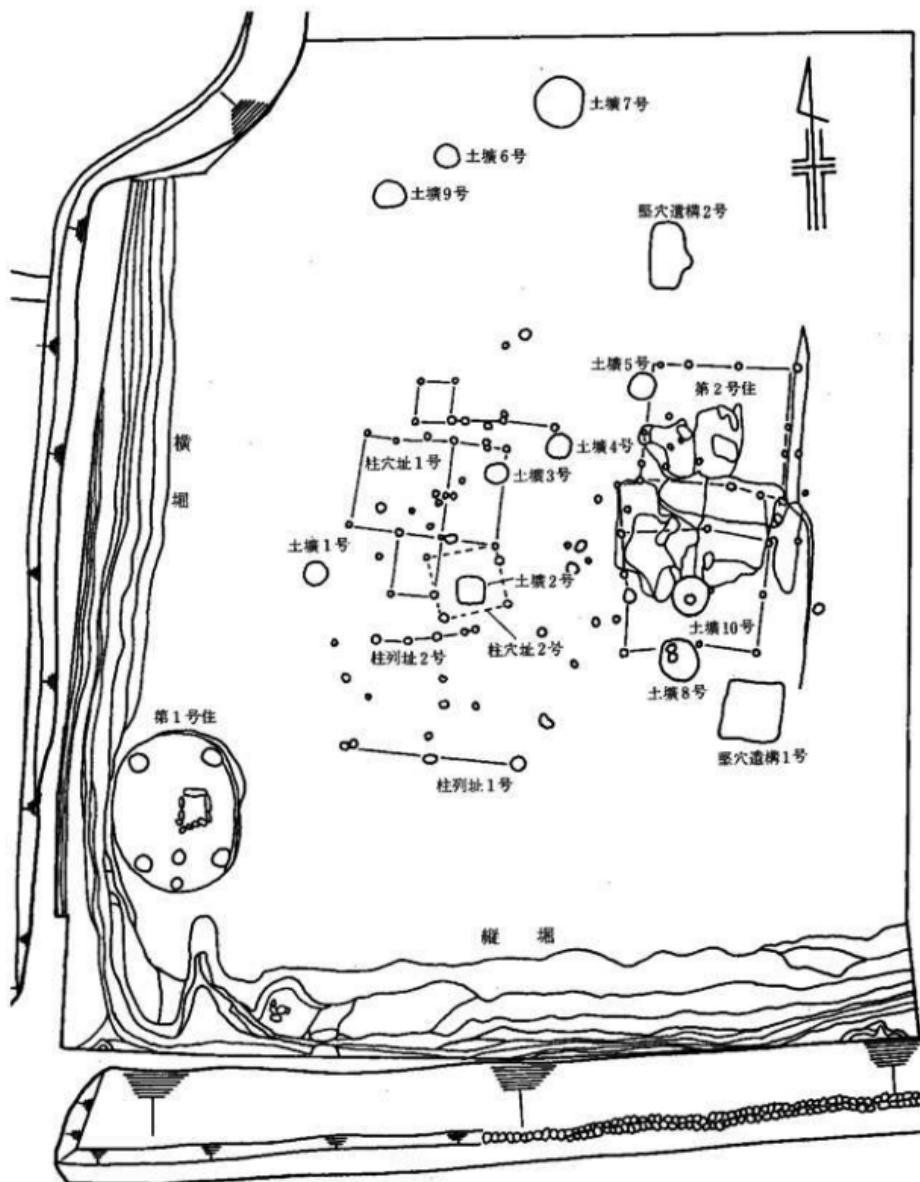
遺構と遺物は大別して縄文時代中期後半と中世期のものであるので、縄文時代から順を追って記述して行く。

〈縄文時代〉

第1号住居跡 本跡は、調査区の南西隅より検出された。規模は、南北5m×25cm、東西4m×15cmを測り、ほぼ橢円形をしている。壁は現状では東壁で10cm、北壁で15cm、南壁から西壁にかけては、壁は現存しない。本来は壁高が最低50cm前後はあったものと推定できるが、耕作・開墾時による削土か、又は室町期の居住地の整地時等で削土されたものと考えられる。主柱穴は、P₁・P₃・P₄・P₆の4本を考えられ、P₁・P₆はほぼ円形で、P₃・P₄は橢円形に近い。深さは44cmから54cmを測る。P₄には底に深さ38cmの柱穴と、北西壁にP₅深さ65cmの柱穴があり、このP₅が柱穴の中で最も深いことが注目される。また、南壁寄りにあるP₂は入口部をなす柱穴と考えら



第2図 青木城遺跡調査D地区位置図及びグリッド図(S=1/1,000)



第3図 青木城遺跡調査D地区遺構全体図(S = 1/200)

れる。P₇～P₉は、当地域の気象上、西風が強いことから、防風の為の柱穴とも考えられる。西壁は、横堀により若干切られている。

周溝は現状では、東壁に見られ、幅10cm深さ5cmを測る。基盤が東から西へ傾斜していることから構築時そのままである。

炉は床面中央東壁寄りに設けられており、南北（長軸）1m30cm、東西（短軸）1mを測り、ほぼ長方形をなす。炉石には、長さ80cm幅30cm厚さ12cmの花崗岩をはじめ、東側・南側にもやや小形であるが長さ55～60cmの花崗岩を用い、形状はやや大きな炉に属す。北側を除き、炉石は複数で一辺を構成する。炉内は、底に焼上層10cm前後、焼土+暗茶褐色土混上層5～15cm、暗褐色土+焼土層10～15cmが堆積していた。炉底は堅い。炉石にはほぼ接する状態で、長さ約20cmの石棒が炉内に頭部を向けて遺存していた。

床面は割合堅いが、柱穴と炉の間には床面全体にわたって、直径10～15cm、深さ15cm前後的小穴がある。これらの中で、炉の西側約80cmの床面には南北に7本の小穴が並び、又、南西に20cmと34cmの小穴が見られ、棚等の内部構造を示すものであろう。なお、床面北壁際には、長さ35cm、幅30cm、厚さ5cmの風化した粘板岩が遺存していた。床面を含め覆土には、木炭・焼土がほぼ一面に遺存しており、火災があって上屋が消失したとも考えられる。

遺物 本跡から出土した遺物は、壁自体が削土された可能性が強く、その為、西側の横堀に流れ込んでおり、住居跡に伴って出土したものは少ない。以下は床面より出土している。

第5図1は、大型の無頸甕である。破片が全體の $\frac{1}{8}$ 個体のみで、器形復原は控えた。口唇部は肥厚させ凹みをもち、内彎している。口唇部直下は無文帯をもち張り出している。刺突文を間にもつ2条の横走隆帯と連続する隆帯唐草文を貼り付け、地文にはヘラ状施文具で斜条線を施す。底部は網代底である。外面には炭化物が付着している。4は半截竹管による連続刺突文を伴う横走隆帯と半截竹管の背による沈線重弧文で文様構成される。5は懸垂隆帯文と結節縄文を施す。結節縄文は隆帯との間が磨り消されている。6は底部片で、器面には縦の沈線文が施され、網代底である。第6図1は深鉢形土器胴下半部で、2条ないし3条の懸垂隆帯と蛇行隆帯を貼り付け、地文には棒状施文具で綾杉文を交互に施す。第5図1、4、6、第6図1は唐草文系III（曾利III・IV式）に位置付けられ、第5図5は同時期である。

第5図2は地文は無文で、幅広の隆帯を貼り付けその上にヘラ状文具で斜めの刻み目を付ける。器壁厚は5mmで、色調は灰褐色、胎土に長石・石英粒が多く含む。内面はナデ整形。器壁は厚いが、文様・色調・胎土からみて繩文前期前半に位置付けられる。3は擦りのしっかりしたLRの斜縄文を施し、施文間には移行時の乱れた縄文の痕跡が残る。縄文中期前半に位置付けられる。

7は1号住の炉南西わきから出土した石棒で、長さ19.2cmで基部直径11cm～12cmを測り徐々に太くなる。頭部は直径12.4cmを測る。砂岩製でやや風化が進んでいる。調整は全体を敲いて成形し、頭部上面と側面は磨っている。頭部の凹みは弱いが、意識的に削り込んでいる。

土壤3号 本跡は調査区のほぼ中央から検出された。長軸72cm、短軸62cmの不整円形で、深さ